

海軍特別大演習觀艦式記録

W352  
2



0057918000

0057918-000

W352-2

海軍特別大演習觀艦式記録

兵庫県・編

兵庫県

1931

AJG



昭和九年二月一日

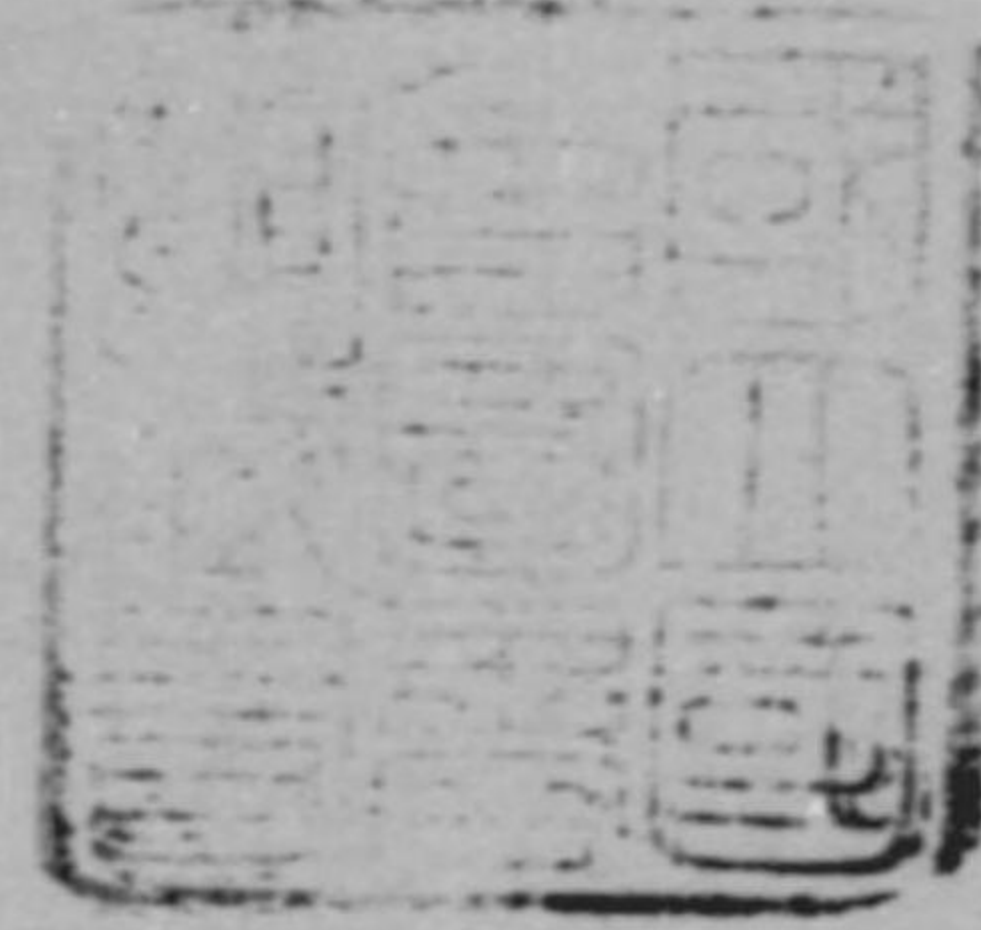
江木

翼  
殿寄贈

昭和五年  
海軍特別大演習  
觀艦式記錄

立憲民政黨  
政務調查館  
圖書之印

W-352  
2



794918

序

聖上 大統ヲ嗣ガセ給ヒテ益々銳意治ヲ圖ラセ給ヒ萬機ヲ總攬セサセ給フ旁親ラ方ヲ省シ武ヲ閱シ寧處ニ遑アラセ給ハズ昭和四年六月畏クモ本縣ニ 行幸アラセラレ昨秋復觀艦式ヲ神戸沖ニ於テ舉ゲサセ給フ鬪艦艦艙銳ヲ拔キ精ヲ集メ空軍又之ニ參加シ隊列ハ整齊操縱ハ精鍊ニシテ帝國海軍ノ前途洵ニ洋洋タル者アリ此ノ日ヤ明治四十一年以來ノ盛舉ヲ拜セント欲シ老ヲ扶ケ幼ヲ携ヘ遠近集ル者數百萬海トナク山トナク人影ナラサルハナク皆額手瞻望シテ 皇威ノ彌々揚ガルヲ慶シ 慈雨ノ屢々下ルヲ喜ビ驩虞ノ聲港外ニ溢レ眞ニ空前ノ壯觀タリキ然リ而シテ此ノ間水陸共ニ事ナク快晴裡ニ盛儀ヲ終ハラセ給ヒシコトハ是偏ニ 聖德ノ致ス所ナリト雖モ抑亦關係諸員ガ寢食ヲ忘レテ協力事ニ當レルト縣民諸氏ノ至誠奉公ノ賜トニ由ラズンバアラズ誠ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ是ニ於テカ盛事ヲ不朽ニ傳ヘント欲シ爾來記念誌ノ編纂ニ着手シ今ヤ其ノ功成ルヲ告グ乃チ一言ヲ卷首ニ述ベテ以テ序トナス

昭和六年三月

兵庫縣知事 岡

正 雄

備考

記事ノ内容多少重複ノ嫌ナキニ非サルモ這ハ本記録カ觀艦式ノ御狀況ト事務的方面トヲ分割編輯ノ方法ヲ採リタルカ爲ナリ。

昭和五年特別大演習 觀艦式記錄

第一編 總論

第一章 觀艦式

第一節 神戸港ニ於ケル觀艦式ノ沿革

第一款 天保山沖觀艦式	一
第二款 第一次海軍觀兵式	二
第三款 第二次大演習觀艦式	三
第四款 第三次大演習觀艦式	三
第五款 第四次大演習觀艦式	四
第二節 昭和五年海軍特別大演習	五
第三節 神戸港御臨幸	八
第四節 再ヒ 聖上ヲ奉迎ス	一〇
第五節 全艦隊入港及豫行演習	一〇
第一款 全艦隊ノ入港(十月二十三日)	一〇

第二款	觀艦式豫行演習	二
第六章	觀艦式	二
第一款	當日ノ御模様	一三
第二款	御式次第其ノ他	一三
第三款	御親閱	一七
第四款	勅語	一八
第七節	奉祝ノ施設	一八
第一款	陸上ニ於ケル催	一八
第二款	海上ニ於ケル催	一九
第三款	奉祝歌	二三
第二章	天機奉伺、陪觀、賜饌	二三
第一節	天機奉伺	二三
第一款	知事市長等ノ天機奉伺	二三
第二款	上表	二四
第三款	縣治一斑、獻上品、傳獻品	二六
第四款	一般天機奉伺	二七
第二節	陪觀及賜饌	二八

第一款	皇族殿下御陪觀	二八
第二款	一般陪觀及賜饌者	二九
第二編	觀艦式事務	三
第一章	總論	三
第一節	概說	三
第二節	處務規程ノ制定及部署ノ決定等	三
第一款	處務規程ノ制定	三
第二款	部署ノ決定及部係長委員等ノ任命	三四
第三節	臨時縣會及豫算	四九
第一款	臨時縣會	四九
第二款	豫算	五三
第四節	警察署長會議	五五
第五節	施行事務ノ概要	五七
第二章	庶務部	六九
第一節	秘書	六九
第一款	委員ノ任命並ニ徽章	六九

第二款	文書ノ發受並ニ整理	六九
第三款	天氣豫報	七〇
第四款	名部係並ニ廳外トノ連絡	七一
第二節	拜 謁	七一
第一款	天機奉伺ニ關スル事務	七一
第二款	夜景見物招待事務	八三
第三節	獻 上 品	八六
第一款	事務計劃	八六
第二款	獻 上 品	八九
第三款	傳 獻 品	九二
第四節	賜 饌	九三
第一款	計 劃	九三
第二款	實 施	一〇一
第五節	庶 務	一〇五
第六節	經 理	一〇六
第三章	接 伴	一〇八

第一節	陪 觀	一〇八
第一款	事務概要	一〇八
第二款	實施ノ狀況	一一一
第二節	奉 迎 送	一一三
第一款	事務計劃	一一三
第二款	豫算並ニ決算	一一八
第三款	實施ノ狀況	一一八
第四款	觀艦式當日ノ模様	一二九
第五款	餘 錄	一二九
第三節	一 般 拜 觀	一二〇
第一款	計劃並ニ豫算	一二〇
第二款	海上拜觀ニ關スル事務	一二〇
第三款	陸上拜觀ニ關スル事務	一二四
第四節	學 生 拜 觀	一二〇
第一款	事務計劃	一二〇
第二款	實 施	一二一
第五節	來 賓	一二六

第一款	事務計劃	一三六
第二款	實 施	一三七
第六節	外 務	一三九
第七節	新聞記者	一四〇
第一款	事務委員ノ囑託	一四〇
第二款	事務計劃	一四一
第三款	豫 算	一四三
第四款	實 施	一四三
第八節	記 錄	一五二
第一款	事務分掌並ニ豫算	一五三
第二款	記 錄	一五四
第三款	上表ニ關スル事務	一五八
第四款	記念繪葉書	一六〇
第五款	活動寫眞並ニ普通寫眞ノ撮影	一六〇
第六款	實施ニ當リ困難又ハ便宜ヲ感シタル事項	一六五
第四章	工 營	一六八
第一節	營 繕	一六八

第二節	土 木	一七一
第五章	警 務 部	一七三
第一節	規程、訓令、照會、通牒、豫算等	一七三
第一款	警務部事務分掌規程並ニ水上警衛隊心得	一七三
第二款	訓令、照會	一八三
第二節	警 衛	一九〇
第一款	主管事務並ニ事務分擔	一九〇
第二款	警衛警備計劃	一九一
第三款	皇族貴顯ノ警衛警護	一九九
第四款	應援員ノ服裝其ノ他	二〇二
第五款	臨時警察電話ノ架設	二〇二
第六款	自動車ノ配車	二〇三
第七款	應援警察官吏ノ宿舍及賄	二〇三
第八款	餘 錄	二〇四
第三節	外 事 警 察	二〇五
第一款	計劃及施設狀況	二〇五
第二款	外國人ノ一般狀況ト觀艦式當日ニ於ケル狀態	二〇七



第三款 餘錄	二〇八
第四節 情報	二〇八
第一款 計劃	二〇八
第二款 豫算	二〇九
第三款 通牒、通報、照會等	二〇九
第四款 取締員編成、取締心得其ノ他實施ノ狀況等	二一八
第五節 特別高等警察	二二三
第一款 計劃	二二三
第二款 警衛員配置	二二五
第六節 保安	二二七
第一款 銃砲火藥類其ノ他危險物品取締	二二七
第二款 電氣工作物及軌道運輸取締	二二三
第三款 瓦斯工作物監督警備	二四〇
第四款 諸營業取締	二四〇
第五款 風紀取締	二四二
第六款 催物取締	二四二
第七款 火災特別警備	二四二

第八款 交通取締	二四三
第七節 水上警察	二四八
第一款 計劃	二四八
第二款 準備	二六〇
第三款 實施	三〇二
第四款 結果	三〇九
第五款 餘錄	三五
第八節 刑事	三六
第一款 事務概要	三六
第二款 計劃並ニ實施	三七
第九節 工場	三九
第十節 衛生	三三
第一款 計劃	三三
第二款 豫算	三四
第三款 防疫	三四
第四款 保健	三一

第五款 救 護.....	三五
第六款 精神病者ノ視察取締.....	三六

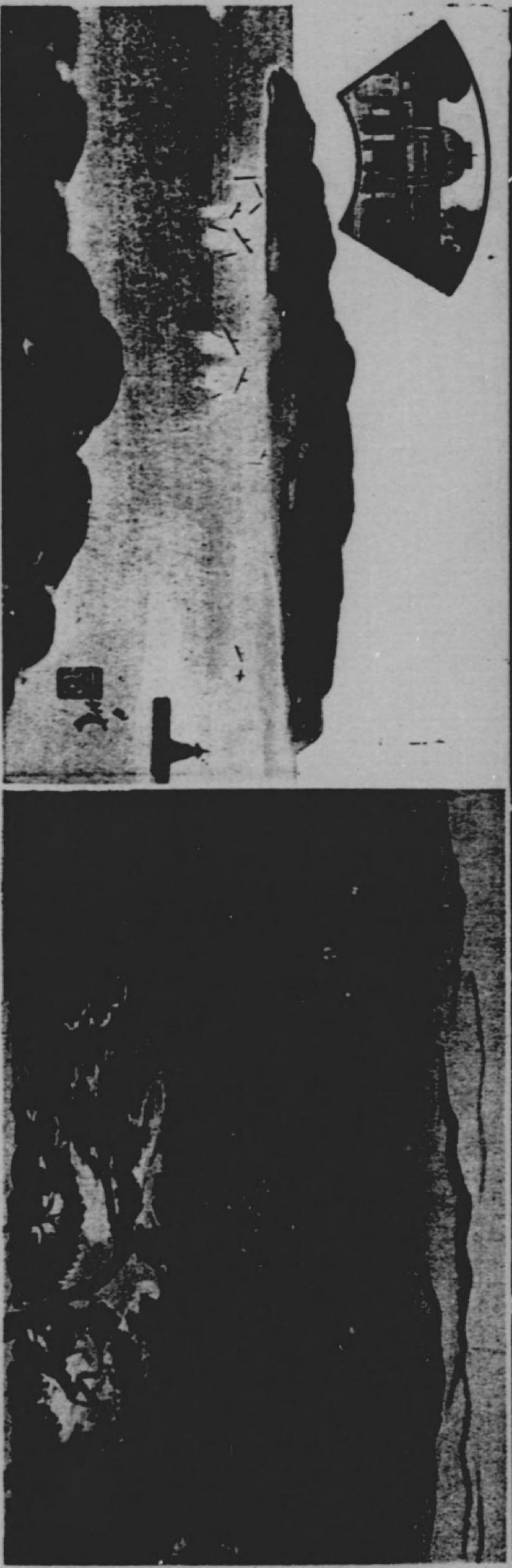
(終)

第五款 救 護……………三三

第六款 精神病者ノ視察取締……………三六

(終)

海戶村 畫葉紀念記



島路溪

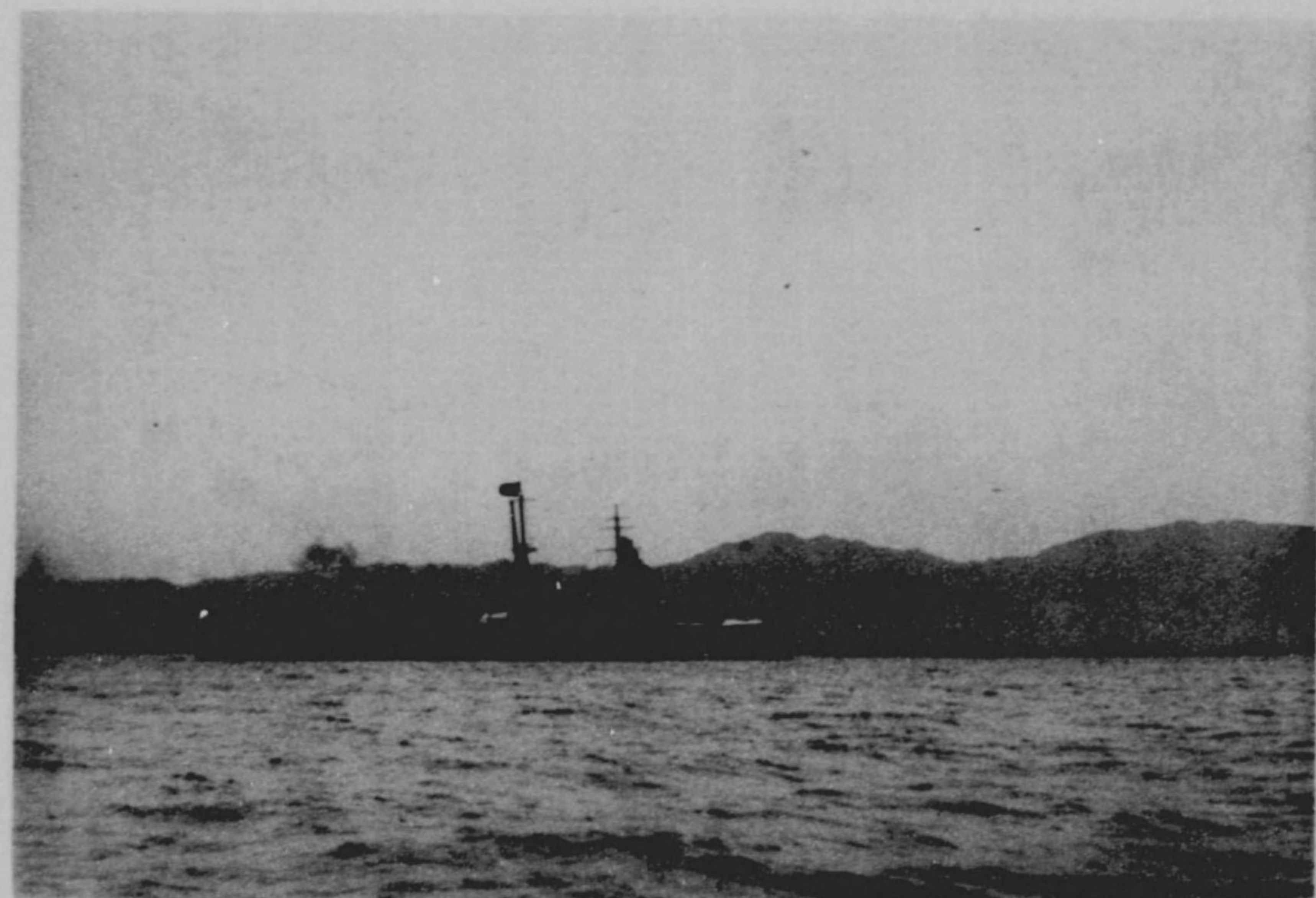
海戶村

兵 車 場 圖





鳥 霧 艦 召 御



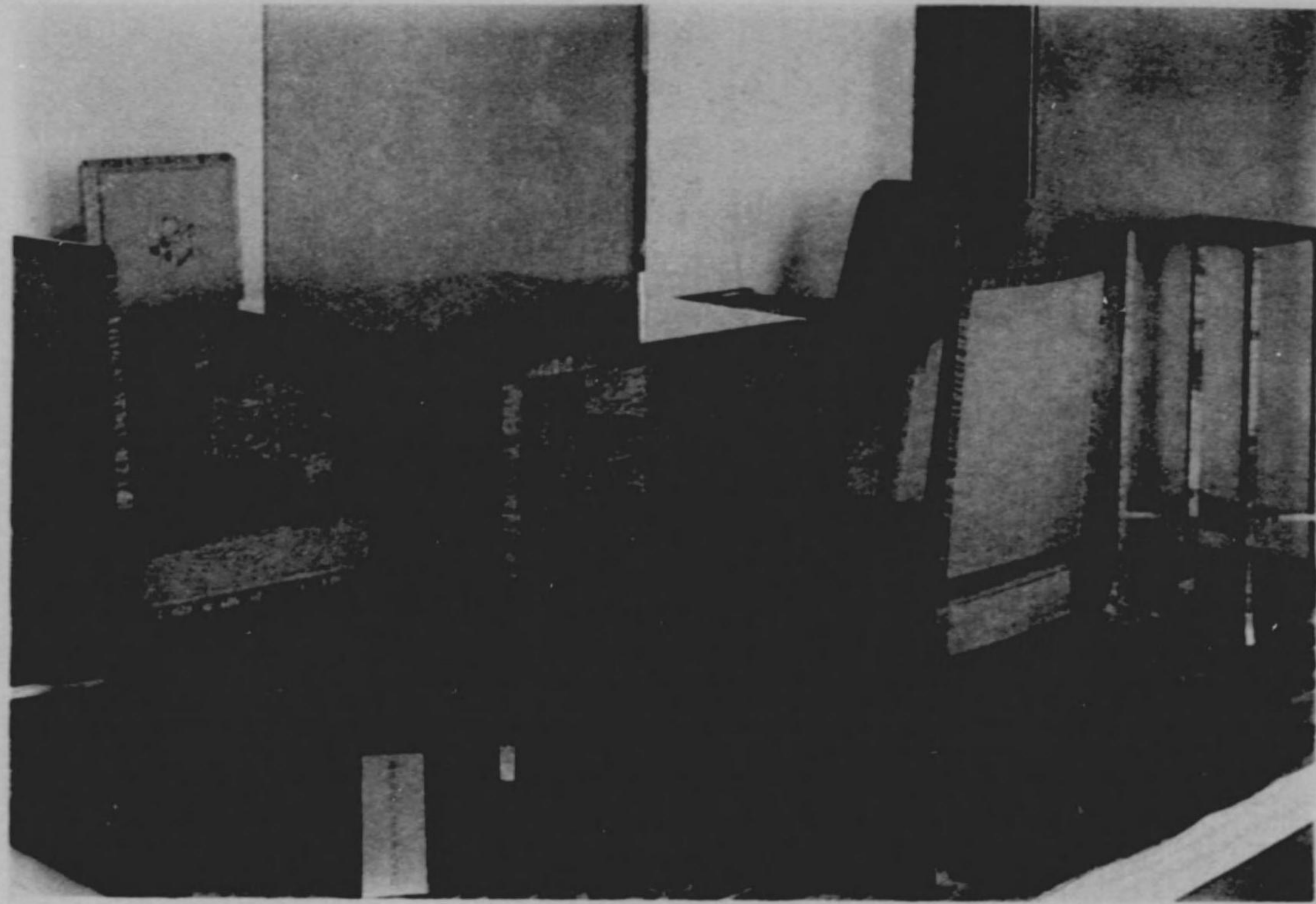
黒 羽 艦 召 御



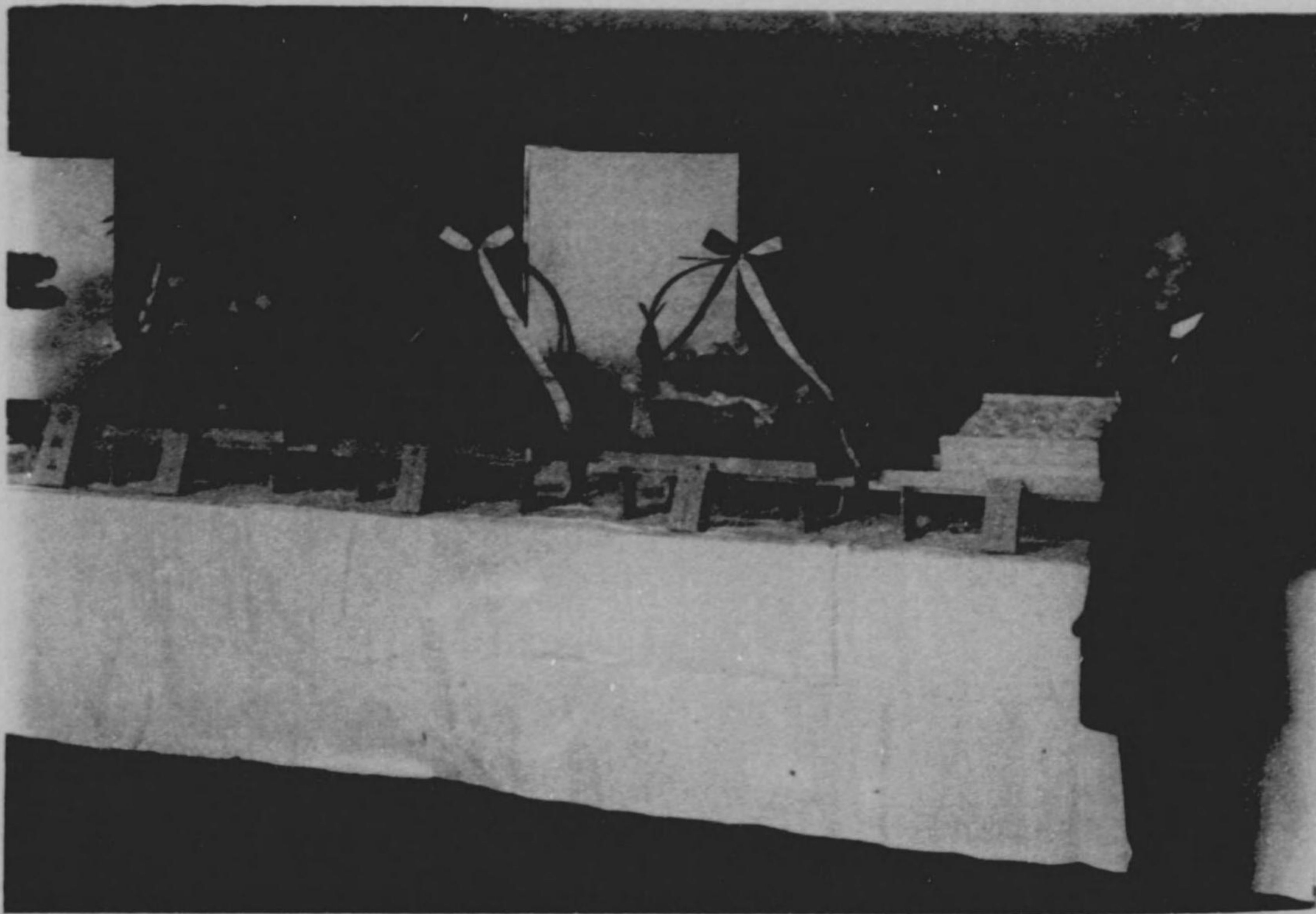
兵 庫 縣 知 事 上 表



兵 庫 縣 會 議 長 上 表

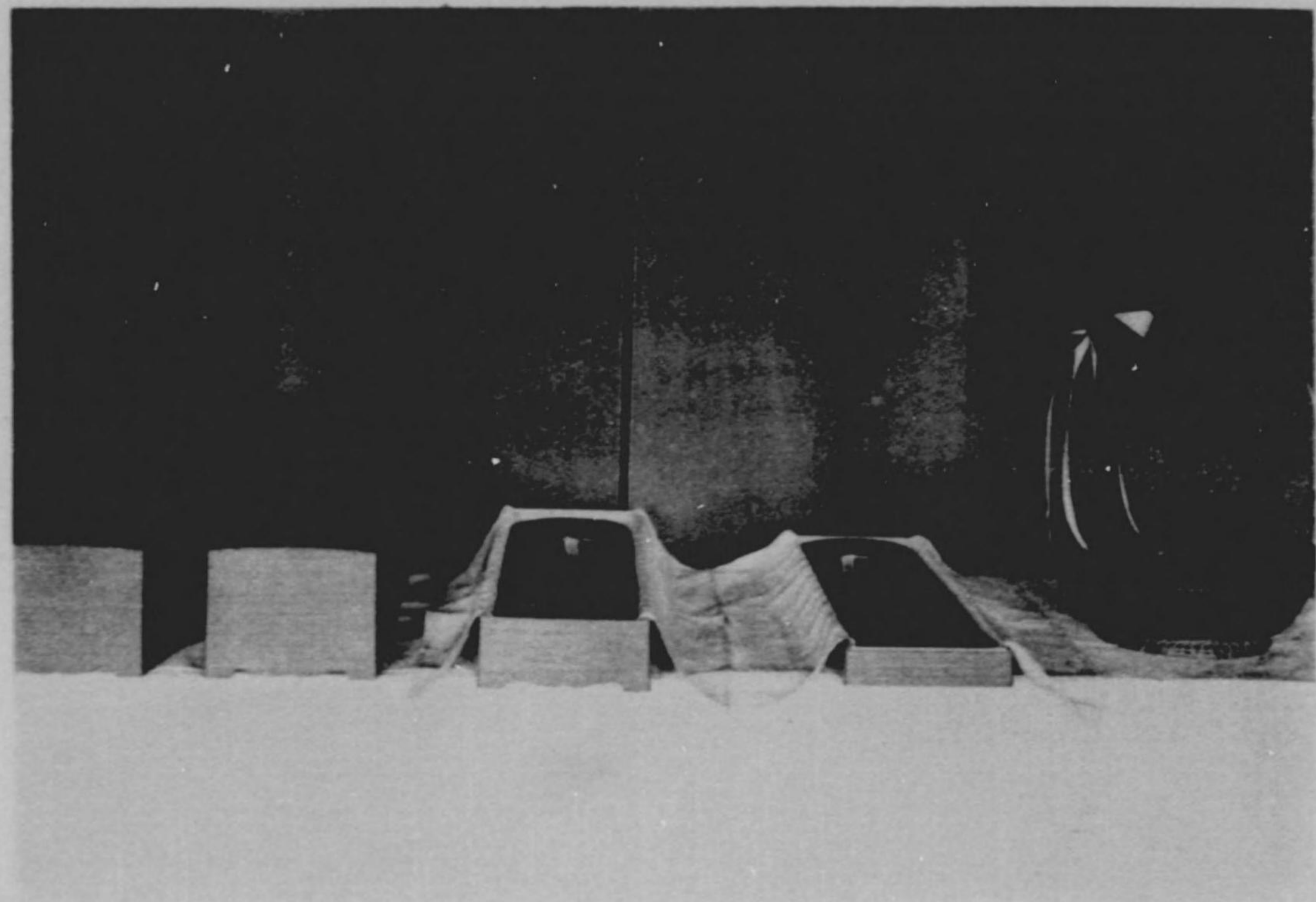


兵 庫 縣 知 事 献 上 品

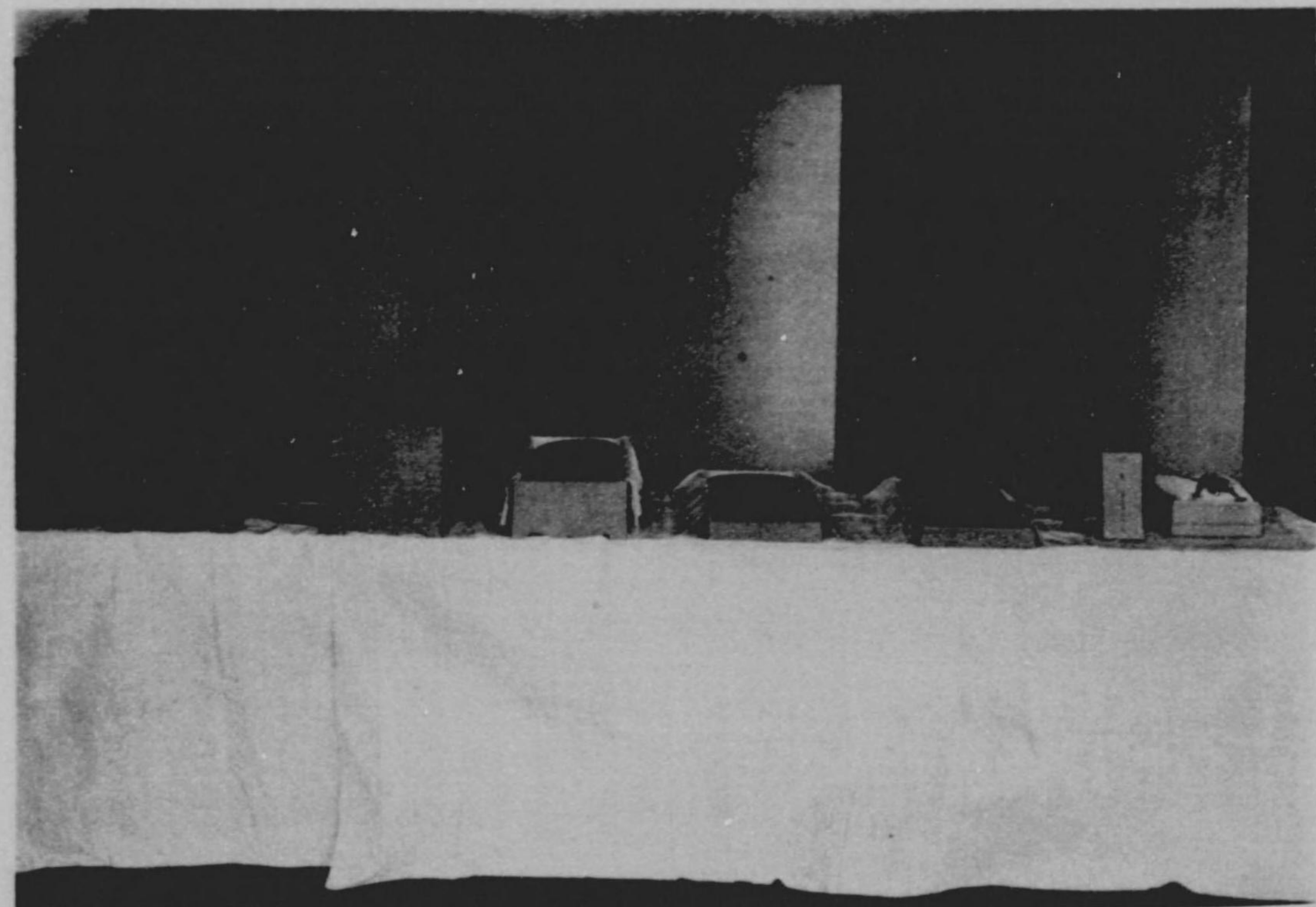


傳 献 品 (共 一)

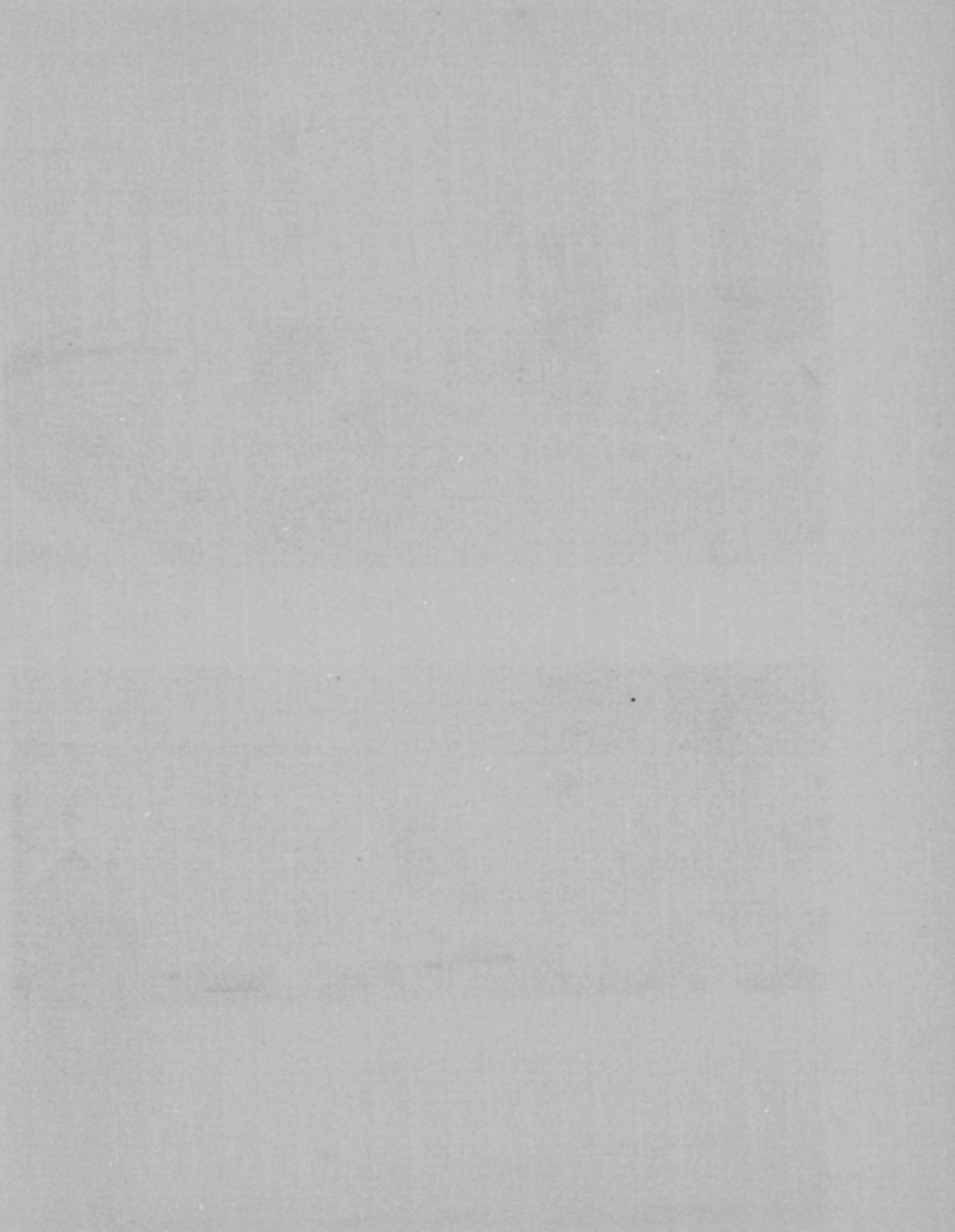


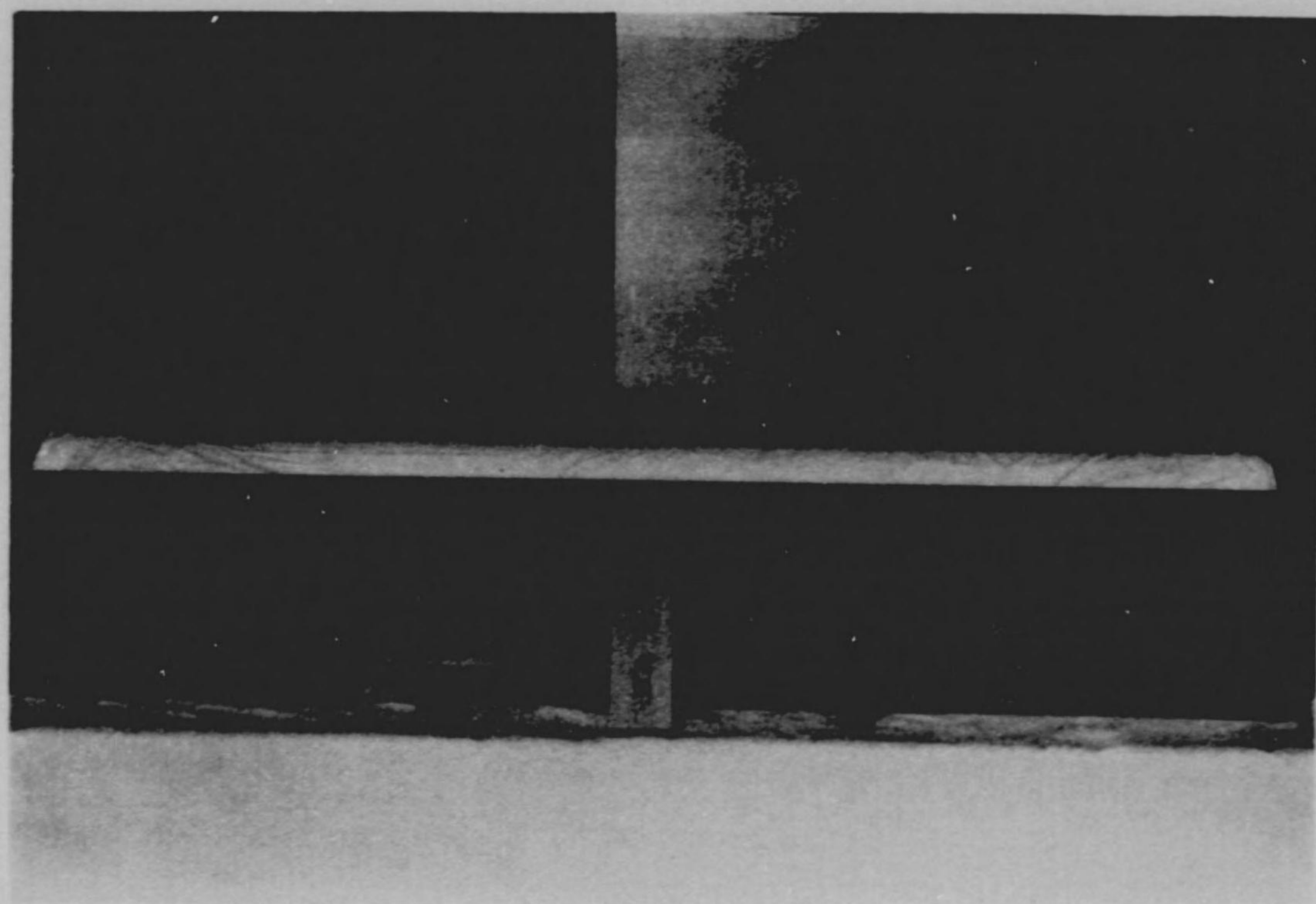


(二ノ其) 品 献 傳



(三ノ其) 品 献 傳





(四ノ其) 品 献 傳



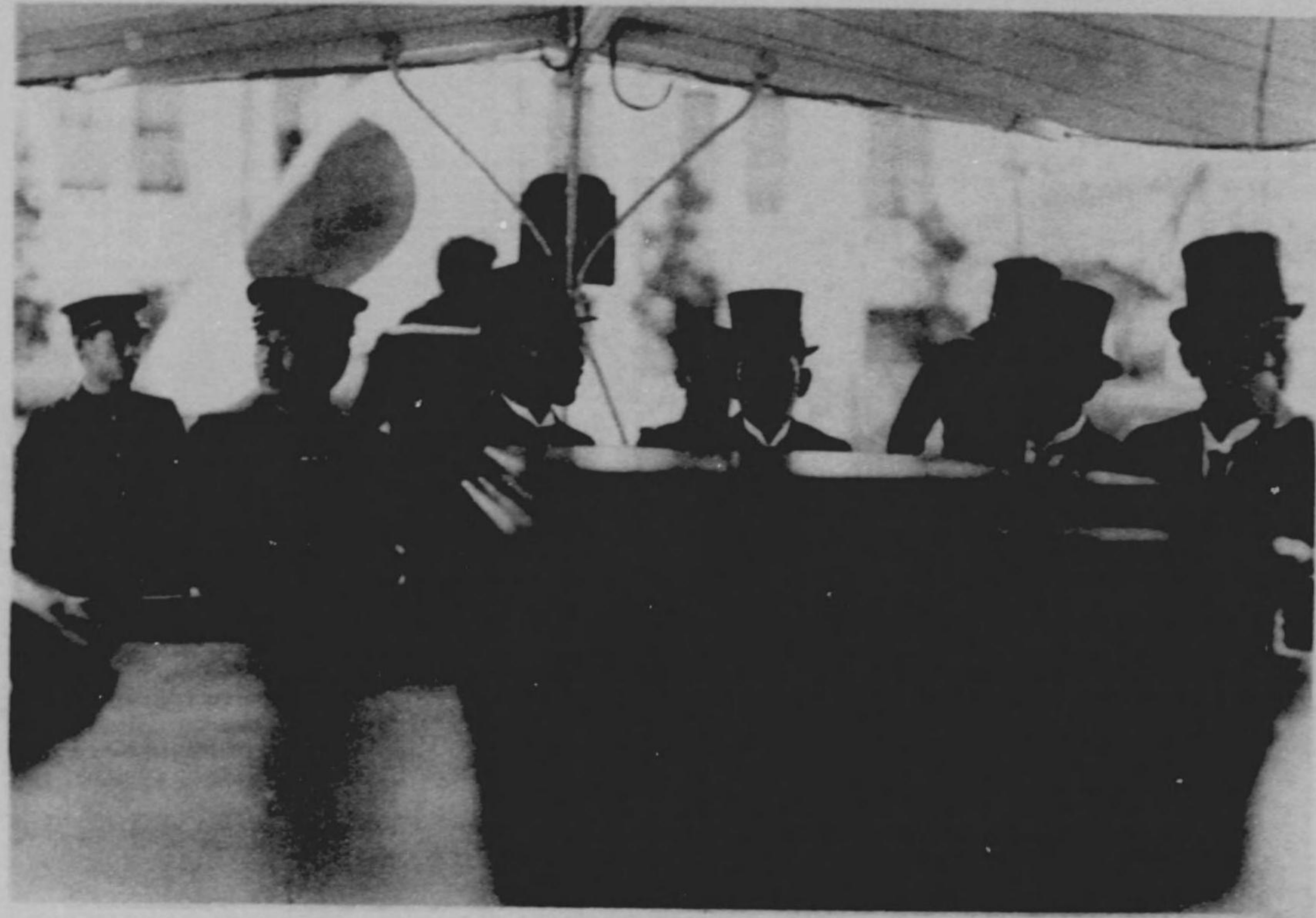
(五ノ其) 品 献 傳



(七ノ其) 品 献 傳



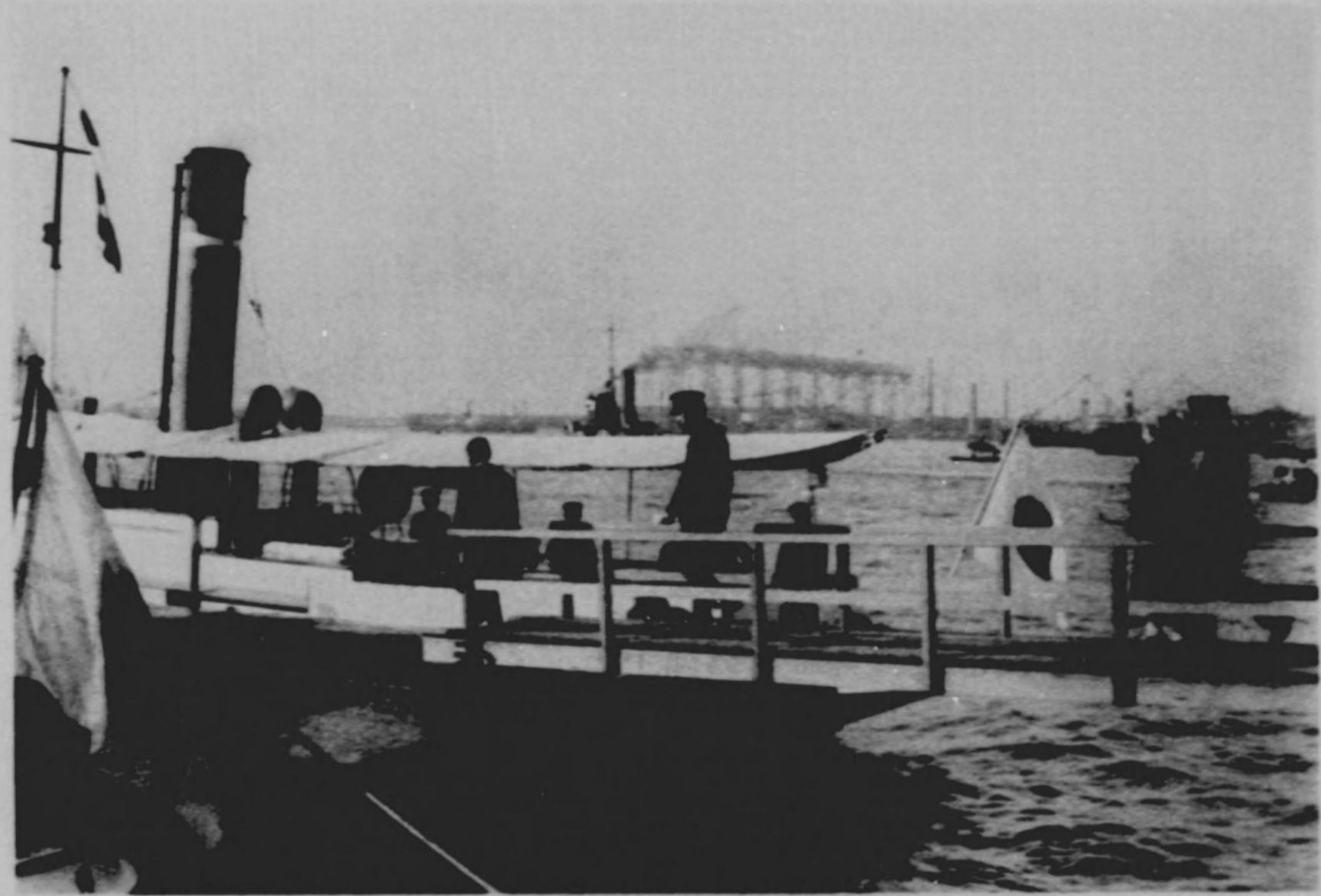
(六ノ其) 品 献 傳



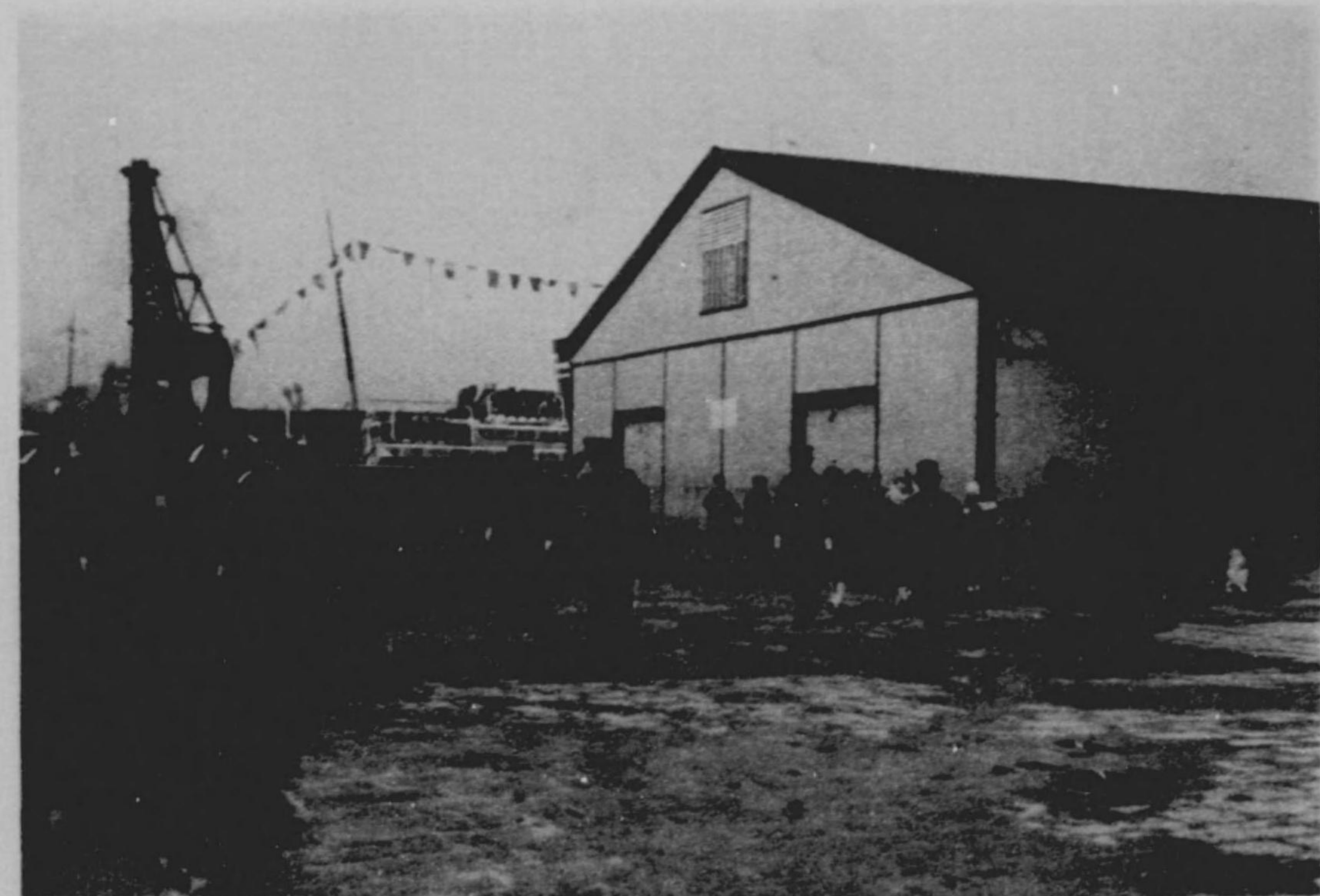
知事市長等ノ天機奉伺



有資格者ノ天機奉伺



(一ノ其) 艦乗御ノ下殿宮觀陪御



(二ノ其) 艦乗御ノ下殿宮觀陪御



(三ノ其) 艦乗御ノ下殿宮觀陪御



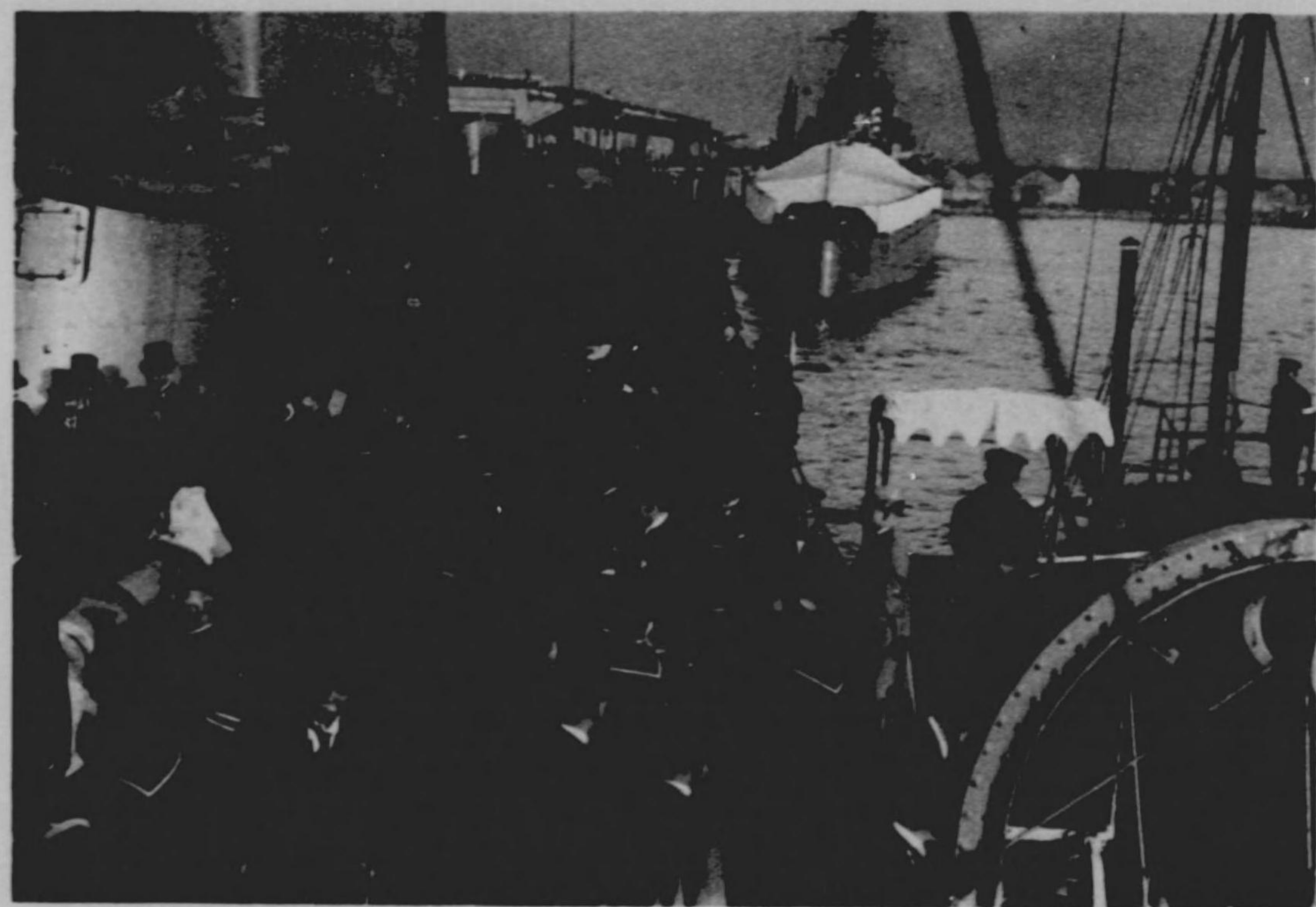
(四ノ其) 艦乗御ノ下殿宮觀陪御



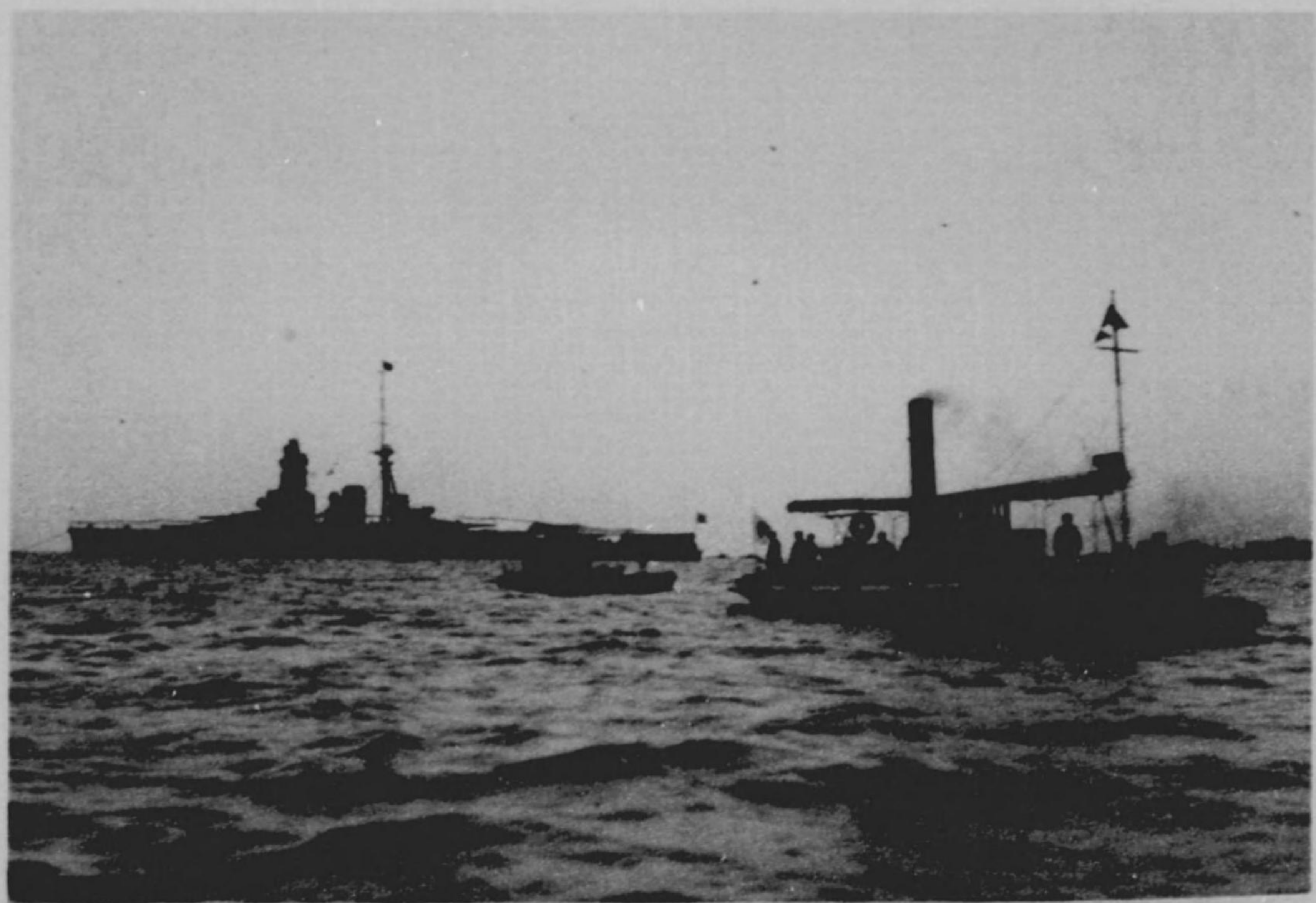
相首口濱ノ觀陪



官武國外ノ觀陪

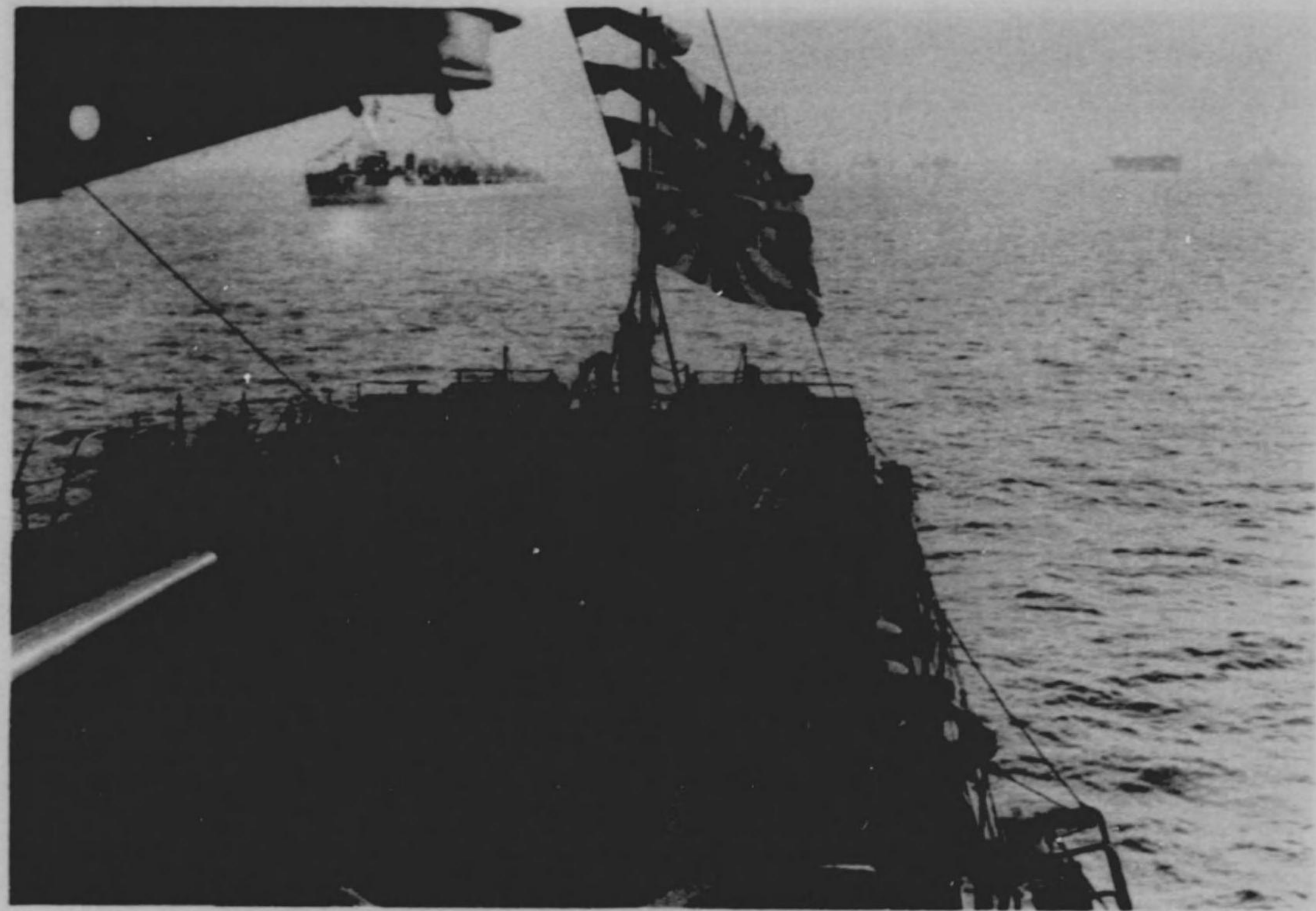


陪 觀 者 之 乘 艦



御 召 艦 之 備 備

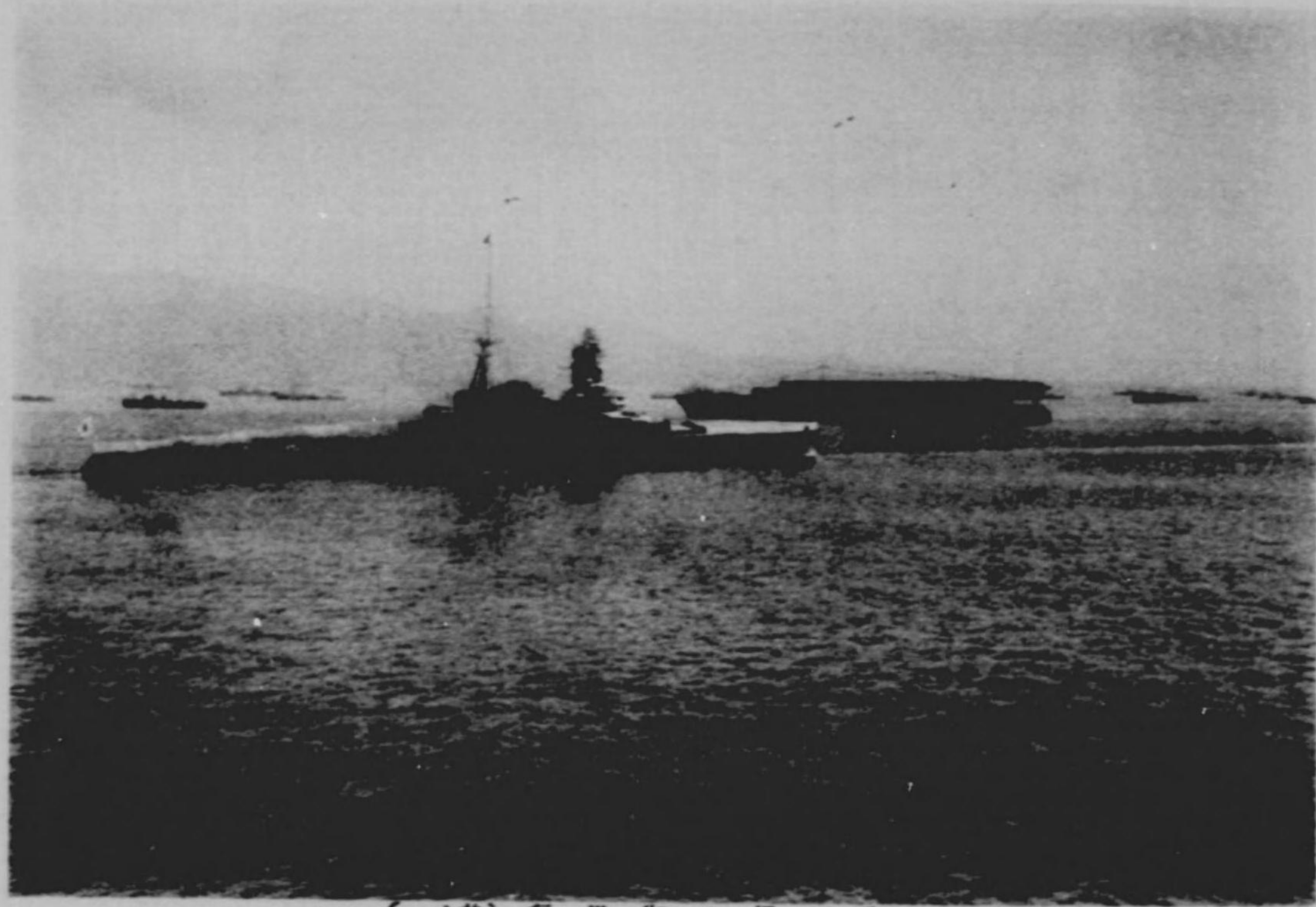




揚 揚 ノ 旗 艦 軍



飾 艦 滿



(一ノ共) 行進御ノ艦召御



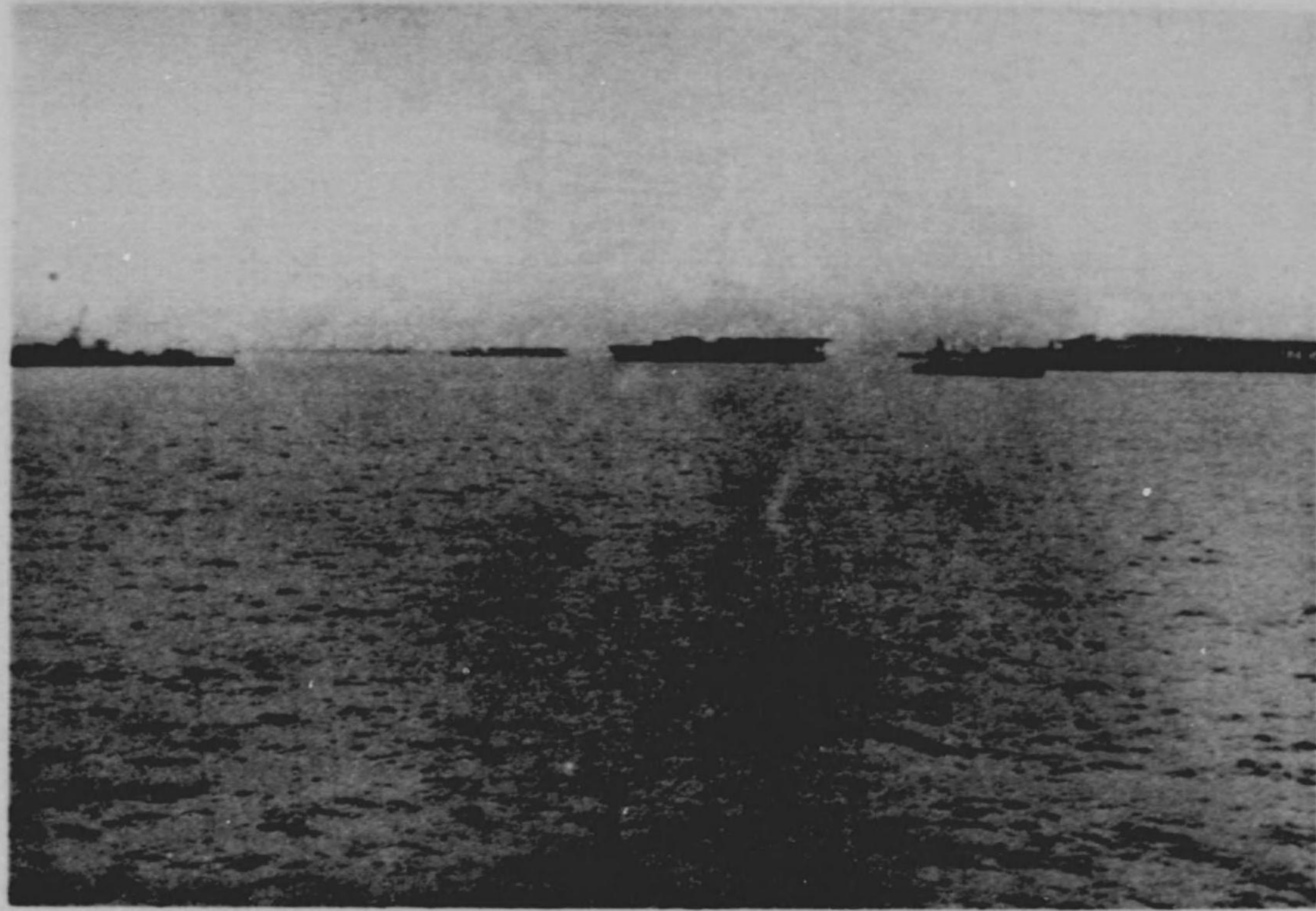
(二ノ共) 行進御ノ艦召御



(三ノ其) 行進御ノ艦召御



(一ノ其) 砲 禮 皇



(二ノ其) 龜 禮 皇



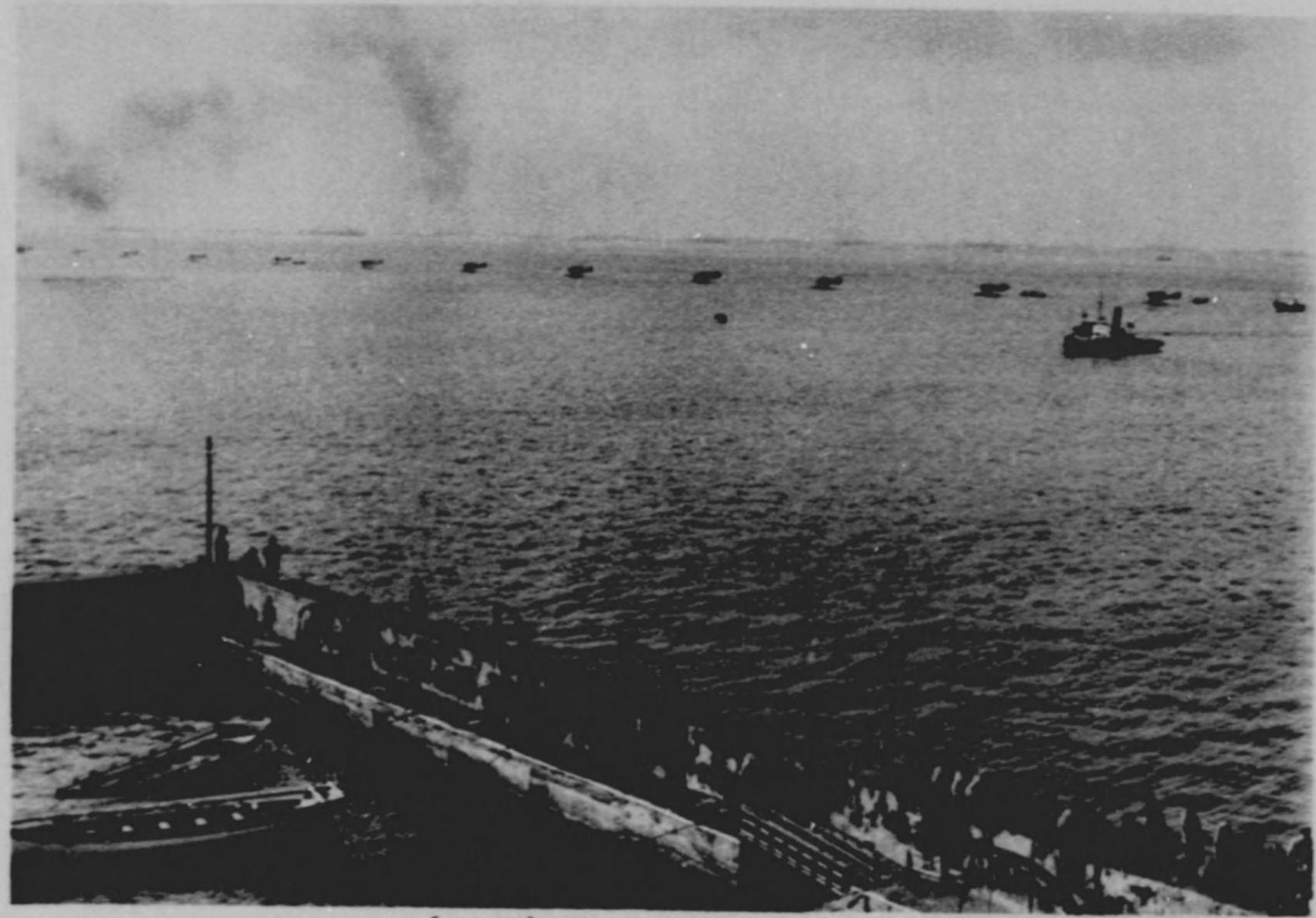
(一ノ其) 禮 鞍 登



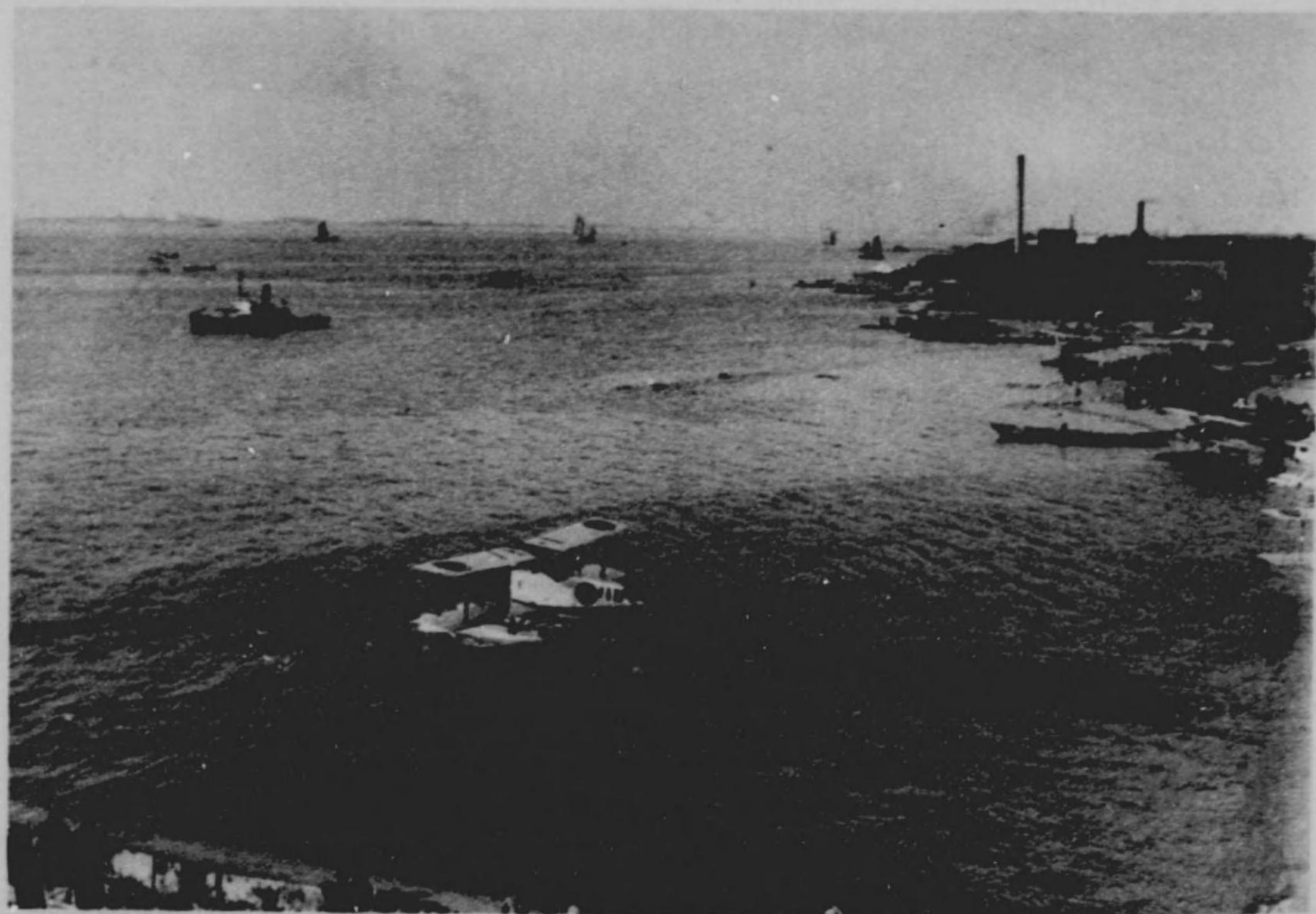
(二ノ其) 禮 艦 登



禮 敬 ノ 隊 兵 衛



(一ノ其) 機上水ノ中機待



(二ノ其) 機上水ノ中機待



(一ノ其) 列 分 中 空



(二ノ其) 列 分 中 空





下殿宮見伏代名御、ムラセラ成ニ柄足



場 儀 賜

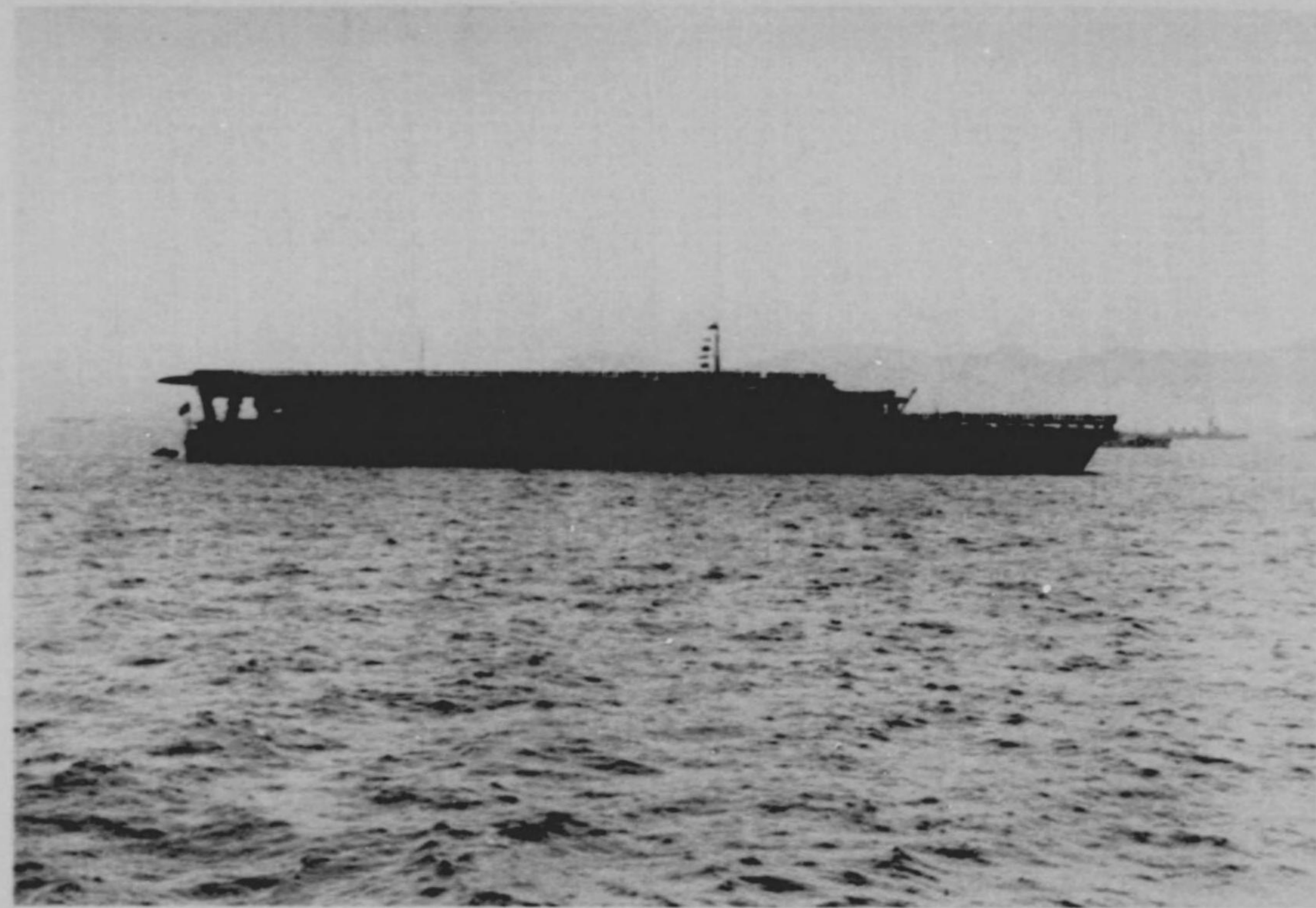




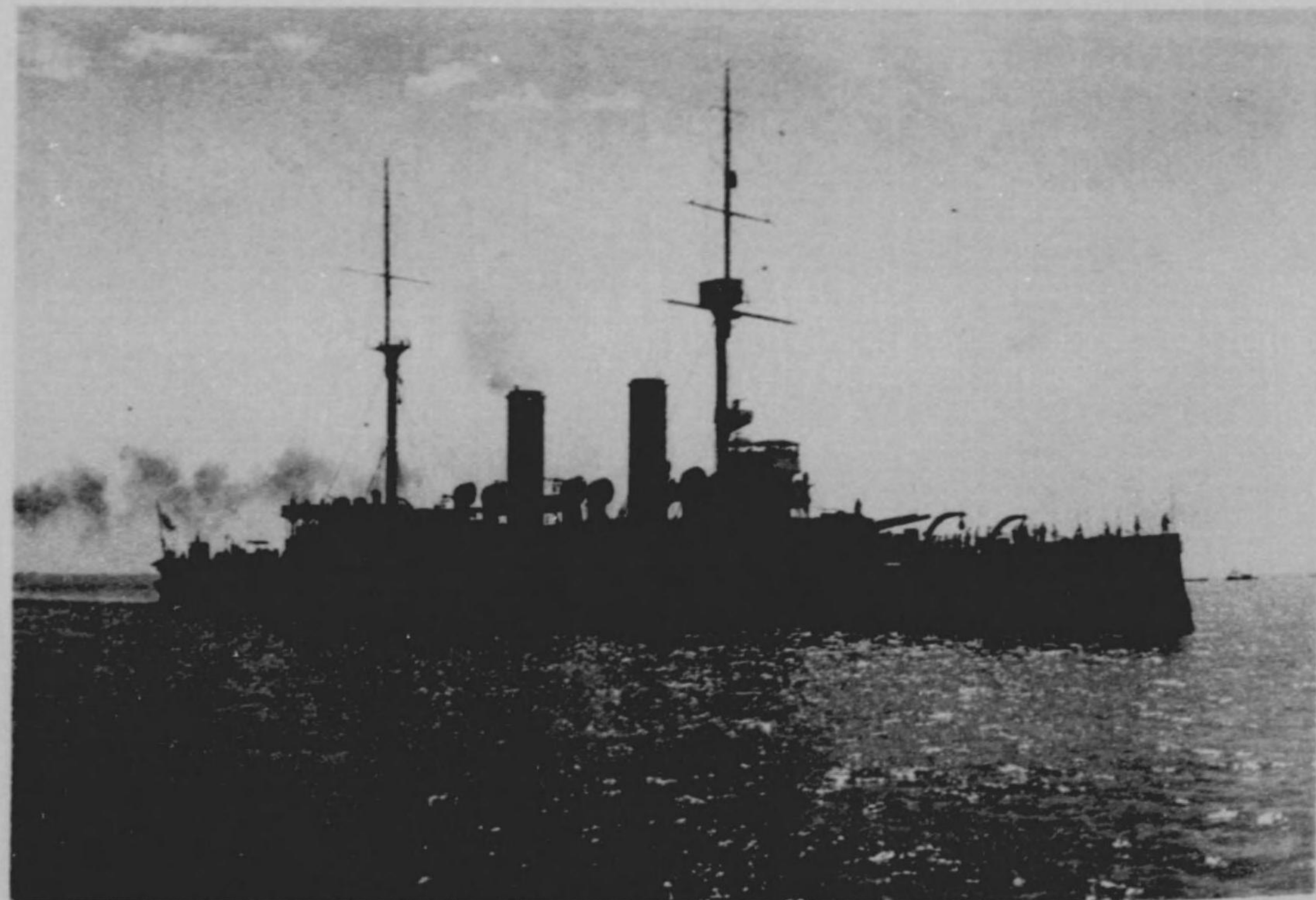
(ノ後了終御式艦觀) 港田御ノ艦召御



列々艦力主



艦 母 空 航



艦 設 敷 雷 水



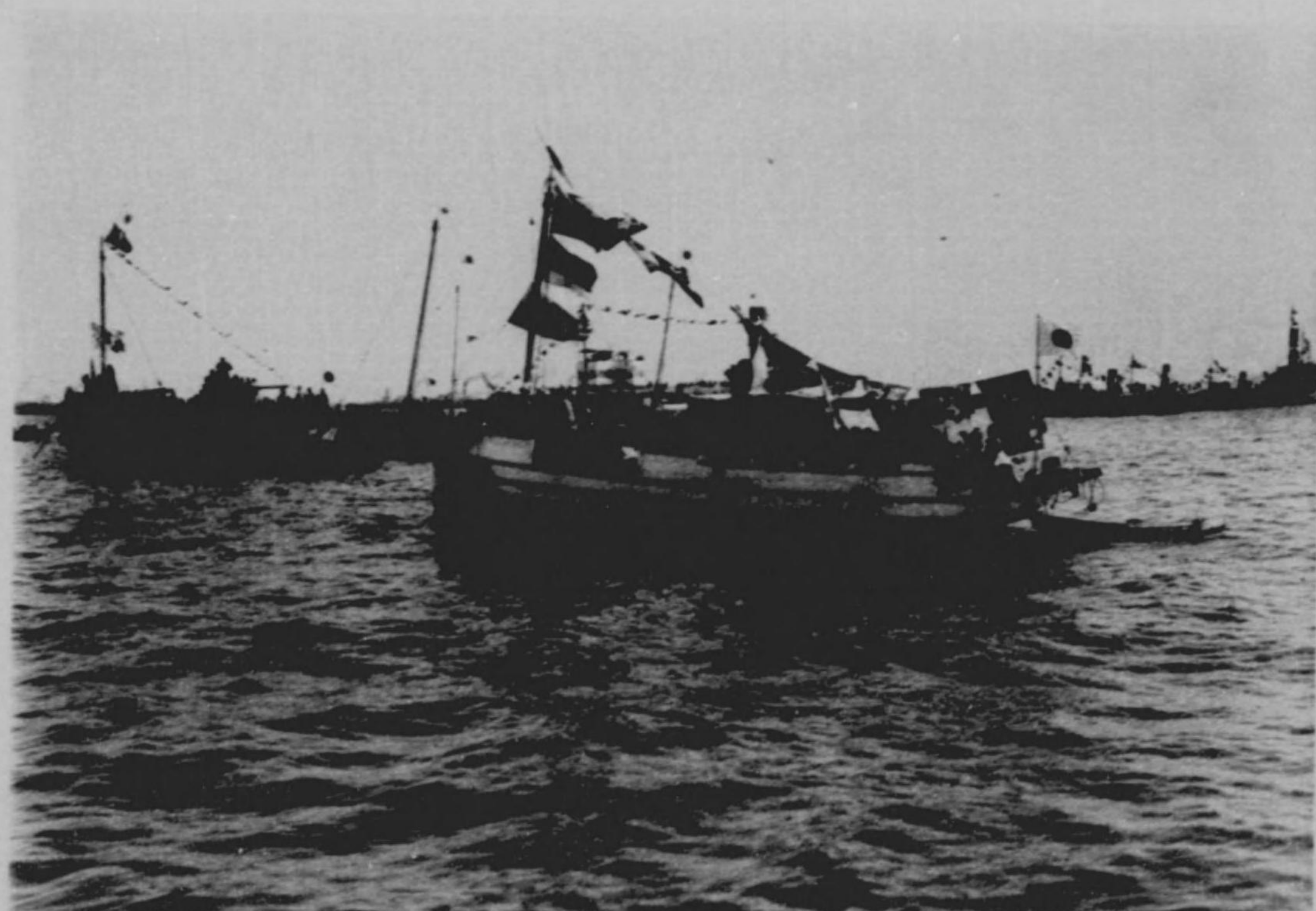
潛水母艦



潛水艦



船 觀 拜 許 特 及 俄 力 主



船 觀 拜 般 一



（場止波緊利米）船乗ノ者觀拜般一



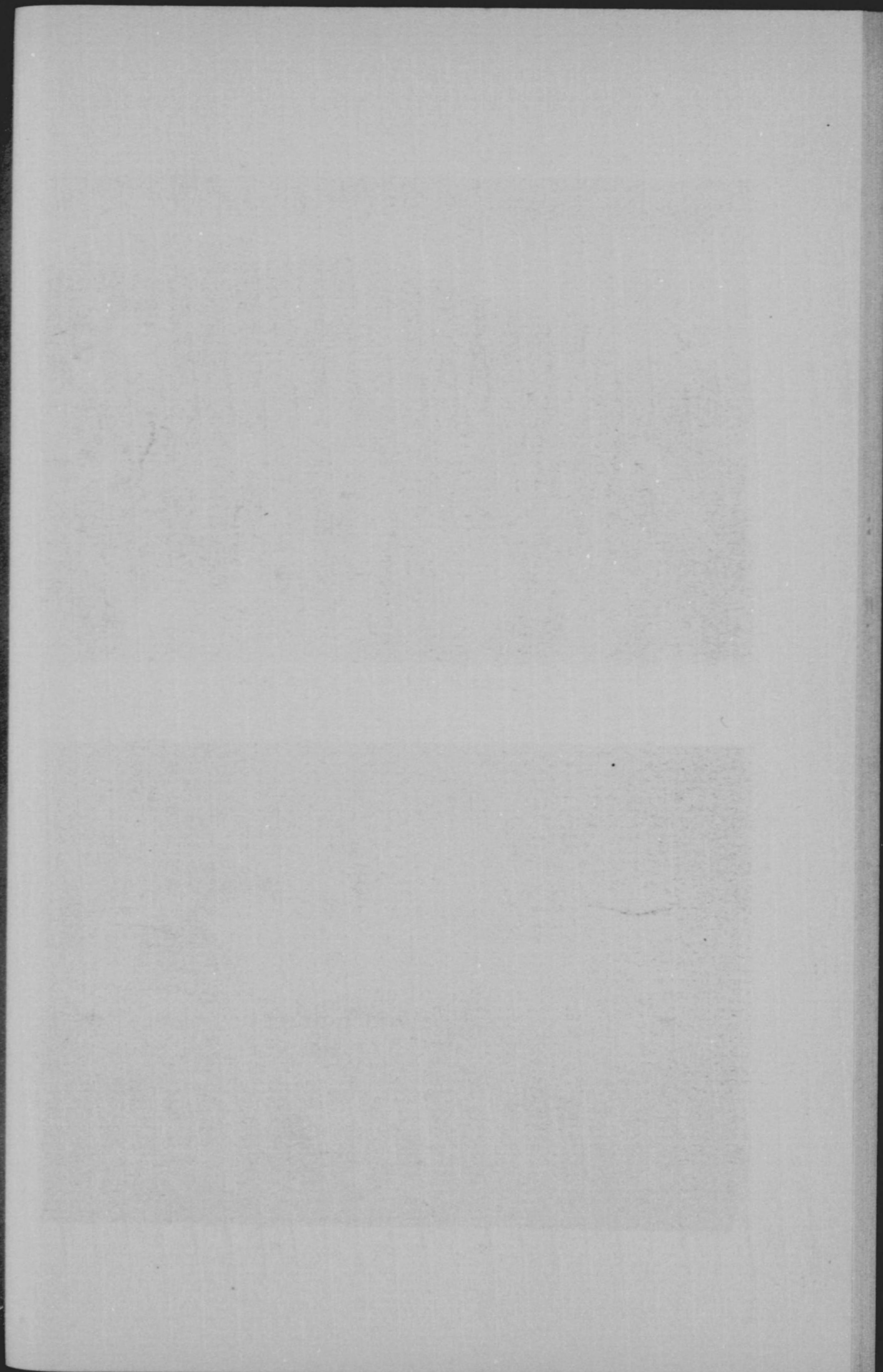
燈 照 探

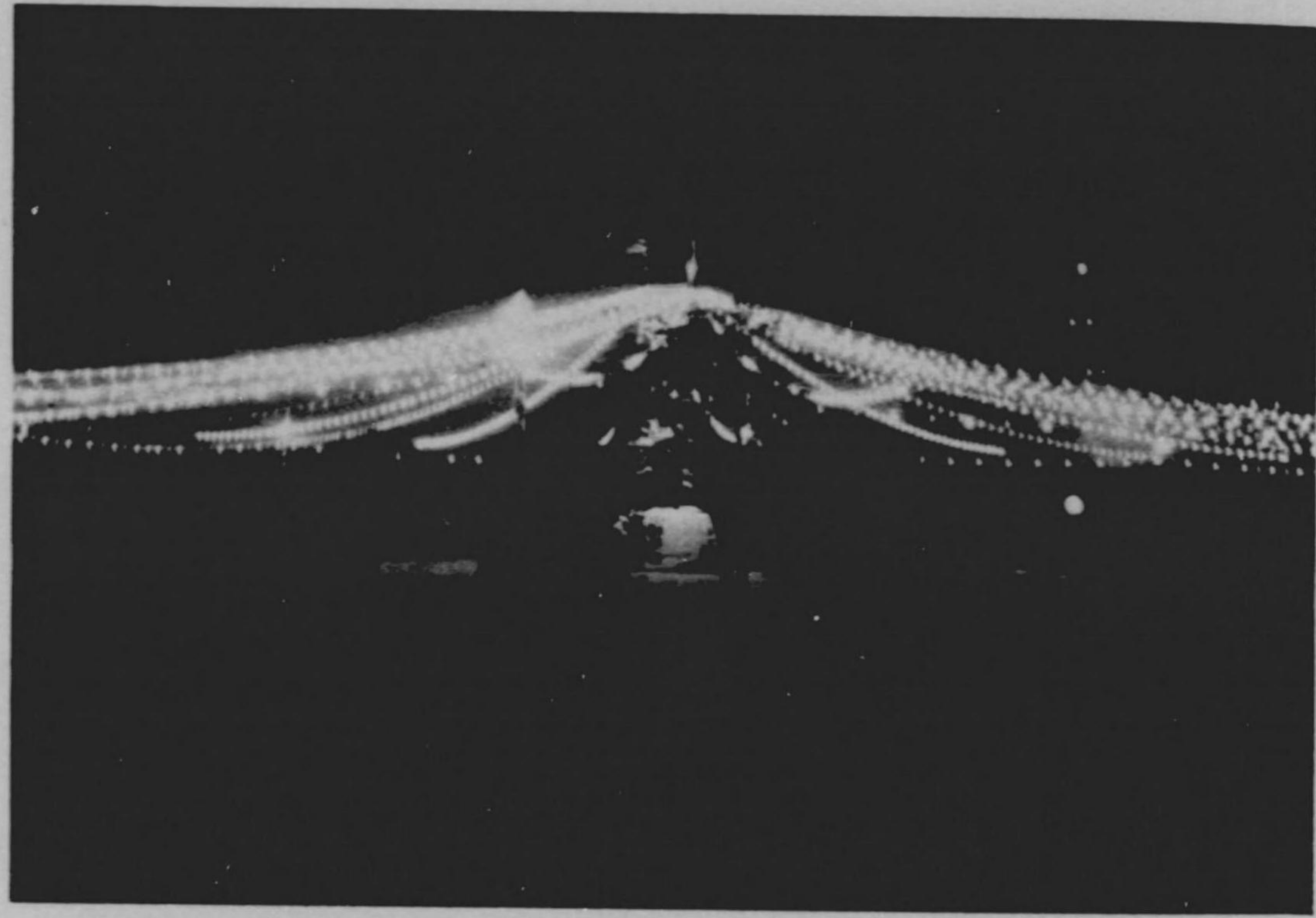


上 打 火 煙

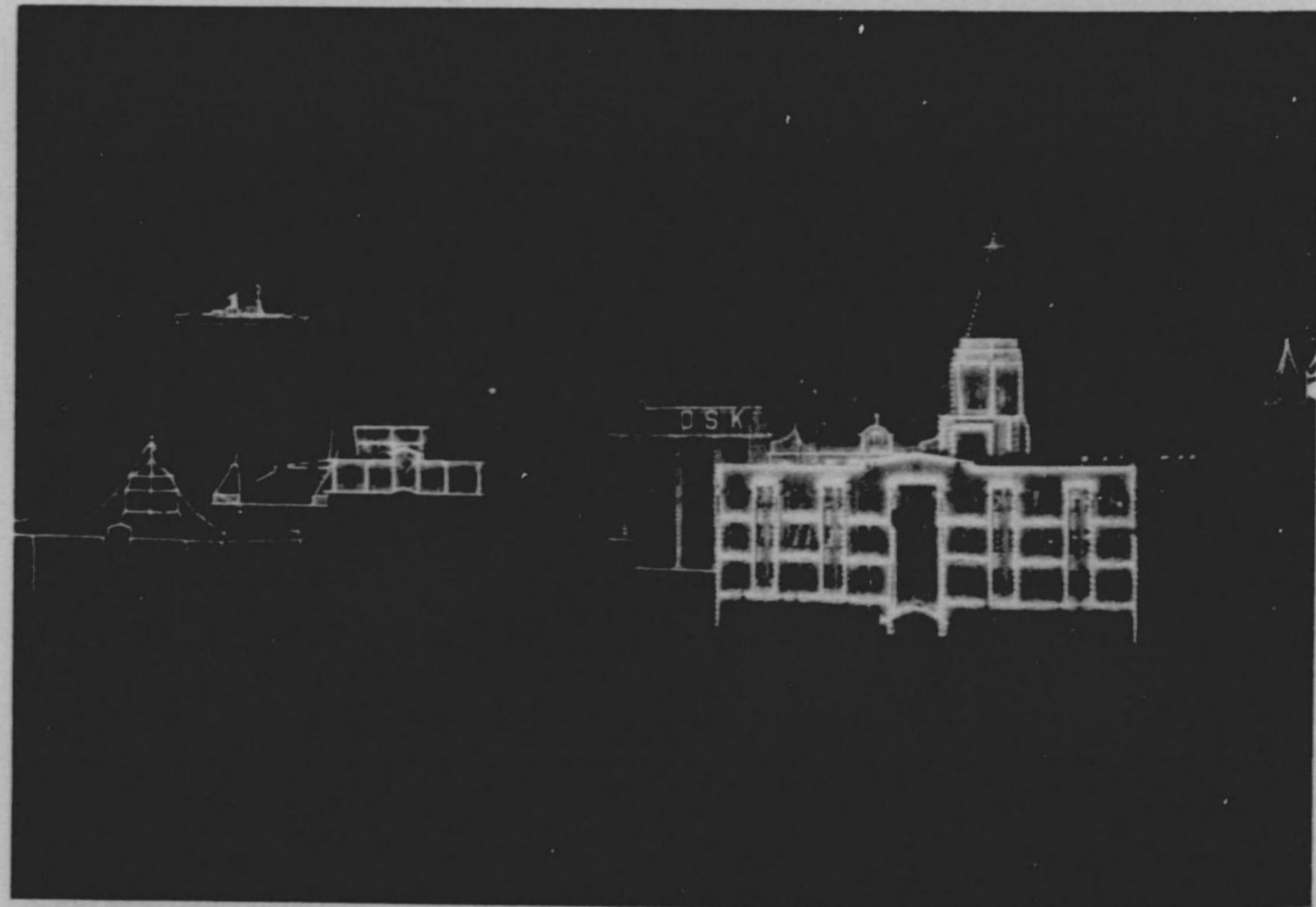


(艦 軍) 飾 光 電





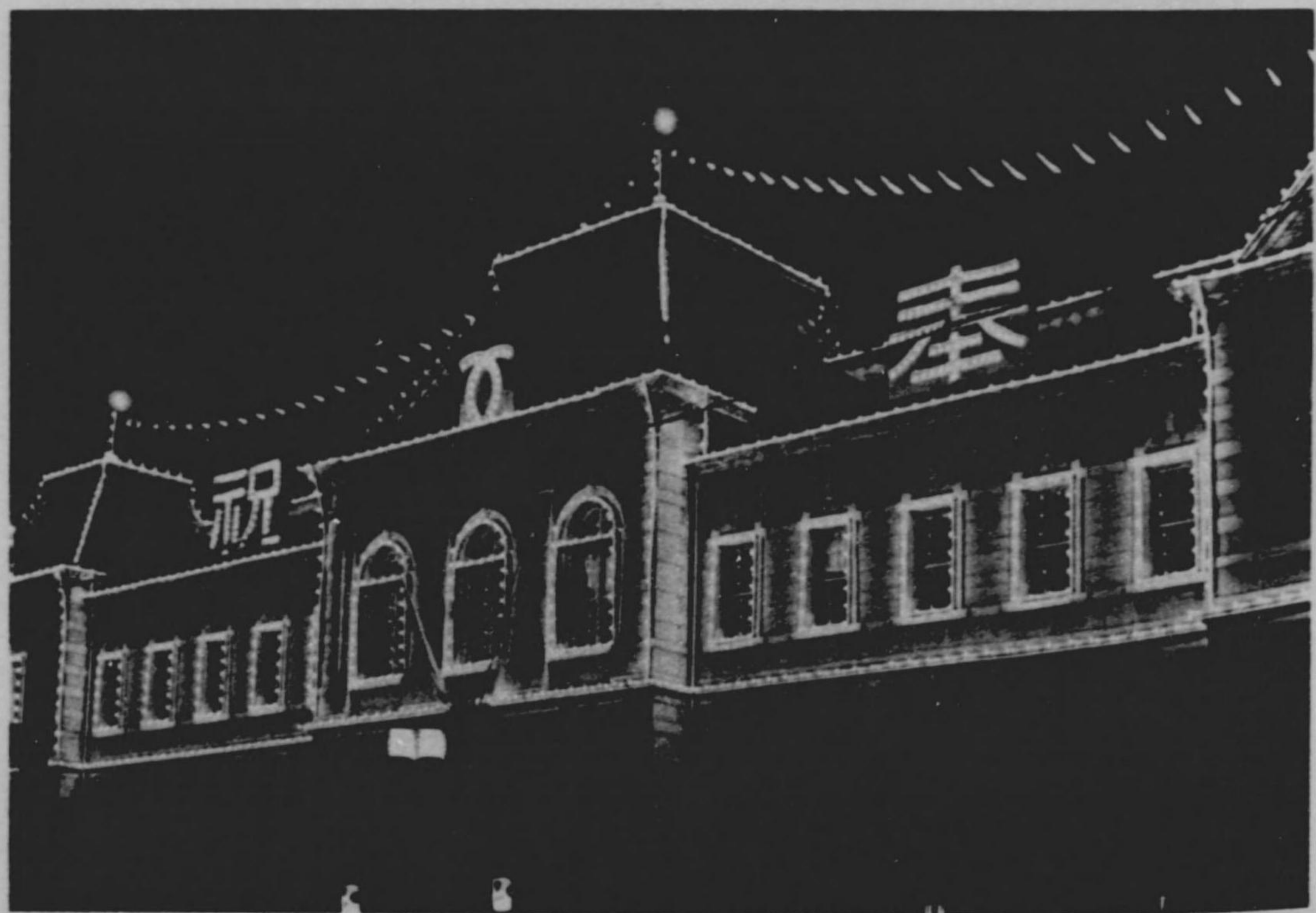
(山倉大) 飾 光 電



(山章市及山館) 飾 光 電



(山訪疎) 飾 光 電



(舍 廳 市) 飾 光 電

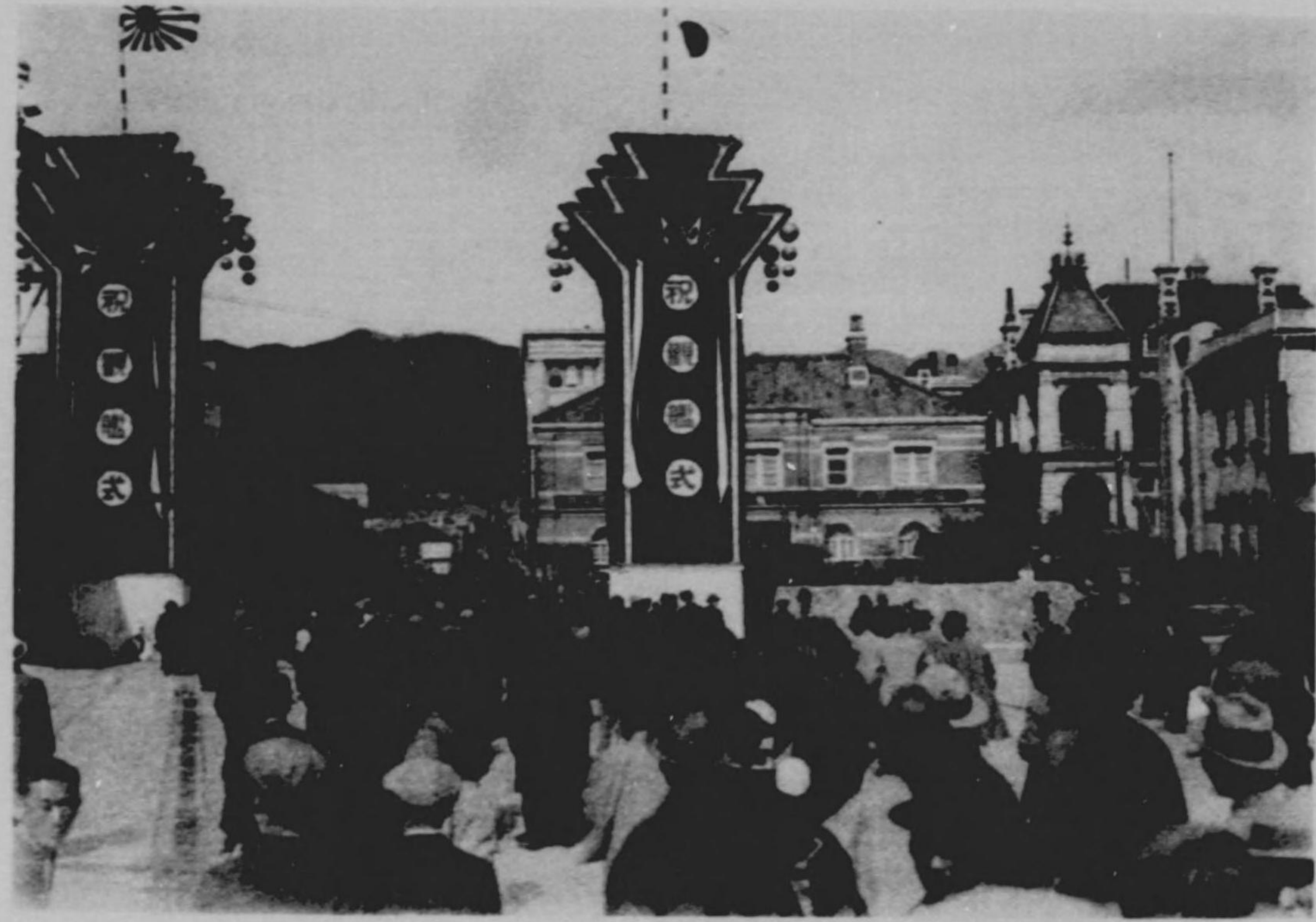




(一ノ其) 宴 招 事 知



(二ノ其) 宴 招 事 知



(一ノ共) 杏 雜ノ内市



(二ノ共) 杏 雜ノ内市



(耶田勝一ノ其) 所 觀 拜 上 陸



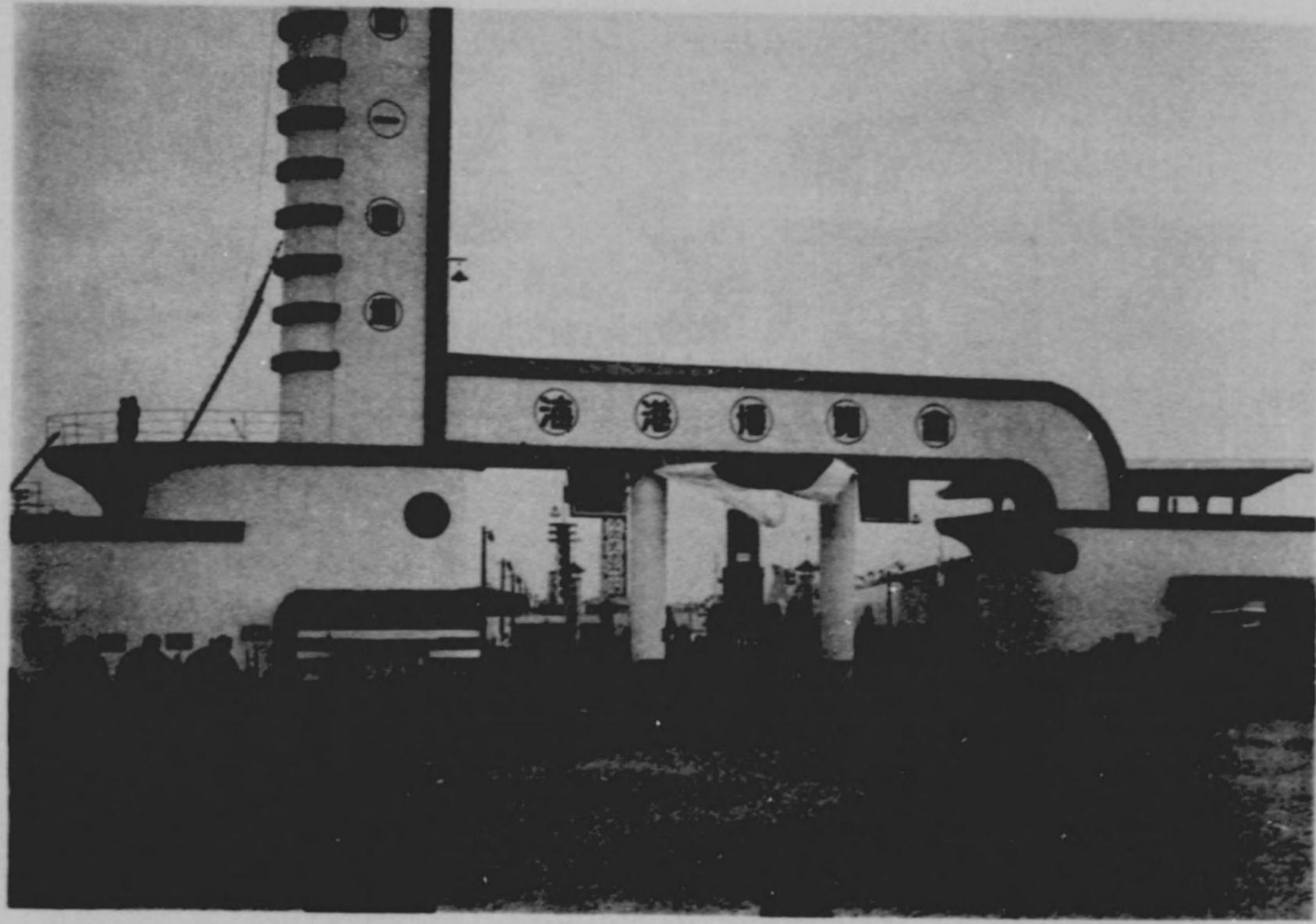
(地敷大商二ノ其) 所 觀 拜 上 陸



(一ノ其) 車 電 花



(二ノ其) 車 電 花



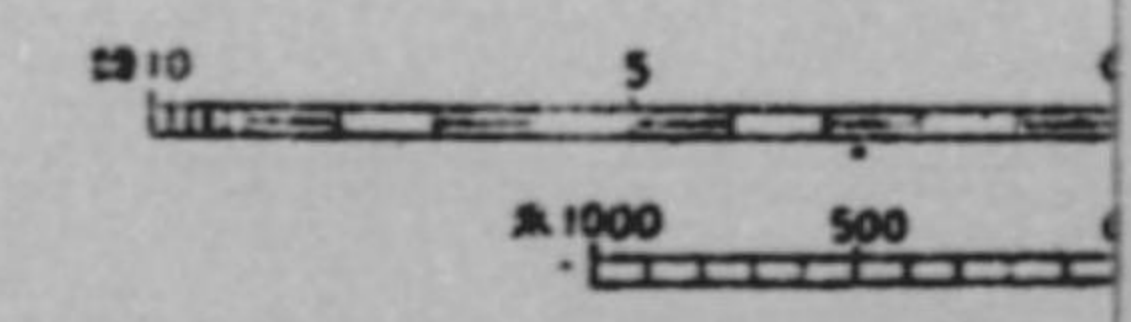
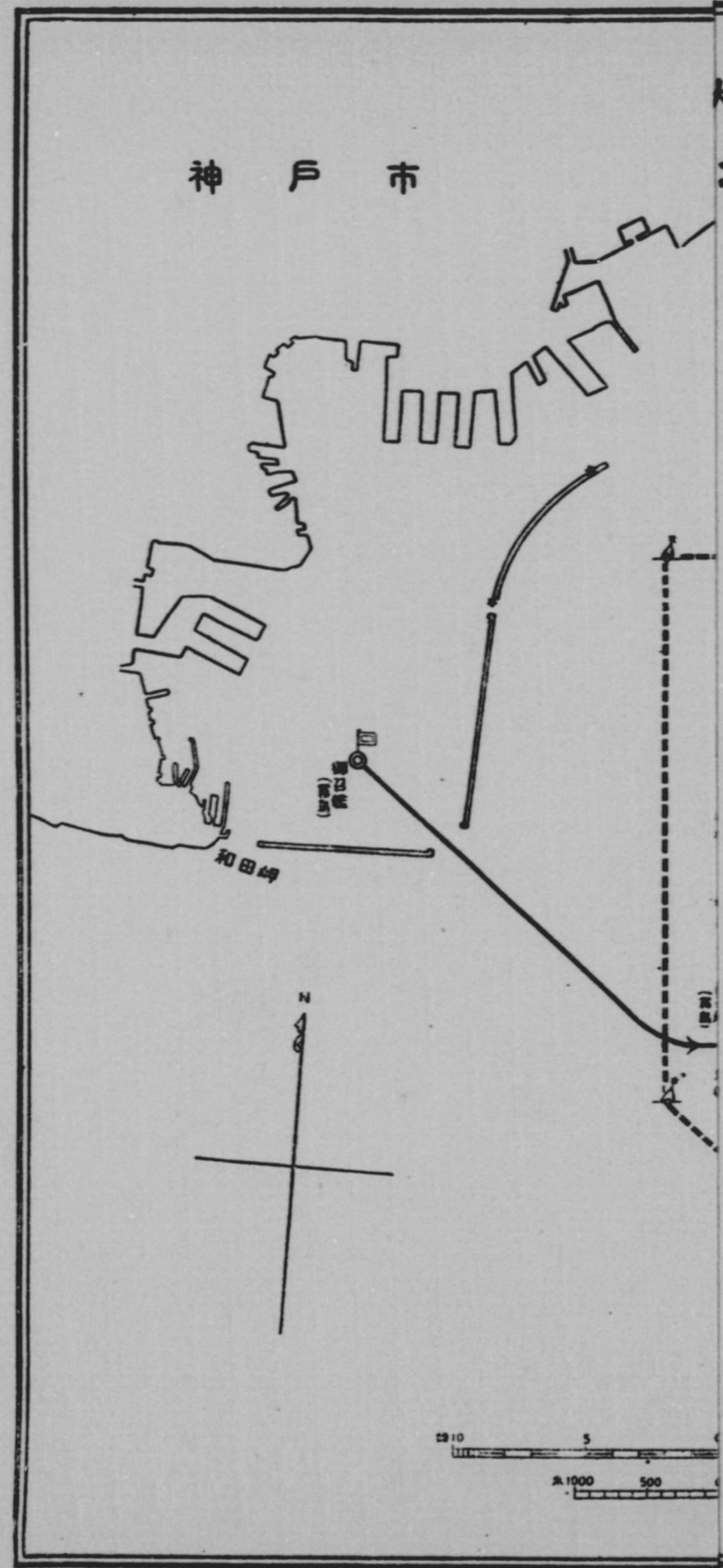
會 覽 博 港 海



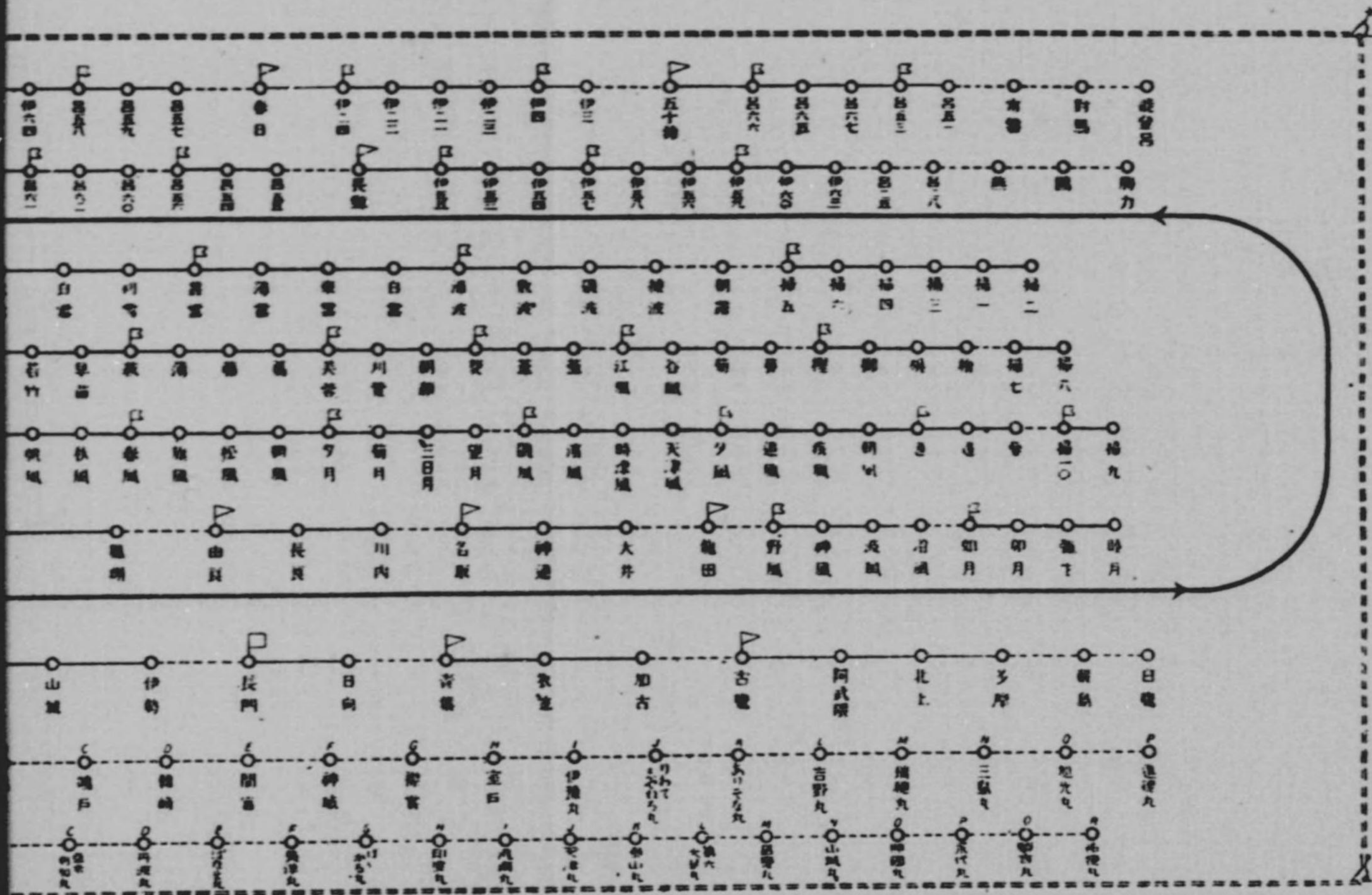
班 護 救

大演習  
場圖

神戸市

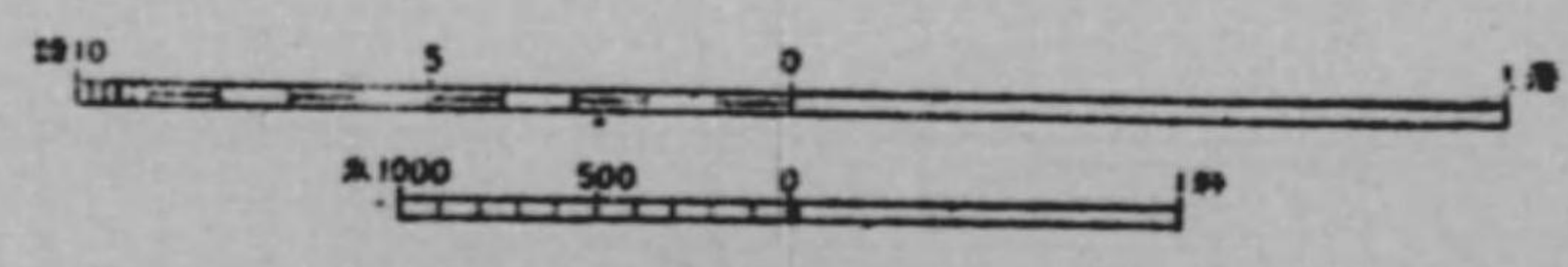
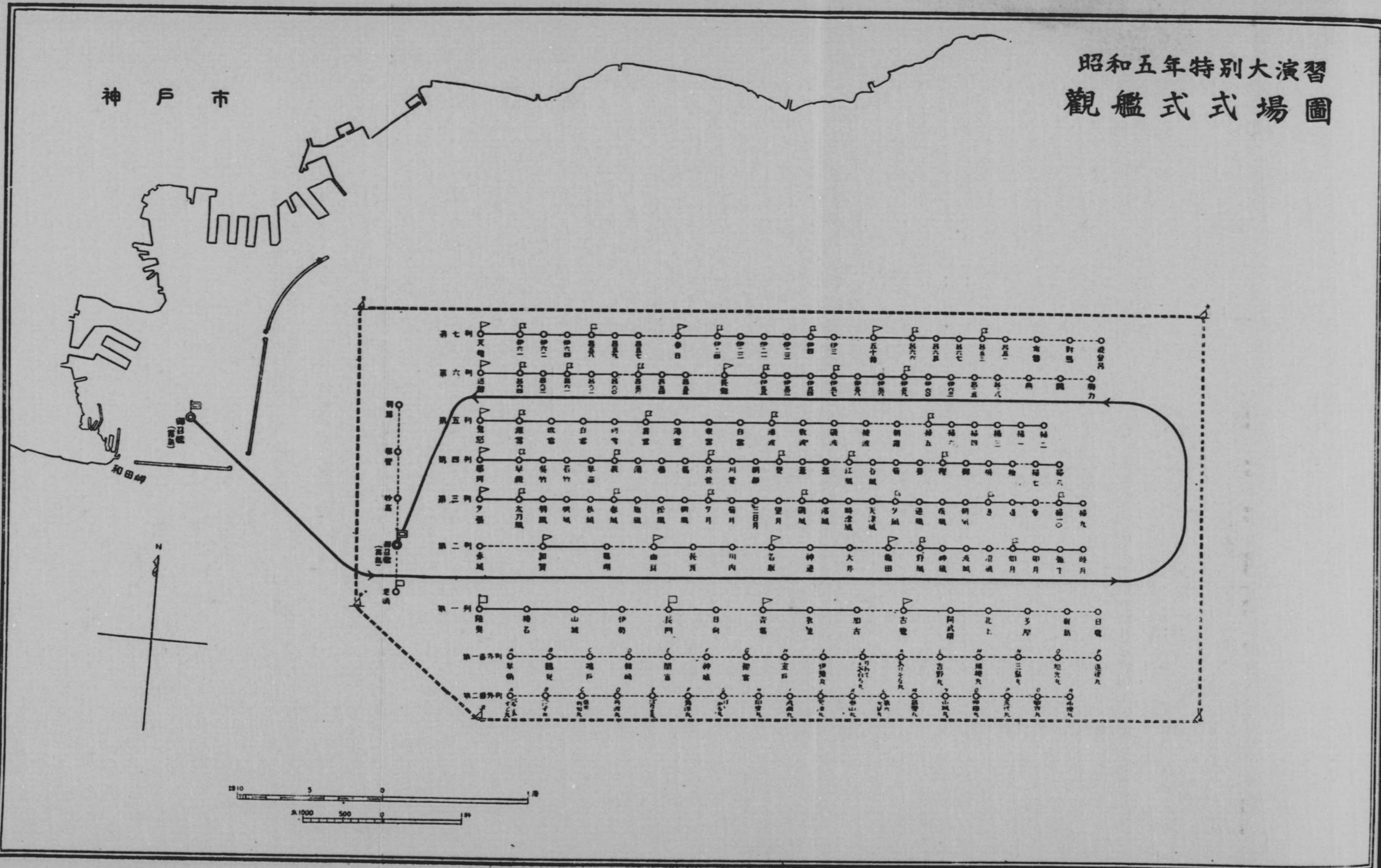


昭和五年特別大演習  
觀艦式式場圖



昭和五年特別大演習  
觀艦式式場圖

神戸市





昭和五年 特別大演習 觀艦式記錄

第壹編 總論

第一章 觀艦式

第一節 神戸港ニ於ケル觀艦式

ノ沿革

時ハ昭和五年

豊穰ノ秋、鼓腹擊壤ノ裡ニ天高く澄ミ渡リ、六甲ノ群嶺山色愈々麗ハシク、茅海ノ渺茫波愈々靜カナルノ時、畏クモ我カ 大元帥陛下ニハ南太平洋ニ於ケル海軍特別大演習ノ御統監ヲ了ヘサセラレ十月二十六日 聖駕親臨神戸沖ニ於テ 御躬カラ帝國艦艇ノ隊列陣容ヲ閱セララル觀艦ノ盛儀ヲ執リ行ハセラル。而モ其ノ二十七日ニハ由緒深キロンドン、イギリス外務省ロカルノホールニ於テ、コノ歲協定サレタル日、英、米三大海軍國ノ所謂ロンドン海軍條約ノ批准書寄託式ヲ舉行サレ、世界平和ノ史上ニ燦然タル一章ヲ添ヘタリ、此ノ記念スヘキ曠古ノ盛儀ニ、恰モ時ヲ同ウシ遠ク海ヲ隔テ、此ノ寄託式ノ行ハレタルコトハ、觀艦式ノ盛觀ニ遣フ者ヲシテ一層ニ感

慨ノ念ニ堪ヘサラシム。

我カ國ニ於ケル觀艦式ノ盛儀ニ關シテ、其ノ濫觴トモ見ラルヘキ御催ハ、遠ク神功皇后三韓御親征ノ初ノ御船發ニ際リ、親シク兵船ノ隊列軍容ヲ閱ミセラレタルコトニ始マル。日本書記神功皇后記ニ於テ是ヲ明ニセルノミナラス肥前風土記、宇佐託宣集等ノ文献ニ於テモ尙之ヲ證セラル。

然レトモ、是等ノ記述ハ暫ク措キ、明治以後ニ於テ催サレタルモノニ就テ之ヲ見レハ、回ヲ重ヌルコト二十有五、其ノ内主要ナルモノヲ示セハ次ノ如シ。

年	月	日	場	所	名	稱	隻	噸	船	機
明治元	三	二六	天保山	神	觀	艦式	六	二、四五二		
同二	四	一八	神	海	軍	觀	一九	三二、三二八		
同三	四	三〇	神	神	大	演	四九	一一九、六〇一		
同三	四	一〇	神	神	大	演	六一	二一七、一七六		
同三	八	一〇	神	神	大	演	一六六	三二四、一五九		
同四	一	二	神	神	大	演	一一三	四〇四、四六〇		
同四	一	二	神	神	大	演	一一五	四六〇、八二五	飛行機二	
大正元	一	一〇	神	神	大	演	五七	三五三、九六五	同	四
同二	一	一〇	神	神	大	演	二四	五九八、八四八	同	九

大正五、一〇、二五	横濱沖恒例觀艦式	八四	四七二、二五四	同	四
同八、七、九	横濱沖御親閱式	二六	八六、〇一三	同	一三
同八、一〇、二八	横濱沖大演習觀艦式	一一	六二四、一八〇	同	一〇
昭和二、一〇、三〇	横濱沖大演習觀艦式	一五八	六六四、二九二	同	八〇
同三、一二、四	横濱沖大特別觀艦式	一八六	七七八、八九一	飛行機一三	二
同五、一〇、二六	神戶沖大演習觀艦式	一六四	六九八、一二五	飛行機七	三

即ち今回ノ觀艦式ハ、明治以後ニ於テハ其ノ第二十五回ニ當リ今上陛下第三回ノ御親閱ニシテ、而モ昭和三年ニ於ケル大禮特別觀艦式ニ次キテ其ノ規模最モ廣大ナル御催ナリ。併シテ明治初年ヨリ催サレタル觀艦式ノ内我カ神戸港ト關係アルモノニ付テ分チテ當時ノ狀況ヲ顧ミム。

### 第一款 天保山沖觀艦式

明治元年天保山沖ニ於テ行ハセラルル觀艦式ハ、我カ神戸港ト直接ノ關係ナキモ、明治ノ鴻業成リテ七百年來ノ武家政治ヨリ兵權再ヒ朝廷ニ歸シテ初メテ畏クモ 明治大帝ノ御親閱遊ハサレシモノナルト、其ノ地域カ我カ神戸港トノ關係亦尠カラサルモノアルヲ以テ特ニ茲ニ掲記ス。

天保山沖觀艦式ハ三月二十六日肥前藩ノ電流丸外五隻排水量二千四百餘噸ヲ以テ行ハセラル 海軍總督聖護院宮(故有栖川熾仁親王)電流丸ヨリ之ヲ指揮アラセラル。

コノ日正午 明治大帝ニハ天保山觀艦所ニ入ラセラレテ之ヲ御親

「明治二十三年四月参尾地方の陸海軍大演習終り、聖上には神戸灣に於て觀艦式を行はせられた。同月十八日午前九時過京都離宮より有栖川、小松兩宮及兩妃殿下の御隨伴ミ、三條内大臣、土方宮内大臣等の供奉徳大寺侍從長の陪乘にて神戸驛に御安着あり、辨天濱御用邸に入御の後、十時過御用邸裏棧橋より汽艇にて御召艦高千穂に移らせらる。時に東西兩軍に分れた十七隻の艦隊は一齊に鼻禮砲を放つた。御召艦高千穂は御用邸を去る沖合凡七八丁にして位置を定め、それより二丁距つた海岸には陪觀者に乗せた軍艦赤城碇泊す。艦て高千穂の橋頭には天皇旗燦ミして翻り、亮々たる奏樂ミ共に投錨し、滿艦飾の赤城艦其の後に従ふ。此日春波融々水面花紋を畫いた(中略)

觀艦式終りて午後二時吳鎮守府に向け御發航あらせられ、浪花、扶桑、高雄、葛城、大和、海門、八重山、比叡及金剛の九艦は供奉した。當日拜觀の民衆は雲霞の如し、云々」

### 第三款 第二次大演習觀艦式

神戸港第二次ノ觀艦式ハ、明治三十三年四月紀伊水道ニ於ケル海軍大演習ノ御統監ヲ了ヘサセラレ、同月三十日参列艦四十九隻十二萬九千六百一噸ヲ以テ舉行セラル。其ノ参列艦ハ淺間、明石、宮古八重山、敷島、八島、富士、常盤、鎮遠、扶桑、松島、嚴島、橋立笠置、千歲、高砂、吉野、高千穂、秋津洲、和泉、千代田、龍田、豐橋、雷、電、曉、陽炎、東雲、叢雲、夕霧、不知火、隼、福龍、小

閣遊ハサレ、次テ是等ノ艦船ト天保山砲臺トノ砲戰及参列艦ノ艦隊運動等ヲ御感深ク天覽、七ツ過キ御機嫌麗ハシク還御アラセラレタリト云フ、海軍省發行ノ「觀艦式の架」ノ一節ハ左ノ如ク記述ス。

「明治元年天保山沖で行はれた觀艦式には、肥前藩の電流丸、肥後藩の萬里丸、久留米藩の千歲丸、長州藩の幸陽丸、藝州藩の萬年丸、薩州藩の三邦丸といふ各藩の船が参列し、明治大帝は陸岸の觀覽所に行幸あらせられ、電流丸にて海軍總督聖護院宮が指揮される各船を御親閱遊はされました。その合計六隻排水量は僅に二千四百五十二噸、現在の新式一等驅逐艦一隻より少し大きい位のものでありましたが、これが今日の大觀艦式の源をなしたものと云ふに、そこに光輝ある感を感じ得ないので云々」

### 第二款 第一次海軍觀兵式

神戸港ニ於ケル最初ノ觀艦式ハ、明治二十三年ニシテ 明治大帝ニハ参尾地方ノ陸海軍大演習ノ御統監ヲ了ヘサセラレ、四月十八日我カ神戸灣ニ於テ觀艦式ヲ行ハセラルルカ、當時ハ未タ觀艦式ノ名稱ヲ用ヒス海軍觀兵式ト稱セラレタル巨觀艦式の架ニ見エタリ而シテ當時参加シタル軍艦ハ、高千穂(御召艦)、扶桑、大和、葛城、武藏、日進、八重山、高雄、浪花(以上前列)、金剛、比叡、天龍、海門、磐城、鳳翔、愛宕、摩耶、筑紫、赤城(以上後列)ノ十九隻三萬二千三百二十八噸ニシテ辛酉會發行ノ神戸港史ハ當時ノ御模様ニ付左ノ如ク記述セリ。

艦、第十二號、第十三號、第十七號、第二十一號、第二十四號、第二十五號、第二十六號、第二十九號、第三十號、第三十一號、第三十二號、第三十三號、第三十四號、第三十五號、第三十六號ノ各水雷艇ニシテ 明治天皇ハ其ノ月二十六日宮城發聲二十七日神戸ヲ經テ舞子行在所有栖川宮別邸ニ行幸アリ、翌二十八日舞子假棧橋ヨリ軍艦淺間ニ御シ紀伊水道ニテ海軍ノ演習ヲ親閱セラレ、同日黒江灣ニ假泊アリ。二十九日黒江灣ヨリ明石沖ニ着御行在所ニ入ラセラル。而シテ觀艦式當日ニハ午前七時三十分行在所ヲ出テサセラレ十時神戸港ニ於テ觀艦式御親閱ヲ遊ハサレ、式後軍艦敷島ニ臨幸アリテ演習員其ノ他へ宴ヲ賜ヒ午後二時御召艦ニ復御五時三十分行在所ニ還幸アリ翌日ハ舞子ニ御駐紮。五月二日午前十時三十分舞子驛御發車東京還幸ノ途ニ就カセ給フ(神戸市史参照)。

### 第四款 第三次大演習觀艦式

第三回ハ海軍大演習觀艦式ニシテ、明治三十六年四月十日噸數二十一萬七千七百七十六噸七十一隻ノ艦艇ヲ以テ舉行セラル。其ノ参列艦ハ淺間、宮古、千早、夕霧、金剛、三笠、初瀬、敷島、朝日、富士、八島、常盤、磐手、出雲、八雲、吾妻、笠置、千歲、高砂、吉野、浪花、高千穂、秋津洲、須磨、明石、鎮遠、扶桑、和泉、千代田、平遠、高尾、筑紫、濟遠、豐橋、雷、電、曙、叢雲、不知火、陽炎、薄雲、曉、霞、白雲、朝潮、漣、隼、白鷹、鷗、眞鶴、千鳥、福龍、第三十九號、第四十號、第四十一號、第四十二號、第

四十三號、第六十二號、第六十三號、第六十四號、第六十五號、第六十六號、第三十一號、第三十二號、第三十三號、第三十四號、第三十五號、第二十一號、第二十四號ノ各水雷艇並ニ吳鎮守府所屬吳丸式場ハ和田岬ヨリ約三海里ヲ距ツル東方海面ニシテ御召艦ハ軍艦淺間ニシテ宮古、千早、夕霧、金剛、及吳丸之ニ供奉ス。前掲神戸港史ハ當時ノ狀況ヲ述シテ左ノ如ク語レリ。

「式場位置は和田岬より約三海里を距つた東方海面である、(中略)是より先 明治天皇は四月七日東京御發轅八日舞子御着有栖川宮別邸に行在あらせられた。超えて四月十日午前八時舞子假停車場御發轅、八時二十五分神戸驛御着、御馬車に召されて米利堅召艦淺間に御移乗あつた。淺間は午前九時三十分解纜、宮古、千早夕霧、金剛及吳丸供奉し式場に臨御觀艦あらせられた。零時三十分淺間艦に於て御宴あり、午後二時十分御召艦に移らせられ續いて御上陸、監視部に御少憩の後再び御馬車にて神戸驛に成らせられ、三時二十分御發轅舞子行在所に還幸まつた。(後略)

#### 第五款 第四次大演習觀艦式

明治三十六年四月神戸港ニ於ケル第三次觀艦式ノ後ヲ享ケテ同三十八年十月二十三日露戰役ノ「凱旋觀艦式」ヲ横濱沖ニ於テ舉行セラレ、次テ明治四十一年四々ヒ神戸沖ニ於テ行ハセラレタルカ、爾來今回ノ御盛儀ニ至ル迄數回ノ觀艦式ハ孰レモ横濱沖、横須賀沖

夕立、白露、夕暮、野分、白雲、白妙、松風、諺、東雲、薄、雲霞、雲雀、鷲及鷗の二十四隻。

第五列は潮、若葉、朝風、子の日、初春、初風、初雪、時雨、卯月、水無月、菊月、長月、朝露、夕風、疾風、進風、蒼鷹、雁、鶴、燕、姉川及關東丸の二十二隻。

第六列は春雨、皐月、山彦、文月、臘、曙、電、叢雲、陽炎、夕霧、不知火、朝霧、村雨、白雪、朝汐、七二號艇、七三號艇、七四號艇及七十五號艇の二十隻、外に潜水艇隊ミして、第一號より第七號までの七隻にして、百二十隻の艦船カ茅海を歴し威風堂々ミして日露戰役の戰勝を誇り顔なり。この外に外國陪觀艦船を番外ミし特別拜觀艦を第七列に準した云々(一隻數不突合ナルモ其ノ儘登載ス)

觀艦式ハ十一月十七日御舉行ノ御豫定ニテ、是ヨリ先 天皇ニハ奈良地方ニ於ケル陸軍大演習ヲ統裁遊ハサレシカ十一月十五日奈良行在所御出門舞子假停車場御着、有栖川宮御別邸ニ御駐泊十七日式場ニ臨御ノ御豫定ナリシ處、恰モ當日ハ海上風波高ク途ニ御取止メノ仰出アリ、十八日午前八時二十五分行在所御出門、八時三十分舞子假停車場御發車神戸停車場ヨリ米利堅波止場ニ御着、税關監視部御少憩ノ後艦載艇ニ乘御、九時三十五分御召艦淺間ニ御移乗、滿州、浦波、豊橋及韓崎ノ五供奉艦ヲ隨ヘサセラレテ御親遊ハサル、御式終リテ淺間及筑波、生駒ノ二艦ニ於テ、皇族、大臣、其ノ他陪觀者ニ宴ヲ給ヒ午後二時神戸港ニ還御、同三時三十分神戸驛御

等ニ於テ舉行セラレ、其ノ間二十二年我カ縣民ハ、此ノ御盛儀ニ直接スルノ光榮ニ浴セス、以テ如何ニ今回ノ觀艦式ガ縣民ノ翹望措ク能ハサリシモノナリシカ蓋シ想察ニ餘リアリト謂フヘシ

明治四十一年ノ觀艦式ハ吳、佐世保及馬山浦並ニ九州方面ニ於ケル海軍大演習ノ終了後十一月十八日參列艦艇百廿三隻、總噸數實ニ四十萬四千四百六十噸ニシテ明治二十三年初メテ我カ神戸沖ニ於テ海軍觀兵式ヲ舉行セラレテヨリ年ヲ閱スル僅カニ二十年ニ足ラスト雖モ、其ノ間日清、日露ノ兩戰役ノ試練ヲ經タル我カ海軍ノ威力ハ異常ノ發達ヲ爲シ四十萬噸ノ精銳ハ七列ニ分レテ堂々茅渚ノ蒼海ヲ歴シタルノ光景ハ蓋シ空前ノ盛觀ヲ呈シタリト謂フ

神戸港史ハ其ノ情景ヲ紹介シテ曰ク  
「明治四十一年十一月十八日神戸に於て觀艦式を舉げられた、式場は神戸橋橋端の東北約一哩五鎖を起點とする海面である。  
參列艦は

- 第一列に三笠、富士、朝日、相模、敷島、肥前、石見、周防、吾妻、八雲、日進、春日、宗谷、音羽、新高及對馬の十六隻。
- 第二列に筑波、生駒、香取、鹿島、出雲、岩手、常盤、阿蘇、笠置、千歲、浪速、高千穂、秋津洲及千代田の十四隻。
- 第三列は壹岐、鎮遠、沖島、見島、嚴島、橋立、八重山、須磨、最上、龍田、和泉、千早、鈴谷及明石の十四隻。
- 第四列は彌生、吹鷹、霞、有明、如月、初霜、鷲、神風、三日月

發車舞子行在所ニ還幸遊ハサレタリ。

#### 第二節 昭和五年海軍特別大演習

ロンドン軍縮會議ノ協定成リ世界平和ノ史上ニ光輝アル一章ヲ添ヘタル昭和五年ノ我カ海軍特別大演習ハ、其ノ年十月十日ヨリ同二十六日迄ノ間、北八千島方面ヨリ南ハ臺灣南端ニ至ル領海三千哩ノ廣茫タル南太平洋ヲ其ノ舞臺トシテ行ハレタリ。參加スルモノ第一、第二、第三ノ各艦隊、及ヒ横須賀、吳、佐世保ノ各鎮守府並ニ大湊馬公ノ二要港部ニシテ其ノ艦船實ニ百八十六隻七十二萬餘噸、航空機百餘機人員六萬五千人其ノ規模ノ廣大ナルコト我カ國ニ於テ未タ其ノ例ヲ見サル所ニシテ、而モ畏クモ 今上陛下第二回目ノ御親裁トシテ、且ハロンドン軍縮會議直後ノ御催トシテ、洵ニ内外ノ注目ヲ惹キタリ。演習ハ之ヲ二期ニ分チ其ノ前半ハ十月十日ヨリ同十六日迄ニシテ之ヲ第一期演習ト稱シ、赤青兩軍ノ單獨演習ヲ行ヒ軍令部長統監シ、十八日ヨリ御親裁ノモトニ第二期戰ニ入りテ對抗演習ヲ實施セラレ二十一日一旦之ヲ中止觀艦式準備ニ入りタルカ、其ノ實施要項次ノ如シ。

#### 實施要項 (十月四日海軍省公表)

- 一、特別大演習施行時期 十月十日ヨリ同二十六日ニ至ル十七日間
- 二、演習地域 日本南方海面

三、演習参加艦隊部隊

イ、海上部隊

聯合艦隊ノ諸艦並各鎮守府要港部ニ於ケル在役艦ノ大部及豫備艦ノ一部ニシテ戰艦五隻、巡洋艦二隻、大型巡洋艦四隻、其ノ他巡洋艦十九隻、航空母艦三隻、其ノ他軍艦十隻、驅逐艦七十六隻、潜水艦三十六隻、特務艦二十一隻、掃海艇十隻等トス

ロ、陸上部隊

横須賀、吳、佐世保鎮守府及大湊、馬公要港部所屬官衛部隊

四、主ナル演習部隊指揮官

- 聯合艦隊司令長官 海軍中將 山本英輔
- 第二艦隊司令長官 海軍中將 飯田延太郎
- 第三艦隊司令長官 海軍中將 中村良三
- 横須賀鎮守府司令長官 海軍中將 大角岑生
- 吳鎮守府司令長官 海軍中將 野村吉三郎
- 佐世保鎮守府司令長官 海軍中將 島 巢 王 樹
- 大湊要港司令官 海軍少將 八角三郎
- 馬公要港司令官 海軍少將 濱野英次郎

五、主要實施要項

演習開始後各部單獨訓練ヲ行ヒタル後夫々方略ニ基キ兩軍艦隊ハ各根據地ヲ出港シ 大元帥陛下御親裁ノモトニ對抗演習ヲ行

無電、飛行機等ノ單獨訓練ハ十六日全部終了シ、愈十八日ヨリ第二期演習ニ入り 大元帥陛下御親裁ノ下ニ最新兵力ヲ以テ、廣汎ナル太平洋ヲ舞臺トシテ、攻防各艦隊共其ノ威力ヲ發揮スルコト、爲レリ。

此ノ日 大元帥陛下ニハ午前九時十分宮城御出門一木宮相、奈良侍從武官長、鈴木侍從長、武官行幸主務官以下供奉員ヲ隨ヘサセラレ略式自動車兩輛ニテ東京驛御到着、同廿分、御機嫌廳ハシク横須賀ニ向ケ御發車遊ハサレ同十一時三十五分皇禮砲轟ク裡ヲ横須賀驛ニ御着 大元帥ノ海軍御軍裝ニテ大角横須賀鎮守府司令長官ノ御先導ニテ、ホームヨリ逸見海軍樓橋迄ノ凡一丁半ヲ御徒歩ニテ埠頭ニ着御、汽艇ニテ御召艦霧島ニ乗御第三十驅逐隊ノ四驅逐艦供奉申シ上ケ演習地ニ向ケ御發航遊ハサル。

是ヨリ先、午前六時谷口軍令部長ヨリ、ラヂオニテ赤青兩軍ニ開戰命令下ルヤ、館山沖及ヒ小笠原諸島一帶ニ在ル赤軍並佐伯灣及奄美大島方面ニ在ル青軍ハ太平洋上東西八百哩ヲ距テ、對峙シ、各所屬ノ飛行機ヲ以テ前哨戰ヲ開始シタルカ一方横須賀御發航後一路演習地ヘ御直航遊ハサレタル 聖上陛下ノ御召艦霧島ハ特ニ軍港ノ空襲ヲ御親閱ノ爲、同日午後七時頃突然軍港沖ニ引返シ、第二海堡附近ニ御假泊先ツ海上ニ於ケル第一夜ヲ御過シ遊ハサレタリ。

夫ヨリ攻防數日兩軍ノ精銳 陛下御統監ノ下ニ渺茫タル海洋ヲ中心トシ凡ユル作戰ニ從事シ更ニ戰最モ酣ナル廿一日ハ早曉ヨリ互ニ陣容ヲ新ニシテ、將ニ乾坤一擲ノ砲火ヲ交ヘ勝敗ヲ一舉ニ決セムト

六、大演習觀艦式

十月二十六日神戸沖ニ於テ舉行セラル 觀艦式後 御講評次テ特別大演習終結セラル

而シテ第一期戰ハ、十月十日午前八時ヨリ開始サレタルカ、先ツ青軍聯合艦隊ハ吳軍港ニ於テ赤軍第三艦隊ハ伊勢灣ニ於テ、何レモ發令ト共ニ、臨戰準備ヲ開始シタリ。一方防禦配置ニアル吳、横須賀、佐世保、大湊、馬公各鎮守府並要港部ニ在リテモ只管戰艦ノ至ルヲ待チ、殊ニ攻撃赤軍第三艦隊ハ中村良三中將指揮ノ下ニ、快速力ヲ以テ誇ル水雷戰隊夕張、龍田カ各驅逐艦ヲ率イテ第一線ニ進ミ水雷戰隊、潜水戰隊並飛行機ヲ以テ敵狀偵察ヲ怠ラス以テ意表ニ出スル行動ニ出テムト機會ヲ窺ヒタリ。一方山本英輔中將ノ率ユル防禦青軍ハ、佐伯ニ特設航空隊ヲ設置シ同隊所屬ノ水上機ヲ飛翔セシメテ、南太平洋ノ偵察ニ備フル等、實ニ攻防數百哩ノ間隔ニ孰レモ枚ヲ啣ムテ虎視眈々タルモノアリ。攻防ノ情勢日ヲ經ルニ及ンテ益々白熱化シ、十六日ニハ愈主力艦ノ出動ヲ見ルニ至リ、即チ吳軍港ニ於テ待機出動準備中ノ陸奥、山城、伊勢ノ主力戰隊及第三戰隊川内、由良、長良等ハ青軍司令官山本英輔中將指揮ノ下ニ、戰鬪旗ヲ橋頭高ク掲ケ軸艦相啣ムテ佐伯灣ニ向ケ出航シ、之ニ對シ、一方清水灣ニ在リテ専ラ臨戰準備ヲ整ヘツ、アル中村良三中將ノ赤軍第三艦隊ハ、攻撃作戰ヲ以テ一路小笠原諸島ニ進ミ艦ヲ展開サルヘキ第二期演習ニ備ヘタリ。

十月十日第一期戰ヲ開始シタル海軍大演習ハ開始以來各艦ノ砲術スル、矢先午前四時三十分御召艦霧島ノ統監部ヨリ數百哩ノ海上全部隊ニ對シ演習中止ノ命令下リ、茲ニ十餘日ニ亘ル特別大演習ハ全ク最後ノ幕ヲ閉チタルカ之ニ關スル中央統監部ノ發表ハ左ノ如シ。

海軍大演習中央統監部發表

(十月二十二日)

今回の海軍特別大演習は長くも 天皇陛下御親裁のみに舉行あらせられ昭和二年の特別大演習に似ても、今上陛下第二回目的御統裁である演習参加部隊は第一第二及び第三艦隊横須賀、吳、佐世保の三鎮守府大湊、馬公の二要港部で帝國海軍のほんごん全部であつて参加艦船は百八十六隻、七十二萬餘噸航空機百餘機人員六萬五千人に及びその規模の大なること從來に比を見ざるにころである演習期間は本月十日から二十六日までであつてその前半は第一期演習と稱し軍令部長統監のみに赤青兩軍の單獨演習を行ひ十八日から第二期に入り御親裁のみに對抗演習を實施せられ二十一日にこれを中止して艦隊は堺沖に集合し二十三日に觀艦式々場に入ると豫定である對抗兩軍は御親裁の光榮に感激し、全員いよゝ奮勵し各全力を擧げて平素の訓練を實地に試み北は千島方面から南は臺灣の南端にいたる領海三千哩の幅員ある曠茫たる海面を舞臺とし互に攻防の秘術を盡して作戰に従事した。對抗演習第一日には早くも兩軍戰鬪部隊は互に觸接戰鬪を交へ第二日には赤軍航空母艦から進撃の飛行機隊が大舉して横須賀方面

を空襲し艦隊の戦闘も次第に激烈となり廢艦の宣告を受けたるものやうやく多きを加へた第三日に入り戦闘海面は擴大し兩軍艦隊の全部が縦横に馳驅して白熱戦を交へたをりから天候險惡となり小艦艇は木の葉の如く奔弄せられ主力艦といへども怒濤に洗はれ視界は狹窄し夜に入るにしたがひ猛雨その度を加へたが將士の意氣はかへつてます、揚り飛行機の果敢なる行動潜水艦の靭強なる襲撃驅逐艦、巡洋艦の壯烈なる活動主力部隊の巧妙なる行動はいづれも嘆稱措く能はず觀るものをして意を強うせしむるものがあつた第四日午前九時壯快なる艦隊の決戦となり戦闘將に酣なるにいたり演習中止の命が下つた。

陛下には十八日午前横須賀より「霧島」に御乗艦あそばされて以來終始上甲板に立たせたまひ軍令部長の奏上する戦況を聴召されつ、御熱心に演習を御統裁あそばされた二十一日以後荒天のため狂瀾甲板を洗ふにいたるや御座所を前艦橋に移されたまひたるが海波の飛沫が御眼鏡をくもらせ強風が御軍帽のあご紐を斷つかと思はしめるなご畏き極みであつた、また四晝夜にわたり御睡眠の御暇も十分ならず第四日のごき徹宵演習をみそなはせたまひいさ、かも御疲勞の御模様を拜せざりしは供奉員をはじめ全軍の將士がひみしく感激し奉つた次第である、本演習の成果については慎重なる研究をまたねばならぬが一萬噸巡洋艦が偉大なる能力を有するこゝに驅逐艦が驚異すべき攻撃力を有するこゝに、潜水艦飛行機がますます進歩して絶大なる威力を發揮せるこゝに主力艦が依然

海上兵力の重鎮であるこゝになきは、十分に實證し得たところである、また廣大なる帝國の沿海を守備すべき任務を有する防禦軍が寡をもつて衆に當りよく攻撃軍を撃破するは尋常一様の苦心でなく兵力の不足を痛感するこゝにもに極力訓練の向上をはからねばならぬ次第である。

演習を通じ殉職者五名を出したのは誠に遺憾で深く哀悼の念に堪へないところであるいづれも天聽に達し祭料を賜はり死者をして餘榮あらしめられたるは感激のほかなき次第である、また巡洋艦阿武隈は高速交戦中に機關の一部に故障を來した、め僚艦「北上」に觸衝してその艦首を破損し宸襟を惱まし奉つたのは甚だ残念であるが大事に至らなかつたのは不幸中の幸である。

### 第三節 神戸港御臨幸

十八日來ノ大演習御統監了ハサセラレタル 大元帥陛下ニハ十二日午後、御召艦霧島ニテ我カ神戸港ニ御入港遊ハサル。

願レハ、昭和四年六月七日、我カ縣ニ行幸、親シク民情ノ御觀察遊ハサレテ茲ニ一年有半、更ニ觀艦式御親臨ノ聖駕ヲ奉迎スルノ光榮ニ浴シタル二百七十萬縣民ノ恐懼感激ハ其ノ極ニ達シ、眞ニ排舞措ク所ヲ知ラサルノ有様ナリキ。

#### 行幸御日程

十月二十二日(水)

午後一時廿分頃

横須賀軍港御入港

横須賀御發車

午後二時三十分

東京驛御發車

東京驛御發車

午後三時五十分

東京驛御發車

東京驛御發車

午後四時十五分

東京驛御發車

東京驛御發車

午後五時頃

江田内御入港

江田内御入港

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

午後三時三十分頃

江田島御上陸

江田島御上陸

ヨリ先軍艦羽黒ニハ高橋本縣知事、黒瀬神戸市長、篠崎税關長、柴田大阪府知事、關大阪市長等先乗シテ 陛下ノ乗御ヲ御待チ申シ上ク。

陛下ニハ御機嫌麗ハシク、是等ノ天機奉伺ヲ受ケサセラレ午後四時二十分 出港喇叭ト共ニ、御召艦羽黒ハ神戸港内防波堤第一航路關門南方約壹千メートルノ錨地ヲ離レ、橋頭高ク天皇旗ヲ掲ケ、皇禮砲轟ク裡ニ供奉ノ編隊艦ヲ隨ヘ、艦ヲ暮レ初ムル明石海峡ニ向ケ出航セリ。

斯クシテ御召艦羽黒ハ當日、播磨灘小豆島沖合ニ御假泊翌二十三日午後三時江田島御入港、四時ヨリ海軍兵學校生徒觀兵式ヲ御親臨遊ハサレ、當日ハ兵學校内御駐紮、翌二十四日海軍兵學校生徒ノ諸作業ヲ天覽遊ハサル。

斯クテ二十三日、二十四日兩日ニ亘ル江田島海軍兵學校行幸ノ御豫定ヲ滞リナク終ラセラレ、午後四時二十分江田島港御發航同夜ハ安藝灘ニ御假泊アラセラル。

#### 第四節 再ヒ聖上ヲ奉迎ス

二十四日夜、安藝灘浦刈島附近御假泊ノ 聖上陛下ニハ、二十五日午前五時三十分早クモ御假泊地御發航卯月、彌生、如月、睦月ノ四供奉艦ヲ從ヘサセラレ、秋雨ソボ降ル中ヲ一路錦旗ヲ東ニ進メ給フ。

カクテ午後二時二十分頃御召艦ハ早クモ和田岬沖ニ港ノ地點ニ其

ノ雄姿ヲ表ハシ肅々トシテ港内ニ近ツク、此ノ時觀艦式參加ノ爲港外ニ碇泊セル陸奥以下百五十餘隻ノ艦艇ハ一齊ニ奉迎ノ皇禮砲ヲ發射シ殷々タル砲聲ハ奉祝ノ號砲ト共ニ天地ニ響キ慶ヒテ港ノ内外ニ傳ヘタリ。午後二時四十五分御召艦羽黒ハ港内十番ブイニ聚留シ、牧野内大臣、高橋本縣知事、黒瀬神戸市長等ハ直ニ御召艦ニ伺候シテ天機ヲ奉伺シ、次テ 陛下ニハ午後三時三十分海江田侍從ノ御先導ニテ御召艦ニ召サレ、兼テ十八番ブイニ御待チ受ケ申シ上ケタル軍艦霧島ニ御移乘遊ハサル。

洋上八日ノ御生活ニモ、御疲勞ノ御模樣サヘ拜セラレス、艦内ニ於テ牧野内府以下ニ拜謁ヲ仰セ付ケラレ、其ノ夜ハ榮光輝ク神戸港ニ御駐泊アラセラル。

再ヒ 聖上ヲ奉迎シタル神戸港ハ大倉山、錨山、市章山等神戸背山ノ電飾ハ市内大商店官公衙ノ燦然タルイルミネーショント共ニ銀雨ノ中ニ光芒ヲ放チ、加フルニ午後七時半ヨリハ滿艦電飾シタル碇泊艦艇ヨリ一齊ニ探照燈ヲ照シ、陸ニ海ニ湧キ返ル歡聲ハ文字通りノ不夜城裡ニ轟キ渡レリ

#### 第五節 全艦隊入港及豫行演習

##### 第一款 全艦隊ノ入港 (十月二十三日)

意義アルロンドン會議後ノ第一回海軍大演習ハ、未曾有ノ規模ヲ以テ黒瀬灘ル太平洋洋ヲ舞臺トシ、攻防ノ秘術ヲ盡シテ十餘日ニ亘リ

八時十五分	第四列
九時	第五列
九時四十五分	第六列
十時三十分	第七列

二、番外列ノ各艦ハ式場進入艦船ノ行動ヲ妨害セサル如ク便宜出港豫定時刻指定位置ニ就クモノトス

##### 飛行機空中分列ノ訓練 (十月二十三日)

一方觀艦式ニ參加シテ、空中大分列式ヲ行フヘキ艦上機五十二機ハ赤城、加賀、鳳翔ノ各母艦ヲ離レ、其ノ根據地タル大阪木津川飛行場ニ於テ、各鶴翼ヲ揃ヘテ發令ヲ待ツ。午前九時四十五分、喇叭ノ合圖ト共ニ出發準備ヲ始メ、同十時十分酒卷少佐ノ指揮機ハ先頭ニ其ノエヤ・ポートヲ離レ攻撃及戰闘機ハ各四編隊ト爲リ、各隊二百米ノ間隔ヲ保チ、銀翼ヲ列ネテ神戸ニ向フ。一方深江海岸ニ於テ機翼ヲ揃ヘテ待機中ナリシ能登呂及第一、第二艦隊ノ搭載スル水上偵察機二十機モ殆ト之ト同時ニ離水シテ木津川ノ一隊ニ加ハリ、合シテ一大空軍ト爲リ、轟々タル爆音ト共ニ式場上空ニ向ヒ、壯烈ナル空中分列ノ訓練ヲ行ヒ、後西方須磨ノ上空ヨリ引返シテ正午近ク始發地ニ歸着セリ。

##### 第二款 觀艦式豫行演習

觀艦式豫行演習ハ二十四日行ハセラレタルカ二十三日午後ヨリ秋晴レノ空ニ漸次雲ヲ生シ、更ニ二十三日夕ノ天氣豫報ハ「東の風曇雨模様」ヲ報シテ此ノ壯觀ヲ拜セムト期待シタル幾萬ノ人心ヲ不安

接戦シタルカ、二十一日午前四時三十分演習中止ノ命令ト共ニ、遂ニ最後ノ幕ヲ閉チ、參加各艦艇ハ晴ノ觀艦式ニ參列スヘク其ノ準備ヲ急ケリ。

二十一日、大演習終了シタル各艦ハ當日ヨリ翌二十二日ニ亘リ一旦 觀艦式準備ノ假錨地タル岸和田沖ニ續々來集シ二十二日午後ニハ陸奥、山城、伊勢、榛名ノ主力艦ヲ始メ百六十餘隻ノ艦艇全部ノ集合ヲ見、二十三日未明ヨリ一齊ニ出航準備ヲ整ヘ、旗艦陸奥ノ指令ヲ待ツ。然ル程ニ、午前六時旗艦陸奥ハ橋頭高ク「運動開始」ノ信號ヲ掲揚シ、同時ニ拔錨シテ艦首ヲ北ニシテ運動ヲ開始スレハ榛名、山城、長門、日向、古鷹等之ニ次キ、長蛇ノ單縱陣ヲ作り徐々ニ大艦隊運動ヲ起シテ北航シ西折シテ式場ニ入ル。

式場ハ神戸港東防波堤外ヨリ西宮夙川沖東西六哩、南北三哩ノ彪大ナル海面ニシテ參加艦隊ハ第一ヨリ第七ニ至ル七列ニ艦首ヲ西ニシテ、一齊ニ投錨シ午後一時ニハ全ク終リ實ニ近代の浮城トシテノ巨艦ヲ茅海ニ浮ヘテ堂々四邊ヲ歴シタリ。

#### 特別大演習觀艦式々場進入要領

一、各隊(艦)ハ十月二十三日午前六時ヨリ左記ニ依リ觀艦式々場ニ進入シ各隊(艦)毎ニ指定ノ位置ニ軍艦ハ又錨泊其ノ他ハ單錨泊ヲ行フ。

午前六時	第一列
六時四十五分	第二列
七時三十分	第三列

ナラシメタリシカ、果然二十四日ハ朝來北東ノ疾風吹キ募リ、扇港ノ海面ハ一面ニ白キ飛沫ヲ上ケ港外遙カニ肅然トシテ整列スル艦隊ハ薄霧ノ帳ニ隠サレテ秋陽ノ恵ヲ受クルコト少シ、然ルカ中ニモ日本海軍ノ精銳百六十四隻ノ艦輪ハ堂々トシテ眞ニ海ノ城廓トシテノ威容ヲ保テリ。

二十四日ハ此ノ荒天ヲ物トモセス、豫行演習ノ壯觀ヲ拜觀セムトスル群集ハ朝來未明ヨリ蝟集シ、阪神、阪急、神有、宇治電等神戸市ヲ繞ル各郊外電車ハ何レモ滿員ノ盛況ニテ西ニ東ニ此ノ拜觀者ヲ運ヒ葺合港灣及神戸背山ノ一帶ハ拜觀ノ群集ニテ掩ハレ、一方特許拜觀船タル韓崎、鶴見、鳴門及當日ノ供奉艦タル足柄、妙高、那智ノ三艦ハ何レモ午前七時半迄ニ拜觀者ヲ滿載ナシテ韓崎、鶴見、鳴門ノ三特務艦ハ大阪ヨリ拜觀者ヲ滿載シテ航行セル神威、伊豫丸等ト共ニ番外第一列ニ着キ足柄、妙高、那智ノ三艦ハ防波堤港外ニ出テ、御召艦霧島ノ出動ヲ待テ受ケタリ。

カクテ午前九時、御親閱ノ當日ヨリモ三十分早ク御召艦タルヘキ霧島ハ、碇泊ノ第十八番ブイヲ離レテ供奉ノ各艦ヲ隨ヘ第一、第二列間ヲ縫フテ東ニ進ミ、列尾ヲ左轉シテ第五、第六列間ニ入りテ西進シ十時三十分全ク豫行演習ヲ終了シタリ。

### 第六節 觀艦式

#### 第一款 當日ノ御模様

明クレハ十月二十六日、菊花薫ル秋冷ノ日海國日本ノ威容ヲ象徴

スル海ノ盛儀大觀艦式ヲ取り行ハセラル。山川草木ヲ悉ク淨化シ盡シタル前日來ノ雨モ、今朝ハ流石ニ全ク霽レテ、片雲タニ見ヌ秋陽ノ空、漣サヘ立テ茅ノ海、實ニ吹ク風枝モ鳴ラサヌ太平ハ、今日ノ御盛儀ニ遣フ人々ヲシテ一入感激ニ堪ヘサラシム。

此ノ日、此ノ曠古ノ御盛儀ヲ拜觀セムト神戸市ニ集ヒ來ル者京、阪、神ニ止ラス、岐阜、名古屋、岡山ハ勿論遠クハ東京又ハ九州方面等ヨリ參集スル者、其ノ數知レス、之カ爲メ鐵道當局ニ於テハ臨時列車ヲ増發シ、神戸市内外ノ各電車ハ何レモ、空前ノ輸送ヲ覺悟シ前日來終夜ノ運轉ヲ續ケ、專ラ拜觀者ノ輸送ニ努メタリ。斯クシテ蝟集セル者數百萬陸モ海モ山モ街モ全ク此ノ人波ヲ以テ埋モレリ。

荒天ノ下ニ豫行演習ヲ終リ、只管御親閱ノ日ヲ待テ待テヒタル各艦艇ハ、感激ノ一夜明ケタル二十六日式場ニハ參加スル艦艇百六十四隻六十九萬八千二百二十三噸ノ精銳ハ第一列ヨリ第七列ニ規矩整然トシテ威容ヲ整フ先ツ

第一列ニハ陸奥、榛名、山城、伊勢、長門、日向ノ各戰艦、青葉、衣笠、加古、古鷹ノ所謂加古級巡洋艦、北上、多摩ノ二等巡洋艦、嚴島、白鷹ノ敷設艦等十四隻。

第二列ニハ赤城、加賀、鳳翔ノ三航空母艦ヲ始メ由良、長良、川内、名取、神通、大井、龍田ノ各二等巡洋艦、野風、神風、波風、沼風ノ風級、如月、卯月、彌生、睦月ノ月級ノ各驅逐艦等ノ十八隻。

第三列ニハ二等巡洋艦夕張ヲ先頭ニ太刀風、羽風、朝風、秋風、

春風、鼓風、松風、朝風、夕月、菊月、三日月、望月、磯風、濱風、時津風、天津風、夕風、追風、疾風、朝風、蓮、蓬、夢ノ各驅逐艦及第九、第十ノ掃海艇等二十六隻。

第四列ニハ二等巡洋艦那珂ヲ先頭ニ早蕨、吳竹、若竹、早苗、萩薄、藤、菖、芙蓉、刈萱、朝顏、菱、菘、葦、江風、谷風、菊、葵、柳、桃、楡ノ各驅逐艦及第七、第八ノ掃海艇等二十五隻。

第五列ニハ二等巡洋艦鬼怒ヲ先頭ニ深雪、吹雪、白雪、初雪、叢雲、薄雲、東雲、白雲、浦波、敷波、磯波、綾波、朝霧ノ各驅逐艦第一乃至第六ノ掃海艇等二十隻。

第六列ニハ潜水母艦迅鯨、長鯨、敷設艦勝力、特務艦燕、鷗以下潜水艦伊第五三乃至六〇及六三、同シク呂第二五、二八、五四、五五、五六、六〇乃至六四ノ二十四隻。

第七列ニハ二等巡洋艦大龍ヲ先頭ニ同シク五十鈴、海防艦春日、對馬、特務艦能登呂、敷設艦常盤ノ外潜水艦伊第三、第四、第二十一乃至第二十四、第六十一、第六十二、第六十四、呂第五十一、第五十三、第五十七、乃至第五十九、第六十五乃至第六十七ノ廿三隻。

番外第一列ニハ特許拜觀船特務艦早鞆以下十六隻、同第二列ニハ商船ベるふあすミ丸以下十八隻孰レモ滿載船飾ノ下ニ拜觀者ヲ滿載シテ式場南端ノ東西ニ亙リテ列ヲ正ス。

更ニ式場北側ノ海面ハ一般拜觀者ヲ滿載シタル拜觀船ヲ以テ長蛇ノ陣ヲ作り其ノ壯、其ノ美、正ニ茅淳ノ偉觀トシテ宛然一幅ノ鳥

嚴島タルヲ失ハサルヘシ

願レハ、明治元年天保山沖ニ於テ六隻ノ艦船ヲ以テ觀艦式ノ行ハレテヨリ、年アルコト茲ニ六十有三、明治大正ノ御代ヲ經タル昭和

ノ今日皇運益々隆盛ニ、國運亦愈々進展シ、萬民歡呼ノ裡ニ此ノ盛儀ヲ迎フ。而モ參列百六十餘隻ノ艦艇中常盤、春日ノ二老艦、韓崎

神威ノ二特務艦ノ外ハ皆之レ純然タル國產艦艇ニシテ、殊ニ戰艦陸奥、長門ヲ始メ所謂一萬噸級巡洋艦トシテ世界海軍ニ一大脅威ヲ與

ヘタル足柄、羽黑、妙高、那智ノ姉妹艦ノ存在ハ、我カ海軍史上特筆スヘキコト、シテ昔ヲ迎リ吾人ヲシテ轉々感慨ニ堪ヘサラシムルモノアリ。

海軍省發表當日ノ御式次第書次ノ通り

昭和五年特別大演習觀艦式御次第書

一、期 日 十月二十六日

二、式場海面 神戸沖

三、御召艦供奉艦左ノ如シ

御召艦 霧島

供奉艦 足柄 妙高 那智 羽黑

四、式場ニ於ケル參列艦船ノ錨地別圖ノ如シ(別圖略、口繪參照)

五、當日大阪灣在泊ノ軍艦、驅逐艦、掃海艇及特務艦ハ滿載船飾ヲ行ヒ潜水艦ハ艦飾ヲ行フ

六、午前九時海軍大臣、海軍軍令部長、大演習觀艦式指揮官、吳鎮守府司令長官、御召艦艦長及御召艦ニ在ル陪觀ノ勅任官以上ノ者、兵庫縣知事、大阪府知事、神戸市長、大阪市長並本邦駐劄外國大使館附海軍武官ニ調ヲ賜フ

七、午前九時三十分御召艦浮標ヲ離レ式場ニ向フ  
此ノ時參列艦船ノ乗員ハ海軍禮式ニヨリ敬禮ヲ行フベキ位置ニ就キ參列ノ軍艦ハ大演習觀艦式指揮官ノ旗艦ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行フ

八、供奉艦ハ逐次出港午前九時三十分迄ニ神戸築港南防波堤外ニ於テ待機シ御召艦ノ出港ヲ俟テ御親閱序列ニ入ル

九、御親閱

航路別圖(略)ノ如ク序列左ノ如シ

(御先導) 足柄 (御召艦) 霧島

(供奉) 妙高 那智 羽黑

十、御親閱中大演習觀艦式指揮官ハ玉座ノ側ニ在リテ參列部隊各指揮官ノ官氏名其ノ他必要ナル事項ヲ奏上ス

十一、飛行機隊ハ空中分列ヲ行フ

十二、參列艦船ハ御召艦其ノ附近ヲ通過ノ際逐次ニ海軍禮式ニヨリ敬禮ヲ行フ

十三、御親閱終ツテ御召艦供奉艦ハ豫定位置ニ投錨ス

十四、御召艦投錨後大演習關係諸員中重ナル者ヲ召サレ調ヲ賜フ

(既ニ調ヲ賜ハリタル者ヲ除ク)

四、午前九時頃前號ニ引續キ左記ニ依リ調ヲ賜フ

(一) 左記諸員ハ呼出順序ニ依リ艦長昇降口ヲ經テ中甲板後部ニ入り供奉宮内官ノ指示ニ依リ逐次御座所ニ進ミ拜謁ス

海軍大臣、海軍軍令部長、大演習觀艦式指揮官、吳鎮守府司令長官、御召艦々々長、陪觀ノ勅任官以上ノ諸官、兵庫縣知事、大阪府知事、神戸市長、大阪市長、本邦駐劄外國大使館附海軍武官

(二) 拜謁ノ際ノ通路等附屬甲號ノ如シ(圖略)

五、午前九時三十分御召艦浮標ヲ離レ式場ニ向フ

御召艦式場ニ進入前海軍々々令部長前艦橋ニ出御ヲ奏請ス

(一) 御座所ヨリ上甲板ニ出御ノ際喇叭「氣ヲ着ケ」一回ヲ吹奏シ軍樂隊ハ「君カ代」一回ヲ吹奏ス

(二) 海軍軍令部長御先導シ海軍大臣、大演習觀艦式指揮官區從ス

(三) 御通路附圖乙號ノ如シ(圖略)

(四) 前艦橋出御ノ際陪觀諸員ハ最上甲板中部ニテ御通路ノ側ニ整列奉迎ス

六、前艦橋玉座ニ出御

御親閱

御親閱中御召艦ニ在ル諸員ノ位置左ノ如シ

(一) 前艦橋 皇族、内大臣、宮内大臣、侍從長、侍從武官長、侍從武官、海軍侍從、行幸主務官、元帥、海軍大臣、海軍軍令

次ニ大演習ニ關スル御講評

次ニ勅語ヲ賜フ

十五、午後零時十分頃賜饌ノ爲足柄、妙高及赤城ニ皇族ヲ御差遣アラセラル

十六、午後零時三十分頃霧島、足柄、妙高及赤城ニ於テ大演習關係高等官及陪觀者(霧島、足柄及妙高ニ於ケル陪觀者ニ限ル)ニ午餐ヲ賜フ

十七、賜饌終ツテ御差遣ノ皇族御召艦ニ御歸艦

十八、午後二時三十分御召艦拔錨須賀ニ向ケ出港ス

第三十驅逐隊供奉ス

此ノ時參列艦船ハ海軍禮式令ニヨリ敬禮ヲ行ヒ參列ノ軍艦ハ大演習觀艦式指揮官ノ旗艦ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行フ

十九、觀艦式ノ前日及當日ノ夜間神戸沖在泊ノ軍艦ハ別ニ定ムル處ニヨリ電燈艦飾ヲ行フ

二十、服裝 武官ハ軍裝(略綬佩用)其ノ他ハ通常服(シルクハット)服制アル者ハ相當服

觀艦式御次第圖目

一、御召艦ニ於テハ午前八時三十分迄ニ陪觀者ノ乗艦ヲ終フ

二、陪觀ノ皇族ハ午前八時三十分頃神戸稅關第三突堤ニ御着ノ上直ニ御召艦(妃殿下及御未成年皇族ハ加賀)ニ向ハセラル

三、午前八時五十五分頃 皇族御對調

部長、大演習觀艦式指揮官、吳鎮守府司令長官

(二) 前艦橋下及其ノ附近並最上甲板中部

右以外ノ諸員

七、飛行機隊ハ空中分列式指揮官ノ定ムル隊形ヲ以テ東ヨリ西ニ向ツテ式場ニ進入シ式場ノ西側ニ於テ御召艦ノ一側上空ヲ航過ス

此ノ時各機高度ヲ低下シテ敬禮ス

八、御親閱終ツテ海軍軍令部長御座所へ入御ヲ奏請ス

(一) 入御ノ際喇叭「氣ヲ着ケ」一回ヲ吹奏シ軍樂隊ハ「君カ代」一回ヲ吹奏ス

(二) 御先導ヲナス者及區從スル者第五號(一)ニ同シ

(三) 御通路ハ第五號(三)ヲ逆ニス

(四) 諸員ハ陪觀ノ位置附近ニ適宜整列シ奉送ス

九、午前十一時頃御召艦豫定位置ニ投錨ノ豫定

十、午前十一時二十分頃觀艦式御次第第十四號ニ依リ調ヲ賜フ

(一) 御親閱ヲ終ヘ御召艦投錨セハ昭和五年特別大演習實施規程第四十二ノ講評參列官ハ御召艦ニ參集ス

(二) 諸官中勅任官ハ第四號ノ次第二準ニ遂次ニ御座所ニ進ミ拜謁ス

十一、午前十一時三十分頃特別大演習御講評ノ爲海軍軍令部長御講評場ニ出御ヲ奏請ス

(一) 御座所ヨリ上甲板ニ出御ノ際喇叭「氣ヲ着ケ」一回ヲ吹奏シ軍樂隊ハ「君カ代」一回ヲ吹奏ス

評場ニ出御ヲ奏請ス

進ミ拜謁ス

御親閱中御召艦ニ在ル諸員ノ位置左ノ如シ

(一) 前艦橋 皇族、内大臣、宮内大臣、侍從長、侍從武官長、侍從武官、海軍侍從、行幸主務官、元帥、海軍大臣、海軍軍令

次ニ大演習ニ關スル御講評

次ニ勅語ヲ賜フ

十五、午後零時十分頃賜饌ノ爲足柄、妙高及赤城ニ皇族ヲ御差遣アラセラル

十六、午後零時三十分頃霧島、足柄、妙高及赤城ニ於テ大演習關係高等官及陪觀者(霧島、足柄及妙高ニ於ケル陪觀者ニ限ル)ニ午餐ヲ賜フ

十七、賜饌終ツテ御差遣ノ皇族御召艦ニ御歸艦

十八、午後二時三十分御召艦拔錨須賀ニ向ケ出港ス

第三十驅逐隊供奉ス

此ノ時參列艦船ハ海軍禮式令ニヨリ敬禮ヲ行ヒ參列ノ軍艦ハ大演習觀艦式指揮官ノ旗艦ニ倣ヒ皇禮砲ヲ行フ

十九、觀艦式ノ前日及當日ノ夜間神戸沖在泊ノ軍艦ハ別ニ定ムル處ニヨリ電燈艦飾ヲ行フ

二十、服裝 武官ハ軍裝(略綬佩用)其ノ他ハ通常服(シルクハット)服制アル者ハ相當服

觀艦式御次第圖目

一、御召艦ニ於テハ午前八時三十分迄ニ陪觀者ノ乗艦ヲ終フ

二、陪觀ノ皇族ハ午前八時三十分頃神戸稅關第三突堤ニ御着ノ上直ニ御召艦(妃殿下及御未成年皇族ハ加賀)ニ向ハセラル

三、午前八時五十五分頃 皇族御對調

部長、大演習觀艦式指揮官、吳鎮守府司令長官

(二) 前艦橋下及其ノ附近並最上甲板中部

右以外ノ諸員

七、飛行機隊ハ空中分列式指揮官ノ定ムル隊形ヲ以テ東ヨリ西ニ向ツテ式場ニ進入シ式場ノ西側ニ於テ御召艦ノ一側上空ヲ航過ス

此ノ時各機高度ヲ低下シテ敬禮ス

八、御親閱終ツテ海軍軍令部長御座所へ入御ヲ奏請ス

(一) 入御ノ際喇叭「氣ヲ着ケ」一回ヲ吹奏シ軍樂隊ハ「君カ代」一回ヲ吹奏ス

(二) 御先導ヲナス者及區從スル者第五號(一)ニ同シ

(三) 御通路ハ第五號(三)ヲ逆ニス

(四) 諸員ハ陪觀ノ位置附近ニ適宜整列シ奉送ス

九、午前十一時頃御召艦豫定位置ニ投錨ノ豫定



觀艦式指揮官及參列艦船

一、觀艦席指揮官同幕僚

指揮官	海軍中將	山本英輔
參謀長	海軍少將	鹽澤幸一
參謀官	海軍中佐	後藤權造
參謀	同	杉山六藏
同	同	山口儀三郎
同	海軍少佐	大森仙太郎
同	同	西尾秀彦
同	同	山田定義
同	同	三田戶等
同	海軍大尉	吉田利喜藏
同	海軍機關中佐	和田篤太郎

二、觀艦式參列艦船

種別	隻數	排水量(噸)
戰艦	五	一五四、七五〇
巡洋戰艦	二	五五、六六〇
巡洋艦	二	一三四、四八五
航空母艦	三	六一、二七〇
潛水母艦	三	一九、八九〇
海防艦	四	一四、〇九五
驅逐艦	二	一〇、二〇〇
水雷艦	六	七七、三三五
水雷艇	六	四五、〇〇四
特務艇	一〇	七、二九〇
掃雷艇	二	九〇〇

(一) 海軍軍令部長御先導シ海軍大臣扈從ス

(二) 右終ツテ海軍軍令部長御座所へ入御ヲ奏請ス

(三) 入御ノ際喇叭「氣ヲ着ケ」一回ヲ吹奏シ軍樂隊ハ「君カ代」一回ヲ吹奏ス

(四) 御先導ヲ爲ス者、扈從スル者前號(一)ニ同シ

(五) 午後零時十分頃各賜饌艦ニ皇族ヲ御差遣アラセラル其ノ儀禮其ノ他別ニ之ヲ定ム

(六) 午後零時三十分頃賜饌

(七) 御召艦ニ於ケル次第左ノ如シ

(八) 賜饌ノ準備整ヒタルトキ侍從長賜饌場ニ出御ヲ奏請ス

(九) 御座所ヨリ上甲板ニ出御ノ際喇叭「氣ヲ着ケ」一回ヲ吹奏シ軍樂隊ハ「君カ代」一回ヲ吹奏ス

(十) 賜饌ニ召サレタル諸員ハ賜饌場ニ在リテ奉迎ス

(十一) 後甲板玉座ニ著御

(十二) 賜饌

(十三) 賜饌終ツテ侍從長入御ヲ奏請ス

(十四) 入御ノ際喇叭「氣ヲ着ケ」一回ヲ吹奏シ軍樂隊ハ「君カ代」一回ヲ吹奏ス

(十五) 諸員ハ賜饌ノ位置ニ在リテ奉送ス

(十六) 午後一時三十分頃御差遣ノ皇族御召艦ニ御歸艦

特設巡洋艦 一八 一一一、二八五  
計 一六四 六九八、一二五

空中分列指揮官及參加飛行機

一、指揮官

空中分列式指揮官	海軍少將	枝原百合一
第一航空戰隊司令官	海軍中佐	桑原虎雄
艦上機基地指揮官	加賀副長	海軍中佐 土田齊
水上機基地指揮官	能登呂副長	海軍少佐 千田貞敏
水上飛行機隊指揮官	能登呂飛行長	加賀飛行長 海軍少佐 酒卷宗孝
艦上飛行機隊指揮官	加賀飛行長	

二、參加飛行機

艦上攻撃機	三十一基
艦上偵察機	二十一基
水上偵察機	二十基
計	七十二基

特別大演習觀艦式命令 (觀艦式指揮官命令抄録)

- 一、觀艦式當日ノ儀禮等御次第書ニ依ルノ外左記ニ依ル
- (一) 午前八時滿艦ヲ行ヒ日没時之ヲ拂ス
- (二) 各艦ハ陸奥ニ倣ヒ指定ノ時機ニ皇禮砲ヲ行フ

(一) 御親閱ノ際參列艦ノ行フヘキ禮式令第六十五條ノ敬禮ニ關シ左ノ通り定ム

(イ) 「君カ代」吹奏ハ各艦三回乃至四回トス

(ロ) 祝聲ノ發唱ハ成ル可ク御召艦最近位置通過ノ際ニ之ヲ行フ

二、御親閱ノ際ニ於ケル御召艦列各艦距離ヲ左ノ通り定メ其ノ速力ヲ十二節トス

御先導艦 御召艦

供奉艦

〔足柄〕八〇〇米〔霧島〕六〇〇米〔妙高〕六〇〇米〔那智〕六〇〇米〔羽黑〕ノ要領ニ依リ空中分列ヲ行フ

第三款 御親閱

新クテ港内第十八番ブイニ繫留セル御召艦霧島ハ橋頭高ク天皇旗燦爛トシテ輝キ午前八時半迄ニ濱口首相以下陪觀者ノ乘艦ヲ終リ聖上陛下ニハ御機嫌イトモ麗ハシク、午前八時五十分神戶稅關第二突堤ヨリ御召艦ニ向ハセラレタル陪觀ノ皇族各宮殿下ニ御對謁遊ハサレ、同九時ヨリ安保海相、谷口軍令部長、山本觀艦式指揮官等ニ謁ヲ賜フ。

午前九時三十分、麗ラカナル秋陽ニ錦旗ヲハタメカシテ、御召艦霧島ハ第十八番ブイヲ離レ、第一航路ヨリ眞一文字ニ南防波堤外ニ

進行ヲ開始ス。コノトキ谷口軍司令部長ハ前艦橋ニ出御ヲ奏請シ、  
陛下ニハ、大元帥ノ海軍御通常服ニテ玉歩ヲ運ハセラレ、御召艦ニ  
ハ「氣ヲ着ケ」ノ喇叭ニ、次テ嚙曉タル君カ代ノ奏樂ハ靜ケキ大海原  
ノ隅々ニ迄澄ミ渡リ、防波堤外ニ御待受ケシタル供奉四艦ノ中、足  
柄ハ八百米ノ距離ヲ保チテ御先導申シ上ケ、妙高、那智、羽黒ノ三  
艦ハ六百米ノ距離、十二哩ノ時速ヲ保チテ御召艦ニ隨ヒ、除伍肅々  
トシテ式場第一列第二列間ニ進行サル。

折シモ旗艦陸奥ヨリ皇禮砲ヲ發射スレハ、參列ノ全艦艇一齊ニ之  
ニ和シ廿一發ノ皇禮砲ハ殷々トシテ天地ヲ震撼セシム。此ノ時 聖  
上ノ御親閱ヲ受クヘキ航空軍ハ木津川飛行場ヲ基地トスル艦上機五  
十二、深江海岸ヨリ出發スル水上機二十機ハ秋陽ニ輝ク銀翼ヲ揃ヘ  
テ嚮導機ヲ先頭ニ爆音勇マシク颯々三十丁ニ亘ル一大編成ヲ整ヘテ  
三百米ノ高度ヲ保チ式場ニ飛翔シ來リ、御召艦上ニ於テ各機首ヲ下  
ケテ御親閱ヲ受ク、其ノ光景洵ニ壯觀ヲ極ム。御召艦ノ進御ト共ニ  
各艦ハ軍樂「君が代」ヲ吹奏シ乗組員ハ一齊ニ登艦禮ヲ行ヒテ 聖  
上ヲ奉迎ス。陛下ニハ前艦橋御座所ニ在ラセラレテ谷口軍司令部長  
ヨリ奏上スル參列部隊ノ各艦長指揮官其ノ他ヲ聞召メサル、斯クテ  
御召艦ハ第一航過ヲ了ヘ北轉シテ第五、第六列間ノ第二航過ヲ東ヨ  
リ西ニ進御ス。

秋晴ノ空愈々高ク茅淳ノ波愈々靜カニ大六甲ノ連峰山容亦端麗ニ  
シテ森羅萬葉悉ク今日ノ佳キ日ヲ誇クカカ如シ。  
斯クテ午前十一時觀シク繞國產七十萬噸ノ艦艇ノ御親閱ヲ終リ御

### 第一海港博覽會

陸上第一ノ催シトシテハ、神戸市ヲ主體トシ兵庫縣、神戸商工會  
議所及ヒ實業團體等聯合ニテ、神戸博覽會協會ヲ設立シ、九月二十  
日ヨリ十月末日迄第一、第二、第三ノ會場ヲ以テ海港博覽會ヲ開催  
スルコトニ決シ

第一會場ハ兵庫埋立地約二萬一千坪ノ地ヲトシタル一大會場ニシ  
テ會場内ニ海軍作業場、海軍館、電氣館、航空館、貿易館、船舶館  
海軍海運館、港灣館等ノ各館ヲ設ケ主トシテ博覽會ノ重點ヲコ、ニ  
集中セリ。殊ニ近代の色調ニ富メル各館建築美ノ壯麗ハ見ル人ヲシ  
テ驚嘆セシメ

第二會場ハ湊川新開地公園ノ約一萬一千坪ノ地ヲ利用シテ水産館  
水族館、海洋館ノ三館ヲ收容シ、其ノ他港灣防備ノパノラマ式一大  
模型ヲ作り

第三會場ハ舊關西學院跡約一萬七千坪ノ高臺ニシテ拓植館、觀光  
館、記念館、美術館、衛生館等ヲ之ニ收メ  
三會場ヲ通シテ國民海事思想ノ普及ト國防智識ヲ涵養スルコトニ  
努メ、併セテ産業貿易ノ振興ヲ圖ルコトニ着眼シタル眞ニ海港都市  
ニ相應ハシク内容、外觀共ニ善美ヲ盡セリ

第二電飾及花電車等  
夜ノ神戸全市ヲ彩ル一大電飾ハ御召艦入港ノ十月二十二日ヨリ同  
二十八日迄ノ間ニ亘リ大倉山、錨山、諏訪山等ノ背山其ノ他市内櫛  
要ノ大建築物ニ一齊ニ行ハレ就中諏山上ノ「大巡洋艦」大倉山ノ「祝

召艦ハ式場西端ニ於テ全艦隊ト正面シテ所定ノ位置ニ投錨シタリ、  
大阪中央放送局ニ於テハ御召艦上ニ「マイクロホン」ヲ取付ケ全國  
中繼津々浦々迄御親閱ノ狀況ヲ放送シタルガ洵ニ近代科學ノ所產ト  
シテ聳目ニ價セリ。

### 第四款 勅 語

午前十一時イトモ壯嚴裡ニ御親閱ヲ終リ、御召艦所定ノ位置ニ投  
錨スルヤ、各艦長ハ艦載水雷艇ニ乘シテ御召艦ニ伺候シテ拜謁仰付  
ケラレ、同十一時三十分陛下ニハ御講評場ニ成ラセラレ御講評ノ後  
左ノ如キ優渥ナル勅語ヲ賜ヘリ

### 勅 語

朕茲ニ親シク大演習ヲ統裁シ且艦隊ノ威容ヲ閱シ士氣愈々旺盛ニ  
シテ作戰用兵ノ進歩著シキヲ觀 朕深ク之ヲ嘉ス  
惟フニ宇内ノ大勢ハ進展シテ息マズ汝等益々奮勵シ協心戮力上下  
一致以テ國防ノ大任ヲ完ウセンコトヲ期セヨ

### 第七節 奉祝ノ施設

觀艦式ノ御催ニ關シ、此ノ盛儀ヲ奉祝セムト一度御内定ノ報傳ハ  
ルヤ縣市ハ云フニ及ハス一般市民ハ熱誠ヲ覃メテ之カ奉祝ノ準備ヲ  
爲シタルカ其ノ概要次ノ通

### 第一款 陸上ニ於ケル催

大觀艦式ニ等ハ壯麗ヲ極メ、殊ニ十月二十五、六日ノ兩日ハ櫻爛々  
ル軍艦電飾及探照燈ノ光芒ニ照應シテ、文字通りノ不夜城ヲ現出セ  
リ  
奉祝花電車ハ神戸市電氣局ニ於テ十月二十二日ヨリ同三十日迄九  
日間國華、奉送迎、萬歲、錨、人魚、海洋、軍艦、海兵ノ各號  
九臺ニシテ市内ヲ晝夜運轉シタルカ其ノ構想ノ奇抜ハ裝飾ノ巧妙等  
ト相俟ツテ美麗ヲ極メリ

### 第二款 海上ニ於ケル催

第一煙火打揚及提灯行列  
第一海上ニ於ケル催シトシテハ煙火ノ打揚及提灯行列ニシテ、煙  
火打揚ハ左記要項ニ依リ之ヲ實施ス。

### 奉祝煙火打揚要項

- 一、場所 東防波堤ノ二  
但シ北端ヨリ四百米ヲ距タル點ヨリ南方五百米ノ間ヲ使用スルモ  
ノトス
- 水中煙火ハ警戒區域外ノ海面トシ風ノ方向ニ依リ位置ヲ定ムルモ  
ノトス
- 二、主催者 神戸市
- 三、期 日  
十月二十三日

午前 御召艦入港ノ際(陸上三ヶ所)運池、會下山、關西學院  
奉迎號砲二十一發(約十分間)

午後 御召艦出港ノ際  
奉送號砲二十一發

十月二十五日  
午後四時 御召艦歸港ノ際(軍艦ニテ皇禮砲發射後)  
奉迎號砲二十一發(陸上)

自午後四時半至午後六時 一時間半(約二分毎)(海陸)  
奉祝打揚花火四十五發

五段祝雷、遊龍祝雷、木葉付黃菊、祝雷海軍旗、雷付市旗、其他各種

自午後六時半至午後八時 一時間三十分(約二分毎)  
夜間打揚花火四十五發

御國之光、百花圖、菊光二化群蝶、紅星に殘月、木葉付菊光紅、降雪、其他各種

自午後八時至午後九時 (一時間)  
仕掛、亂玉、引火、錦魚、打揚各種花火

雷鳴五段打二十發 (一回)  
仕掛(祝雷電光百花圖、電光四季の眺、祝雷菊花殘る夕景、三河名物燕子花壇、激戰後大勝の輝) 五回

亂玉(彩色群青百花圖、昇亂玉百花圖) 二回  
水中 五色萬燈歡呼の聲 二回

引火 金銀垂柳 一回  
錦魚 遊動三色錦魚 二回  
打揚(空中艦隊現出、金波先變化星に連星、變奏丁字菊先變化、銀柳嵐山の夕景、三度變化星電光浮模樣其他各種) 五十八發

十月二十六日  
自正午頃至午後二時半 二時間半(約二分毎)

奉祝花火七十五發  
昇電光白雨、木葉付白菊變化、祝砲軍艦、祝萬國旗昇電光に紅雨、其他各種

午後二時半 御召艦出港ノ際(軍艦ニテ皇禮砲發射後)  
奉送號砲二十一發

自午後四時至午後五時 二時間(約五分毎)  
自午後四時至午後六時 二時間(約五分毎)

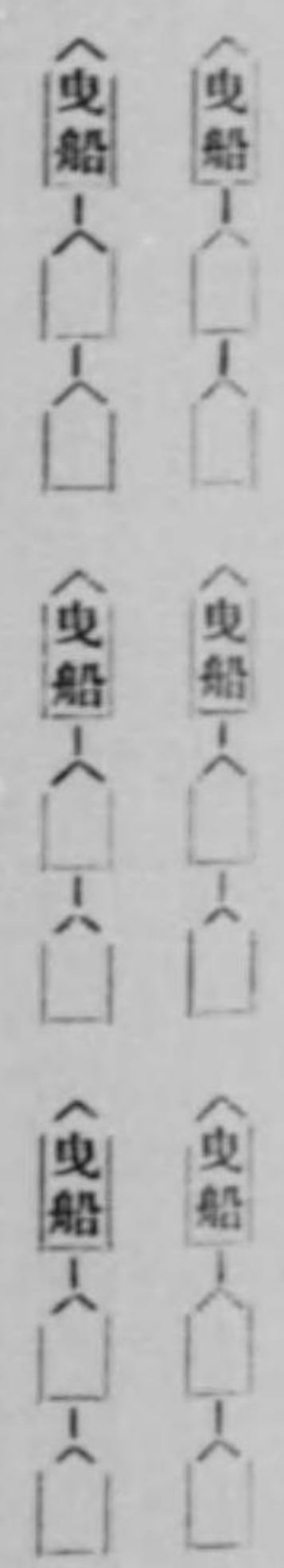
奉祝花火二十四發  
祝雷軍艦旗、黑煙菊、昇電白光雨白菊先光露、祝雷萬國旗、其他各種

自午後六時半至午後九時半 三時間(約五分毎)  
夜間打揚花火三十六發

菊先變化殘月、桔梗先變化星、火柳に孔雀の舞、錦牡丹丁字菊先變化、其他各種

四、供給者 愛知縣岡崎市長ニ依託シ同市長ノ推薦ニ據ル其ノ地方

ノ和船ニ分乘ス



乗船場所 第一第二突堤ノ中央、第三第四突堤間ノ岸壁  
萬歲高唱 十八艘ノ行列船方御召艦前ニ半圓形ヲ描キタル頃(正七時)萬歲ヲ高唱ス

其ノ他 神戸市ハ提灯、縣ハ徽章樂隊等、税關ハ船ノ準備ヲ爲ス  
第二軍艦電飾及探照燈

觀艦式參列ノ各艦艇ハ陸上ノ奉祝催ニ呼應シテ十月二十五、六ノ兩日別記要項ニ依リ軍艦電飾並探照燈照射ヲ爲シタルカ、先ツ御召艦霧島ハ、天皇旗ヲ形取リタル大イルミネーションヲ掲ケ、此ノ外聯合艦隊司令長官、艦隊司令長官乘坐乘艦ニハ夫々電飾ノ司令旗又ハ將旗ヲ掲ケ、其ノ他ノ軍艦ニアリテモ一齊ニ電飾ヲ爲シ、各艦艇ヨリハ一齊ニ探照燈ヲ照射シテソホ降ル銀雨ノ中ニ大光芒ヲ放チ燦然タル光景實ニ言語ニ絶セリ

電燈艦飾及探照燈照射要領  
一、電燈艦飾  
イ、期日及時間  
十月二十五日及二十六日午後五時四十分ヨリ同十一時迄  
ロ、施行艦 軍艦(但突堤又ハ棧橋繫留中ノモノヲ除ク)

二、探照燈

ニ於ケル代表的煙火業者ヲ合同指定  
海上提灯行列ハ縣市等ノ主催ニ依ル海上ニ於ケル奉祝ノ催シトシテハ、最モ壯觀ナルモノニシテ 陛下御旅程ヲ御慰メ奉ル可ク關係者懸命ニ之カ準備ヲ進メ別記要領ニ依リ施行ノ豫定ナリシ處不幸當夜降雨ノ爲之ヲ中止スルノ止ムナキニ至リタルハ洵ニ遺憾ナリキ。

海上提灯行列計畫要次

主催 兵庫縣、神戸市、神戸税關合同主催  
日時 十月二十五日午後五時ヨリ午後八時迄ノ豫定  
場所 神戸港海上、左ニ圖示セル通り(圖略)

参加者 青年團員、青年訓練所生徒、中等學校生徒、在郷軍人人員 各團體毎ニ四百五十名、計一千八百名

イ、男子中等學校生徒ハ各校ノ學級數ニ相當スル員數  
ロ、青年訓練所生徒代表、神戸市十六名、四市各二名、町村各一名(欠員ハ神戸市ニ於テ補充ス)

ハ、青年團員代表(必ス二十五歳以下ノ正團員)神戸市二十三名、四市各三名、町村各一名(町村數四百十五)(神戸市ヨリハ町村ヨリノ不参加者アルモノト見テ各團ヨリ一名)

ニ、在郷軍人代表 選出ハ青年團員ニ準ス  
集合地 神戸水上警察署前(午後四時迄)市電榮町一丁目下車、沿ヘ

三丁  
隊編成 各團體別ニ六隊ヲ編成シ一隊ヲ更ニ二分隊(百名)トシ二艘

イ、施行期日

十月二十五日午後七時三十分ヨリ同八時三十分

十月二十六日午後六時ヨリ同七時二十分

ロ、照射施行艦及使用燈數

施行艦 式場在泊中ノ軍艦、驅逐艦及特務艦

使用燈數 全部

(以下略)

第三款 奉 祝 歌

神戸市在六十三ノ小學校ニ於テハ、兼テ神戸市ニ於テ作歌シタル奉祝歌ヲ、十月二十五日午後三時、恰モ 聖上陛下軍艦羽黒ニテ江田島ヨリ再ヒ神戸港ニ御還幸遊ハサレタルトキ一齊ニ之ヲ合唱シテ萬歳ヲ壽キ奉レリ

奉 祝 歌

一

扇の水門の秋はれて

沖もはるかにいくさぶね

姿雄々しくうちならぶ

けふのみのりのたふささよ

いはへいはへいさもろこもに

二

こころほぎまつるつゝの音

こころく海をわけさせて

ならぶみふねをみそなはす

けふのみのりのかしこさよ

いはへいはへいさもろこもに

三三

第二章 天機奉伺、陪觀、賜饌

第一節 天 機 奉 伺

第一款 知事市長等ノ天機奉伺

十月二十二日 聖上ヲ迎ヘタル本縣ニ於テハ、高橋本縣知事、黒瀬神戸市長、篠崎税關長等ハ、柴田大阪府知事、關大阪市長等ト共ニ午後一時半神戸水上警察汽艇保安號ニテ神戸港外ニ御召艦霧島ノ御入港ヲ奉迎シ、御召艦ノ投錨後一木宮内大臣ヲ通シテ夫々天機ヲ奉伺シ、知事ハ別項ノ如キ縣治一斑、献上品、傳獻品ノ目錄ヲ奉リ其ノ御嘉納ヲ賜リ、一同ハ直チニ御召艦ヲ退下シ午後三時羽黒ニ先乗シテ御移乗ヲ迎ヘ奉リ 天皇陛下御移乗後午後三時五十分飯田第二艦隊司令長官等ト共ニ玉座ニ於テ單獨拜謁ヲ賜ハレリ。

當日ノ單獨拜謁者官氏名左ノ如シ

- 兵庫縣知事 從四位勳三等 高橋 守雄
- 大阪府知事 正四位勳三等 柴田 善三郎
- 神戸市長 從四位勳四等 黒瀬 弘志
- 大阪市長 正五位勳五等 關 一
- 神戸税關長 從四位勳三等 篠崎 昇
- 第二艦隊司令長官 正四位勳二等 飯田 延太郎
- 功四級海軍中將 第二艦隊參謀長 正五位勳三等 島田 繁太郎

羽

黒 艦 長

從五位勳三等

宇 野 積 藏

(順序不同)

十月二十五日 聖上江田島海軍兵學校行幸ヲ滯リナク終ヘサセラレ、秋雨煙ル中ヲ午後二時四十五分御召艦羽黒入港、港内十番浮標ニ繫留スルヤ、高橋本縣知事ハ黒瀬神戸市長、岩佐兵庫縣會議長、丹下神戸市會議長等ト共ニ水上汽艇保安號ニテ御召艦ニ伺候 天機ヲ奉伺シ 天皇陛下「霧島」ニ御移來後、高橋知事ハ神戸市長、税關長等ト霧島ニ伺候シテ第一、第二、第三艦隊司令長官等ト共ニ單獨拜謁ヲ賜ハリ知事、市長等ハ一木宮相ヲ通シ別款ノ如キ上表ヲ捧呈セリ。

高橋本縣知事、黒瀬市長、篠崎税關長ハ曩ニ十月二十二日 御入港ノ際單獨拜謁ヲ賜ハリ今又重ネテ此ノ光榮ニ浴シタルモノナルヲ以テ只管天恩ニ感激セリ。

當日ノ單獨拜謁者

- 第一艦隊司令長官 海軍中將 山本 英輔
- 第二艦隊司令長官 海軍中將 飯田 延太郎
- 第三艦隊司令長官 海軍中將 中村 良三
- 兵庫縣知事 從四位勳三等 高橋 守雄
- 神戸市長 從四位勳四等 黒瀬 弘志
- 神戸税關長 從四位勳三等 篠崎 昇

(順序不同)

二三

尙御召艦ニ伺候大機奉伺シタル岩佐兵庫縣會議長ハ一本宮相ヲ通シ別款ノ如キ上表ヲ捧呈退下セリ。

### 第二款 上 表

#### 第一 知事 上 表

兵庫縣知事 臣高橋守雄 茲ニ恭シク  
鎮首ヲ港外ニ邀ヘ畏クモ  
龍顏ニ咫尺スルノ寵榮ヲ荷フ  
聖恩優渥感激涕措ク所知ラス 臣守雄誠惶誠恐頓首頓首伏シテ  
惟ミルニ

#### 天皇陛下

乃聖乃武

列聖ノ宏謨ヲ恢弘シ

先帝ノ大猷ヲ紹述シ内ハ則チ景福ヲ兆民ニ介ニシ外ハ則チ交誼ヲ友邦ニ敦クセサセ給フ是ヲ以テ百姓昭明ニ萬邦協和シ

皇威維布キ

聖澤維洽シ本縣民義ニ

省方ノ盛事ニ遭逢シ感激猶新ナルニ爰ニ重ネテ

觀艦ノ鴻儀ヲ拜スルノ光榮ヲ辱ウス攝播ノ山ハ瑞靄ヲ罩メ紀淡ノ

海ハ祥波ヲ汎ヘ翔禽ハ和鳴シ游鱗ハ欣躍ス港ニ横ハレル巨艦ハ

長鯨カト疑ハレ空ニ舞フ飛機ハ大鷗カト怪マル砲聲殷殷大衛ニ

轟キ鼓吹鏗鏗海底ニ徹ス艦艙一百六十五隊列整齊ニシテ繩墨ニ中リ精兵四萬五千號令嚴明ニシテ規矩ニ就ク士氣振ヒ武威耀ク防備維足ル以テ戈ヲ止ムベク操練維熟ス以テ國ヲ護ルベシ猗盛ナルカナ臣守雄乏ヲ本縣ニ承ケ職牧民ニアリ抑モ本縣ハ其ノ管域五州ニ跨リ地廣ク人稠シ而シテ神戸港ハ關西ノ要津ニシテ管ニ絕域交通ノ咽喉貿易ノ中樞タルノミナラス外國ノ交涉案ヲ積ミ贖ヲ累ス之ガ司タル者其ノ任重ニ輕シトナサズ常ニ惕若トシテ負荷ノ重ニ勝ヘザランコトヲ是レ懼ル今ヤ泰ク盛典ニ陪從シ

帝國海軍ノ前途ヲ想望シ歡天喜地言フ所知ラズ敬ミテ

皇祚ノ邛隆ヲ頌シ恭シク

聖壽ノ無疆ヲ祈リ表ヲ上リテ奉迎ノ微忱ヲ效ス 臣守雄誠惶誠恐頓首頓首謹ミテ言ス

昭和五年十月二十五日

兵庫縣知事 從四位勳三等 臣高橋守雄 上表

#### 第二 縣會議長奉迎文

兵庫縣會議長 臣岩佐一郎 誠惶誠恐頓首頓首謹ミテ言ス伏シテ

以ミルニ

#### 天皇陛下

留聖明哲

允文允武内ハ則チ民心ノ融會ト教化ノ醇厚トヲ圖リ外ハ則チ世界

昭和五年十月二十五日

兵庫縣會議長 臣岩佐一郎 上表

#### 第三 市長奉迎文

恭シク惟ミルニ

天皇陛下留明日ノ如ク仁慈春ニ伴シ朝野百姓雍々泰平ヲ謳歌スル秋治ニ居テ亂ヲ忘レ給ハス數萬ノ貔貅ヲ練武ヲ山陽ノ野ニ嚮ハセラルルニ先チ太平洋上ニ百萬噸ノ艦艙ヲ

御統監アラセラレ威武堂堂帝國海軍ノ精銳ヲ率キテ神戸灣頭ニ更ニ御親閱セサセ給フ雄艦飛機序列ヲ正シテ海ヲ壓シ空ヲ掩フ眞ニ空前ノ壯觀タリ攝南ノ山嶺悉ク瑞色ヲ呈シ茅海ノ水波遍ネク祥氣ヲ捧

ク時方ニ菊香馥郁金風颯々タリ

傳史ヲ案スルニ神戸ノ地古來海船集散ノ要港ニシテ務古兵庫ノ名夙ニ史表ニ著ハレ海軍トノ緣由亦最モ深ク遠シ一千七百年ノ昔

神功皇后征韓ノ首途ニ船五百艘ヲ武庫ノ水門ニ鑿裝アリテ五百崎ノ名今ニ魚崎ニ傳ハリ明治戊辰ノ春

明治天皇艦六隻ヲ大阪灣ニ親閱アリテ觀艦式ノ權輿ヲ開キ給ヒ且ツ

幕末既ニ神戸ニ海軍操練所ノ開設アリ帝國ノ海軍ハ實ニ祥ヲ播海

ニ開キ據テ神戸沖ニ建テタリ而シテ斯レ皆偏ニ

先聖ノ遠猷ニ依リ

皇家ノ鴻謨ニ基クモノ市民深ク

累朝ノ洪恩ニ感泣シ

鴻恩ノ萬一ニ報效センコトヲ庶幾スベキノミ爰ニ縣民ニ代リ恭シク表ヲ上リ敬ミテ

聖壽ノ無疆ヲ頌シ

實祚ノ無窮ヲ祈リ奉ル 臣一郎 誠惶誠恐頓首頓首

天恩ノ殊寵ニ激奮セサルハナシ然ルニ今茲晚秋吉辰方ニ昌期ニ際會

鳳舟ヲ港頭ニ迎ヘ奉ルノ光榮ヲ荷フ惟フニ攝海觀艦ノ事明治ノ  
聖世既ニ四回ヲ重ネテ爾來二十餘年絶エテ見ルヲ得サリシ盛典タリ  
攝山爲ニ情色麤リ茅海新ニ水光輝ク八十萬ノ市民齊シク天ニ歡ヒ  
地ニ抃ス既ニ陸ニ海港博覽會ヲ開催シテ今日ヲ記念スルモノ全ク  
喜悅ノ至情ノ進ル處タリ今後市民協力一致愈貿易海運ヲ進メテ益  
産業ノ隆昌ヲ圖リ以テ

天恩ノ萬一ニ酬イ奉ランコトヲ誓フ臣弘志職ヲ市宰ニ承ケ斯ノ光榮  
ニ浴シ感激堪フルナシ恭シク  
聖壽ノ無疆ト

寶祚ノ邦隆トヲ祝シ茲ニ市會ノ議ヲ經市民ヲ代表シテ謹ミテ慶表ヲ  
捧ケ奉ル臣弘志誠懃喜頓首頓首以聞ス

昭和五年十月二十五日

神戸市長從四位勳四等 臣 黒 瀬 弘 志

第三款 縣治一班、献上品、傳献品

十月二十二日 御召禮羽黒ニ伺候シタル高橋本縣知事ハ一木宮相  
ヲ通シテ縣治一班ノ奏上、献上品及傳献品ヲ奉リ御嘉納ヲ賜リタル  
カ其ノ目錄次ノ如シ

第一、縣治一班

縣治一班ハ昭和二年乃至昭和五年ニ於ケル縣下ノ一般狀勢ヲ三十

六項ニ分類集録シタルモノニシテ其ノ項目ハ左ノ如シ

土地、人口、在留外國人、人口動態、耕地面積、耕地整理、農家  
戶數、穀物検査、産物、工場、會社、諸組合、貯蓄、神戸港外國貿  
易、學齡兒童、學校、青年訓練所、青少年團、圖書館、公學費及公  
學資金、社寺及教會、社會事業、兵員、赤十字社、愛國婦人會、武  
德會接濟會、縣市町村歲出豫算額、國稅實收額、縣稅豫算額、市稅  
豫算額、町村稅豫算額、道路及鐵道、船舶及諸車、衛生、官公署及  
官公吏、議會 以上

第二、献上品

一、献上品目

1、洋 服 地 三 着 分

日本毛織株式會社ニテ調製

2、縣 治 一 班 壹 册

兵庫縣廳調製

3、羽 二 重 (九重織) 一 疋

出石郡同業組合調製

4、蔬 菜 盛 合 (十六種) 二 籠

縣下十郡ニ於テ調達

5、花 卉 壹 鉢

川邊郡内ニ於テ調達

6、鮮 魚 (鯛、伊勢蝦、蛤) 壹 籠

明石郡内ニ於テ調達

7、西洋 家具 壹 組

神戸市内ニ於テ調製

外ニ宮殿下献上品

1、洋 服 地 十四 方 分

日本毛織株式會社調製

2、柿 栗 二十三 方 分

播丹地方ニ於テ調製

第三、傳 献 品

1、花 卉 壹 籠

右献上 愛國婦人會兵庫縣支部長 高 橋 雅

2、葡萄、メロン、洋梨 壹 籠

栗 及 松 茸 壹 籠

右献上

兵庫縣農會長正七位勳六等功四級 山 脇 延 吉

3、五 所 柿 田 艇 吉

右献上 氷上郡柏原町正八位勳五等 田 卷 吉

4、リノリウム 二 卷

右献上 東洋リノリウム株式會社 常務取締役 寺 西 福 吉

第四款 一般天機奉伺

知事、市長等ハ十月二十二日 御臨幸並十月二十五日江田島ヨリ

御還幸ノ朝御召禮ニ伺候シテ 天機ヲ奉伺シタルカ、本縣ニ於テハ

一般 天機奉伺有資格者ノ爲、神戸稅關本廳舎立關ニ 天機奉伺登  
候所ヲ設置シ(第二章第二節參照)十月二十五日午後三時ヨリ同九  
時迄左記有資格者ノ天機奉伺ノ受附ヲ爲シタルカ 午後三時過貴族  
院議員田村新吉氏ヲ最初ニ多數ノ奉伺者ハ折柄ノ降雨ヲ物トモセス  
續々參向シ午後六時頃ニハ、濱口首相、江木鐵相、安達内相、依農  
相等モ參向午後九時閉鎖シタルカ奉伺者約八百名ニ及ビタリ。

左 記

一般天機奉伺有資格者

(一) 官中席次ヲ有スルモノ

(二) 神佛各宗派管長

(三) 門跡寺院及御由緒寺院ノ住職

(四) 學位ヲ有スルモノ

(五) 行在所若ハ御泊所々在道府縣又ハ特別大演習施行ノ道府

縣ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者

イ、道府縣會議長、副議長、議員

ロ、市長、市參事、助役、局長、(局長ニ相當スル部長ヲ含ム)

ハ、市會議長、副議長、議員

ニ、市制第六條ノ市ノ區長、區會議長

ホ、地方森林會議員

ヘ、法令ノ定ムル各種委員會ノ委員

ト、官 衛 長

チ、町 村 長

- リ、市町村組合長
- ヌ、官公私立學校長
- ル、商工會議所會頭、副會頭、議員
- ヲ、道府縣市町村農會會長
- ワ、道府縣市町村教育會會長
- カ、道府縣市町村青年團及婦女會々長
- キ、道府縣市町村在郷軍人分會會長
- タ、消防組頭
- レ、府縣社及郷社ノ社司
- ソ、道府縣立感化院長
- ツ、水産會會長、山林會會長、重要物産同業組合聯合會會長、畜産組合聯合會會長、漁業組合聯合會會長及茶業組合聯合會會議所會頭
- ネ、辯護士會會長
- ナ、道府縣市醫師會會長、同齒科醫師會會長、同藥劑師會會長
- テ、宮内大臣ヨリ選擧セラレタル社會事業功勞者
- ム、内務大臣ヨリ選擧セラレタル市町村吏員
- ウ、宮内大臣又ハ主務大臣ヨリ獎勵金又ハ助成金ヲ下附セラレタル社會事業團體ノ代表者
- キ、産業組合中央會ヨリ特別表彰ニ係ル産業功勞者
- ノ、褒章受領者
- オ、内務大臣ヨリ警察官吏及消防官吏功勞章ヲ付與セラレタル者
- ク、内務大臣ヨリ選擧セラレタル地方改良功勞者及衛生功勞者（團體ナキ時ハ其ノ代表者）
- ヤ、文部大臣ヨリ選擧セラレタル學校職員及教育功勞者
- マ、主務大臣ヨリ選擧セラレタル實業功勞者

- 縣知事ノ推擧ニ係ル者
- (七) 行在所又ハ御泊所々在地ノ市町村ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者
- イ、村社ノ上席社掌
  - ロ、町村ノ助役
  - ハ、市町村組合及町村組合ノ助役
  - ニ、町村會議員
  - ホ、市制第六條ノ市ノ區會議員
  - ヘ、市町村及町村組合會議員
  - ト、衛生組合長
- (八) 宮中席次第三階以上ノ者ノ夫人
- (九) 供奉長官ノ特ニ銓衡シタル者

**第二節 陪觀及賜饌**

**第一款 皇族殿下御陪觀**

- 觀艦式御陪觀皇族殿下ハ
- 伏見宮博義王殿下 寶塚ホテル御宿泊
  - 同 妃殿下 同
  - 伏見宮博義王殿下 甲子園ホテル御宿泊
  - 同 妃殿下 同
  - 久邇宮朝融王殿下 同
  - 同 妃殿下 同

- 久邇宮多嘉王殿下 御泊ナシ
  - 同 妃殿下 同
  - 同 恭仁子女王殿下 同
  - 同 家彦王殿下 同
  - 同 德彦王殿下 同
  - 賀陽宮恒憲王殿下 大阪市住吉區住吉町五〇三 醫學博士加藤甚七郎方御宿泊
  - 朝香宮鳩彦王殿下 寶塚ホテル御宿泊
- ノ御十三方ニシテ、觀艦式當日ハ早朝御宿所（久邇宮多嘉王殿下御一族ニハ京都ノ御自邸ヨリ）御出マシナリ、午前八時半稅關構内第三突堤ニ御着被遊、高橋本縣知事、篠崎稅關長、堀觀艦式事務委員長等ノ奉迎ヲ受ケサセラレ、伏見宮博義王、同博義王、賀陽宮恒憲王、久邇宮朝融王、同多嘉王ノ五皇族殿下ニハ、稅關汽艇おがたま丸ニ召サレテ御召艦ニ向ハセラレ、妃殿下及未成年皇族殿下ハ日本郵船會社汽艇櫻丸ニ召サレテ加賀ニ向ハセラレ、此ノ盛儀ヲ御陪觀遊ハサレタリ。

**第二款 一般陪觀及賜饌者**

光輝アル觀艦式ノ御盛儀ニ關シ、畏キ邊リヨリノ御召ニ依リ陪觀及賜饌ノ光榮ニ浴シタルモノ中央要路ノ大官ヲ始メ其ノ數實ニ五千人ニ及ヒタルカ其ノ資格等左ノ如シ

**第一、陪 觀**

陪觀及賜饌ノ光榮ニ浴シタル者

- 一、資格（標準）
- 特別大演習參加ノ海軍高等武官並同文官、特別大演習觀艦式事務關與ノ高等官、觀艦式陪觀ノ皇族、親任官待遇以上ノ諸官、現役海軍士官、在郷海軍將官、貴衆兩院議員、地方長官、各國大使館附武官、大阪府及兵庫縣下ニ駐劄スル外國領事其ノ他
- 二、員 數
- 御召ニ預リタル總數 五、八二八名
- 三、實際陪觀賜饌ニ浴シタル員數
- 1、霧島（御召艦） 四六三名
  - 2、足柄（先導艦） 七三五名
  - 3、妙高（供奉艦） 七三七名
  - 4、赤城（參列艦） 二、七八四名（海軍士官ノミ）
- 計 四、七一九名
- 右ノ外
- 海軍大臣ノ招待ニ依リ陪觀シタルモノ（賜饌ノ光榮ニ浴セサルモ海軍省ヨリ食食ヲ供ス）
- 一、招待範圍
- 奏任官タル在郷海軍士官、各廳奏任官ノ一部其ノ他
- 二、員 數
- 招待シタル總數 二、八一九名
- 三、實際陪觀シタル員數
- 那智（供奉艦） 六一一名

羽黒(同) 六七三名  
長門(參列艦) 九八名

計 一、二八四名

而シテ右等陪觀者ハ、當日 皇族殿下ノ御乘艦ニ先チテ午前八時三十分迄ニ夫々指定サレタル御召艦、足柄、妙高、那智、羽黒及長門ニ陪乘シテ式場ニ入り榮アル盛儀ヲ陪觀セリ。

### 第二、賜 饌

右等陪觀ノ光榮ニ浴シタルモノ(海軍大臣招待ノ陪觀者ヲ除ク)ハ御親閱ノ終了後午後零時三十分ヨリ御召艦霧島、先導艦足柄、供奉艦妙高及參列艦赤城ノ四賜饌艦ニ於テ御饌ヲ下賜セララル。

是ヨリ先賜饌艦ニハ御名代ノ宮トシテ午後零時十分伏見宮博恭王殿下ニハ足柄ニ、同博義王殿下ニハ妙高ニ、久邇宮朝融王殿下ニハ赤城ニ各艦載水雷ニテ賜饌場ニ成ラセララル。

賜饌ノ光榮ニ浴シタル者ハ陪觀者ト同シク總數四、七一九人ニシテ(内御召艦霧島四六三)

天皇陛下ニハ鈴木侍從長ノ奏請ニ依ツテ御座所ヲ出御マシマシ

劇曉タル「君ケ代」ノ奏樂裡ニ 龍顏イトモ麗ハシク、玉座ニ着御アラセラレ午後零時半ヨリ濱口首相、上原元帥、安保海相、谷口軍令部長、山本觀艦式指揮官、安達内相、江木鐵相、渡邊法相、松田拓相、財部海軍大將以下ニ御饌ヲ賜ハル。同時ニ他ノ賜饌艦ニ於テモ名代ノ宮ノ下ニ夫々賜饌アラセララル。

賜饌者ニハ御饌ノ外尙菊の花御菓入ノ御菓子並ニ振武盃ヲ賜ハリ

大演習功勞者ニハ特ニ天盃ヲ下賜遊ハサル。

賜饌ノ御儀終リ 天皇陛下ニハ鈴木侍從長ノ奏請ニ依ツテ再ビ入御セラレ 御名代ノ宮殿下モ午後一時半御召艦ニ御歸艦奏上遊ハサレ觀艦式ノ諸儀全ク終了セララル。

## 第貳編 觀艦式事務

### 第一章 總 論

#### 第一節 概 說

海軍最高ノ盛儀タル觀艦式ハ、明治元年以來既ニ行ハセ給フコト二十有餘回ニ及ヒタルカ前掲ノ如クソノ大半ハ橫濱沖ニ擧ゲサセラレ我神戶ハ明治四十一年以來絶エテコノ盛事ヲ拜セス國內第一ノ海港都市ヲ控ユル二百七十萬縣民ハ常ニ再ビコノ光榮ニ浴シ得ルノ日ヲ翹望シテ止マサリシナリ 時恰モ今次ノ大演習カ土佐沖ヲ中心トシテ行ハル、由テ耳ニセル高橋知事ハ一ハ民意達成ノ爲一ハ海事思想普及ノ爲機至レリトシテ神戶港外ニ於ケル盛儀ノ御舉行ヲ只管祈念セシガ昭和四年十二月九日海軍々令部參謀井上中佐來神戶稅關ニ就キ秘ニ諸施設ヲ調査セラレ次デ宮内省及ヒ海軍省間ニ協議進メラレツツアルノ内報ニ接スルヤ直ニ篠崎神戶稅關長、黒瀬神戶市長等ト極秘裡ニ數次ノ熟議ヲ重ネ更ニ昭和五年三月二十二日關係者ヲ縣正廳ニ招シテ第一回ノ打合會ヲ開キ若シ確定セハ直ニ諸般ノ準備ヲ爲シ得ル爲メ大體方針ニ就キ協議ヲ遂ゲタリ。而シテ、四月十五日ニハ岩佐縣會議長、黒瀬市長及藤田市部會議長ト共ニ東上シ親シク關係各省ヲ歴訪シ縣民ノ赤誠ヲ披瀝シテ陳情ヲ重ネ爾來縣廳内部

ニ於テモ坂間内務、藤岡警察、戸塚學務ノ各部長以下各課長ヲ督勵シ植場官房主事ヲ準備事務ノ主任ニ命ジ一途奉送迎並ニ海軍關係事務準備ノ萬全ヲ期シタリ。次デ五月三十日付ヲ以テ海軍ノ觀艦式事務委員任命通牒セララル、ヤ廳内ニ於テモ亦六月二十五日各係長以下ヲ選任シ更ニ各般ノ事務機宜ノ措置ニ萬遺漏無キヲ期シツ、アリシカ途ニ九月三日海軍大臣ヨリ「今秋施行ノ昭和五年特別大演習ノ終期ニ際シ來ル十月二十六日神戶沖ニ於テ大演習觀艦式ヲ御舉行可被爲在候」トノ發表ニ接シ爰ニ盛儀御舉行ノ確定ヲ見真ニ恐懼感激ニ堪ヘズ直チニ關係各方面ニ移牒ヲ發シタリ、カクテ期日ノ切迫ト共ニ諸般ノ準備事務益々輻輳ヲ極メシガ廳内外ノ係員ハ只管 聖旨ニ感激シ一意過誤ナキヲ期シ 以テ悉無クコノ本縣稀有ノ盛事ニ奉仕スルコトヲ得タリ。

#### 第二節 處務規程ノ制定及部署

##### ノ決定等

##### 第一款 處務規程ノ制定

觀艦式事務ハ臨時且ツ特別的ノモノニシテ、而モ此ノ事務ハ最モ慎重ニ處理セサル可カラサルノ關係ニ在リ、到底平時ノ處務規程等ノミニ依リテ之ヲ爲ス能ハス、故ニ本縣知事ハ特ニ此ノ事務ヲ遂行スル爲メ六月二十四日觀艦式事務委員部處務規程ヲ制定シテ事務ノ圓滑ナル遂行ヲ期シタリ。



達第一二號

廳中一般

兵庫縣大演習觀艦式事務委員部處務規程左ノ通り定ム

昭和五年六月二十四日

兵庫縣知事 高橋守雄

記

兵庫縣大演習觀艦式事務委員部處務規程

第一條 觀艦式ニ關スル事務ヲ處理スル爲左ノ四部ヲ置キ委員ヲ分

屬セシム

庶務部

接伴部

工營部

警務部

第二條 各部ヲ左ノ係ニ分チ事務ヲ分掌セシム

一、庶務部

一、祕書係

(一) 官廷ニ關スル事項

(二) 委員任命ニ關スル事項

(三) 委員徽章ニ關スル事項

(四) 功勞者、孝子、節婦、高齡者、軍人遺族、廢兵ニ關スル事項

(五) 文書ノ發受並整理ニ關スル事項

(六) 天氣豫報ニ關スル事項

(七) 各部係ノ連絡ニ關スル事項

(八) 廳外トノ一般連絡ニ關スル事項

一、拜謁係

拜謁ニ關スル一切ノ事項

一、献上品係

(一) 献上品ニ關スル事項

(二) 傳獻品ニ關スル事項

二、賜饌係

賜饌ニ關スル一切ノ事項

一、庶務係

(一) 豫算ニ關スル事項

(二) 記念品ニ關スル事項

(三) 他部係ノ主管ニ屬セサル事項

一、經理係

(一) 御荷物其ノ他運搬ニ關スル事項

(二) 物品調達ニ關スル事項

(三) 備入人夫車馬船等雇入ニ關スル事項

(四) 金錢物品ノ出納ニ關スル事項

二、接伴部

一、陪觀係

陪觀ニ關スル一切ノ事項

一、奉迎送係

奉迎送ニ關スル一切ノ事項

一、一般拜觀係

一般拜觀者ニ關スル事項

一、學生拜觀係

學生、生徒、兒童ノ拜觀ニ關スル事項

一、來賓係

來賓ノ幹旋並接待ニ關スル事項

一、外務係

觀艦式陪觀ノ外國軍艦及外人ノ幹旋並接待ニ關スル事項

一、新聞記者係

(一) 通信材料ノ蒐集發表ニ關スル事項

(二) 新聞記者團ノ幹旋並接待ニ關スル事項

一、記録係

(一) 觀艦式記録編纂ニ關スル事項

(二) 活動寫眞及普通寫眞撮影ニ關スル事項

(三) 上表ニ關スル事項

(四) 記念出版物ニ關スル事項

三、工營部

一、營繕係

營繕ニ關スル一切ノ事項

一、土木係

土木ニ關スル一切ノ事項

四、警務係

一、警衛係

(一) 警衛警備ニ關スル事項

(二) 警察官ノ配置ニ關スル事項

(三) 警務部ニ屬スル文書ノ發受並整理ニ關スル事項

(四) 警察費ノ經理ニ關スル事項

(五) 警察電話通信ニ關スル事項

(六) 各係ノ連絡ニ關スル事項

(七) 他部ノ主管ニ屬セサル事項

一、外事警察係

外國人ノ保護取締ニ關スル事項

一、情報係

(一) 情報連絡ニ關スル事項

(二) 新聞及寫眞撮影ニ關スル事項

一、特別高等警察係

(一) 特別高等警察ニ關スル事項

(二) 海上移動警察ニ關スル事項

一、保安係

(一) 銃砲火藥類其ノ他危險物品取締ニ關スル事項

(二) 電氣及瓦斯事業取締ニ關スル事項

(三) 交通並車輛ノ整理取締ニ關スル事項

(四) 消防ニ關スル事項

(五) 營業風紀取締ニ關スル事項

一、水上警察係

水上交通並船舶ノ整理取締ニ關スル事項

一、刑事係

(一) 犯罪豫防並搜索ニ關スル事項

(二) 移動警察ニ關スル事項

一、工場係

工場衛生並工場災害豫防ニ關スル事項



















マス、撰、提出致シマシタル議案ハ昭和五年度歳入追加豫算案並ニ之ニ關スル案件デアリマス、提出ノ議案ニ付キマシテハ後刻會議ノ開カレマシタル際ニ詳細御説明申上ケル答デアリマス、ドウカ各位ニ於カセラレマシテハ、此ノ提出セル議案ニ付キマシテ御協賛アランコトヲ懇至切望ノ至リニ堪ヘマセス、茲ニ一言開會ノ御挨拶ヲ申上ゲマス

右ニ對シテ岩佐議長ハ左ノ答辭ヲ述ベタリ  
本秋當神戶沖ニ於キマシテ畏クモ 陛下御親臨ノ上觀艦式ヲ御舉行遊バサレマスル御儀ハ、縣民ニ取リマシテ此ノ上モナキ光榮ト存スル所デアリマス、而モ目下軍縮問題ニ付テ世論ノ囂々タル折柄、巨艦艦艙ヲ竝ベテ一般ニ拜觀ヲ差許サレマスルコトハ國民ノ士氣ヲ鼓舞スル上ニ於キマシテ、洵ニ有難キ思召デアルト存スルノデアリマス、本日茲ニ臨時縣會ヲ招集サレマシテ、右奉迎ニ關スル諸案ヲ附議セラレマスルニ付キマシテハ、吾々ハ事ノ重大ナルニ鑑ミ一層慎重熱誠ノ態度ヲ以テ鄭重ニ審議ヲ遂ゲマシテ適當ナル議決ヲ致シ以テ、其ノ職責ヲ完ウ致シタイト考ヘルノデアリマス、其ノ議決ノ成績ニ付キマシテハ不日御報告申上ケル考ヘデアリマス、之ヲ以テ御答禮ト致シマス

第三、豫算説明及會議

1、高橋知事ノ豫算説明  
開會ニ當リマシテ第一回臨時兵庫縣會、同市部會、同郡部會ニ提案致シマシタル議案ニ付テ只今ヨリ御説明申上ケタク存ジマス

ト致シマシテ參千參百四拾五圓、接待費ト致シマシテ貳萬貳千百參拾壹圓、記録編纂費ト致シマシテ千七百五拾四圓、其ノ他雜費貳萬五千八百五圓、豫備費ト致シマシテ壹萬圓ヲ計上致シマシテ奉迎送ニ關シ遺漏ナキヲ期シタイト存シテ居ル次第デアリマス

2、會 議

一、縣 會

- 昭和五年八月十八日午後零時八分會議ヲ開キ出席議員左記五十六名ニシテ提案事項全部ヲ可決シ午後六時一分會議ヲ了ル
- 一 番 友田 一郎君
  - 二 番 尾 崎 一君
  - 三 番 國 賀 至君
  - 四 番 田 中源 三郎君
  - 五 番 岡 本 源 之助君
  - 六 番 松 井 四 郎君
  - 七 番 小 山 十 次君
  - 八 番 戶 田 龜 太郎君
  - 九 番 大 多 重 藏君
  - 十 番 西 久 保 文吉君
  - 十一 番 六 島 誠 之助君
  - 十二 番 新 居 寅 太郎君
  - 十三 番 山 川 頼 三郎君
  - 十四 番 小 畑 虎 之助君
  - 十五 番 上 田 義 二君
  - 十六 番 稻 岡 幸 治君
  - 十七 番 田 口 榮 藏君
  - 十八 番 細 田 忠 治郎君
  - 十九 番 畑 七 右衛門君
  - 二十 番 岩 佐 一 郎君
  - 二十一 番 柳 田 善 九郎君
  - 二十二 番 伊 地 智 三郎右衛門君
  - 二十三 番 道 盛 龜 之助君
  - 二十四 番 田 中 利 右衛門君
  - 二十五 番 猿 丸 吉 左衛門君
  - 二十六 番 藤 井 富 太郎君
  - 二十七 番 岩 田 清 吉君
  - 二十八 番 細 野 濱 吉君
  - 二十九 番 柳 澤 竹 藏君
  - 三十 番 井 内 中 正君
  - 三十一 番 山 脇 延 吉君
  - 三十二 番 衣 川 退 藏君

ス、諸君御承知ノ通り來ル十月下旬我ガ神戸港沖ニ於テ海軍特別大演習觀艦式ヲ御舉行セラレマシテ 畏クモ 天皇陛下御臨御アラセラル、コトニ御内定ノ趣キ拜聞致シテ居ルノデアリマス、是實ニ我ガ二百七十萬縣民ニ取リマシテ無上ノ光榮デアリマシテ、洵ニ感激ノ至リニ堪ヘナイ所デアリマス、仍テ我ガ縣民ハ至誠以テ奉迎送申上ケ、奉公ノ誠ヲ致シタイト存ズルノデアリマス、今回ノ御行幸ニ關シマシテ謹ンデ奉迎頭徳文ヲ奉リ、又縣下物産ヲ献上致シマスルハ勿論、其ノ他諸般ノ準備施設ニ最善ノ注意ヲ拂ヒ、萬全ヲ期シタイト存ジマシテ是ガ經費豫算ヲ編纂致シタノデアリマス、即チ三部經濟ヲ通ジ金貳拾參萬壹千四百七拾壹圓ヲ追加豫算トシテ計上致シテ居リマス、今各部經濟ヲ一括致シテ申上ゲマスルナラバ、先ヅ警備ニ關シマシテハ最モ細心ノ注意ヲ要スル次第デアリマス故ニ周到ナル準備ト計畫ノ下ニ之ニ要シマスル經費五萬參千九拾五圓ヲ計上致シマシテ遺漏ナキヲ期シテ居ル次第デアリマス、次ニ防疫其ノ他衛生上各般ノ施設ニ付キマシテハ、之ニ要シマスル所ノ經費貳萬六千貳百五拾六圓ヲ計上致シテ居ルノデアリマス、又今回ノ觀艦式ニ關シマシテハ宮殿下ノ御成リ其ノ他多數貴顯ノ來往ヲ見ルベク交通上適當ノ施設ヲ要スルモノアルノデアリマスルカラ、是ガ修理ニ要スル經費ト致シ貳萬九千五百八拾貳圓ヲ計上致シテ居ルノデアリマス、以上申シ述ベマシタル他、生徒其ノ他ノ奉迎送諸費ト致シテ貳千七百七拾七圓、又拜觀設備費

二、市 部 會

昭和五年八月十八日午後三時四十九分縣會休會中會議ヲ開キ出席議員左記十四名提案事項ヲ可決午後五時五十七分散會ス

- 一 番 小 林 有 文君
- 二 番 上 田 實君
- 三 番 大 久 保 直 次郎君
- 四 番 高 谷 清 一 郎君
- 五 番 原 淳 一 郎君
- 七 番 中 村 直 吉君
- 八 番 藤 田 昌 一君
- 九 番 阪 本 勝君
- 十 番 金 光 邦 三君
- 十一 番 小 杉 重 昌君
- 十二 番 南 陽 二 郎君
- 十三 番 吉 井 政 市君
- 十四 番 池 田 涼 一 郎君
- 十五 番 吉 井 政 市君
- 十六 番 大 本 藤 市君

三、郡 部 會

昭和五年八月十八日午後三時四十三分縣會休會中郡部會ヲ開ク出席議員左記四十名提案事項可決午後五時五十三分散會ス

一	友田一郎君	二	尾崎一君
三	岡本至君	四	田中源三郎君
五	岡本源之助君	六	松井四郎君
七	小山大次君	八	戸田龜太郎君
九	大重重藏君	十	西久保文吉君
十一	六島誠之助君	十二	新居寅太郎君
十三	山川頼三郎君	十四	小畑虎之助君
十五	上田義二君	十六	稻岡幸治君
十七	田口榮藏君	十八	細田忠治郎君
十九	畑七右衛門君	二十	岩佐一郎君
二十一	樽田善九郎君	二十二	道盛龜之助君
二十四	田中利右衛門君	二十五	猿丸吉左衛門君
二十六	藤井富太郎君	二十七	岩田清治君
二十八	細野濱吉君	二十九	柳澤竹藏君
三十	井内中正君	三十一	山脇延吉君
三十二	衣川退藏君	三十三	平尾源太夫君
三十四	蓬萊茂雄君	三十五	立川平君
三十六	日山淺吉君	三十七	西岡安左衛門君
三十八	田中源之助君	三十九	松野士十君
四十	山口九郎君	四十一	早瀬和一君
缺席議員	一名	四十二	伊地智三郎右衛門君

第四、閉會  
 八月十八日午後六時四分高橋知事ハ坂間書記官以下各參與官ヲ隨ヘテ講場ニ臨ミ議員一同起立閉會ノ式ヲ舉グ其ノ式辭左ノ如シ  
 本日ヲ以テ招集致シマシタル昭和五年第一回臨時兵庫縣會同市部會同郡部會ハ茲ニ是ヲ以テ閉會ト致シマス、會議ニ提案致シマシ

タル案件ハ、殊ニ追加豫算案ハ必ズシモ複雑多岐デハアリマセヌケレドモ、併シナガラ其ノ内容ハ極メテ重要ナルモノガアツタノデアリマス、然ルニ諸君ノ慎重ナル御審議ノ結果、茲ニ全員一致御協賛ヲ得マシタコトハ深ク私ノ本懐ト致ス所デアリマス、若シ夫レ此ノ豫算案ノ執行ニ付キマシテハ、諸君ノ御誠意ノ在ル所ヲ十分ニ諒ト致シマシテ萬誤リナキヲ期シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、時下炎暑ノ候諸君ヲ煩ハシマテシ洵ニ多謝ノ至リニ堪ヘヌノデアリマス、是ヲ以テ閉會ノ言葉ト致シマス。

第二款 豫算

昭和五年八月十八日議決

臨時第二號議案

昭和五年年度兵庫縣歲入歲出追加豫算書

經	常	部	入	二、〇四二
第一款	國庫下渡金			二、〇四二
第二款	警察費下渡金			一八二、一四二
第三款	市郡分賦金			七、〇三五
第四款	市郡分賦金			一一、一〇七
第五款	市郡分賦金			一八二、一四二
第六款	市郡分賦金			一八四、一八四
第七款	市郡分賦金			七、一八三
第八款	市郡分賦金			一一、三五三
第九款	市郡分賦金			
第十款	市郡分賦金			
第十一款	市郡分賦金			
第十二款	市郡分賦金			
第十三款	市郡分賦金			
第十四款	市郡分賦金			
第十五款	市郡分賦金			
第十六款	市郡分賦金			
第十七款	市郡分賦金			
第十八款	市郡分賦金			
第十九款	市郡分賦金			
第二十款	市郡分賦金			
第二十一款	市郡分賦金			
第二十二款	市郡分賦金			
第二十三款	市郡分賦金			
第二十四款	市郡分賦金			
第二十五款	市郡分賦金			
第二十六款	市郡分賦金			
第二十七款	市郡分賦金			
第二十八款	市郡分賦金			
第二十九款	市郡分賦金			
第三十款	市郡分賦金			
第三十一款	市郡分賦金			
第三十二款	市郡分賦金			
第三十三款	市郡分賦金			
第三十四款	市郡分賦金			
第三十五款	市郡分賦金			
第三十六款	市郡分賦金			
第三十七款	市郡分賦金			
第三十八款	市郡分賦金			
第三十九款	市郡分賦金			
第四十款	市郡分賦金			
第四十一款	市郡分賦金			
第四十二款	市郡分賦金			
第四十三款	市郡分賦金			
第四十四款	市郡分賦金			
第四十五款	市郡分賦金			
第四十六款	市郡分賦金			
第四十七款	市郡分賦金			
第四十八款	市郡分賦金			
第四十九款	市郡分賦金			
第五十款	市郡分賦金			
第五十一款	市郡分賦金			
第五十二款	市郡分賦金			
第五十三款	市郡分賦金			
第五十四款	市郡分賦金			
第五十五款	市郡分賦金			
第五十六款	市郡分賦金			
第五十七款	市郡分賦金			
第五十八款	市郡分賦金			
第五十九款	市郡分賦金			
第六十款	市郡分賦金			
第六十一款	市郡分賦金			
第六十二款	市郡分賦金			
第六十三款	市郡分賦金			
第六十四款	市郡分賦金			
第六十五款	市郡分賦金			
第六十六款	市郡分賦金			
第六十七款	市郡分賦金			
第六十八款	市郡分賦金			
第六十九款	市郡分賦金			
第七十款	市郡分賦金			
第七十一款	市郡分賦金			
第七十二款	市郡分賦金			
第七十三款	市郡分賦金			
第七十四款	市郡分賦金			
第七十五款	市郡分賦金			
第七十六款	市郡分賦金			
第七十七款	市郡分賦金			
第七十八款	市郡分賦金			
第七十九款	市郡分賦金			
第八十款	市郡分賦金			
第八十一款	市郡分賦金			
第八十二款	市郡分賦金			
第八十三款	市郡分賦金			
第八十四款	市郡分賦金			
第八十五款	市郡分賦金			
第八十六款	市郡分賦金			
第八十七款	市郡分賦金			
第八十八款	市郡分賦金			
第八十九款	市郡分賦金			
第九十款	市郡分賦金			
第九十一款	市郡分賦金			
第九十二款	市郡分賦金			
第九十三款	市郡分賦金			
第九十四款	市郡分賦金			
第九十五款	市郡分賦金			
第九十六款	市郡分賦金			
第九十七款	市郡分賦金			
第九十八款	市郡分賦金			
第九十九款	市郡分賦金			
第一百款	市郡分賦金			

臨時部	八、四四八
第一款 國庫補助金	八、四四八
第二款 衛生及病院費補助	八、四四八
第三款 臨時部合計	八、四四八
歲入總計	三、二九五
內 市部收入	五、一五三
內 郡部收入	一九二、六三二
內 郡部收入	七五、一二六
內 郡部收入	一一七、五〇六
歲出	
臨時部	五〇、〇〇〇
第一款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第二款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第三款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第四款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第五款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第六款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第七款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第八款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第九款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第十款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第十一款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第十二款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第十三款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第十四款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第十五款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第十六款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第十七款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第十八款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第十九款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第二十款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第二十一款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第二十二款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第二十三款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第二十四款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第二十五款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第二十六款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第二十七款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第二十八款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第二十九款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第三十款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第三十一款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第三十二款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第三十三款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第三十四款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第三十五款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第三十六款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第三十七款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第三十八款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第三十九款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第四十款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第四十一款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第四十二款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第四十三款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第四十四款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第四十五款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第四十六款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第四十七款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第四十八款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第四十九款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第五十款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第五十一款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第五十二款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第五十三款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第五十四款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第五十五款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第五十六款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第五十七款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第五十八款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第五十九款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第六十款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第六十一款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第六十二款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第六十三款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第六十四款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第六十五款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第六十六款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第六十七款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第六十八款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第六十九款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第七十款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第七十一款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第七十二款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第七十三款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第七十四款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第七十五款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第七十六款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第七十七款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第七十八款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第七十九款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第八十款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第八十一款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第八十二款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第八十三款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第八十四款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第八十五款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第八十六款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第八十七款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第八十八款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第八十九款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第九十款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第九十一款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第九十二款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第九十三款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第九十四款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第九十五款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第九十六款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第九十七款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第九十八款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第九十九款 勸業補助費	五〇、〇〇〇
第一百款 勸業補助費	五〇、〇〇〇

臨時部	三、七九四
第一款 勸業補助費	三、七九四
第二款 勸業補助費	三、七九四
第三款 勸業補助費	三、七九四
第四款 勸業補助費	三、七九四
第五款 勸業補助費	三、七九四
第六款 勸業補助費	三、七九四
第七款 勸業補助費	三、七九四
第八款 勸業補助費	三、七九四
第九款 勸業補助費	三、七九四
第十款 勸業補助費	三、七九四
第十一款 勸業補助費	三、七九四
第十二款 勸業補助費	三、七九四
第十三款 勸業補助費	三、七九四
第十四款 勸業補助費	三、七九四
第十五款 勸業補助費	三、七九四
第十六款 勸業補助費	三、七九四
第十七款 勸業補助費	三、七九四
第十八款 勸業補助費	三、七九四
第十九款 勸業補助費	三、七九四
第二十款 勸業補助費	三、七九四
第二十一款 勸業補助費	三、七九四
第二十二款 勸業補助費	三、七九四
第二十三款 勸業補助費	三、七九四
第二十四款 勸業補助費	三、七九四
第二十五款 勸業補助費	三、七九四
第二十六款 勸業補助費	三、七九四
第二十七款 勸業補助費	三、七九四
第二十八款 勸業補助費	三、七九四
第二十九款 勸業補助費	三、七九四
第三十款 勸業補助費	三、七九四
第三十一款 勸業補助費	三、七九四
第三十二款 勸業補助費	三、七九四
第三十三款 勸業補助費	三、七九四
第三十四款 勸業補助費	三、七九四
第三十五款 勸業補助費	三、七九四
第三十六款 勸業補助費	三、七九四
第三十七款 勸業補助費	三、七九四
第三十八款 勸業補助費	三、七九四
第三十九款 勸業補助費	三、七九四
第四十款 勸業補助費	三、七九四
第四十一款 勸業補助費	三、七九四
第四十二款 勸業補助費	三、七九四
第四十三款 勸業補助費	三、七九四
第四十四款 勸業補助費	三、七九四
第四十五款 勸業補助費	三、七九四
第四十六款 勸業補助費	三、七九四
第四十七款 勸業補助費	三、七九四
第四十八款 勸業補助費	三、七九四
第四十九款 勸業補助費	三、七九四
第五十款 勸業補助費	三、七九四
第五十一款 勸業補助費	三、七九四
第五十二款 勸業補助費	三、七九四
第五十三款 勸業補助費	三、七九四
第五十四款 勸業補助費	三、七九四
第五十五款 勸業補助費	三、七九四
第五十六款 勸業補助費	三、七九四
第五十七款 勸業補助費	三、七九四
第五十八款 勸業補助費	三、七九四
第五十九款 勸業補助費	三、七九四
第六十款 勸業補助費	三、七九四
第六十一款 勸業補助費	三、七九四
第六十二款 勸業補助費	三、七九四
第六十三款 勸業補助費	三、七九四
第六十四款 勸業補助費	三、七九四
第六十五款 勸業補助費	三、七九四
第六十六款 勸業補助費	三、七九四
第六十七款 勸業補助費	三、七九四
第六十八款 勸業補助費	三、七九四
第六十九款 勸業補助費	三、七九四
第七十款 勸業補助費	三、七九四
第七十一款 勸業補助費	三、七九四
第七十二款 勸業補助費	三、七九四
第七十三款 勸業補助費	三、七九四
第七十四款 勸業補助費	三、七九四
第七十五款 勸業補助費	三、七九四
第七十六款 勸業補助費	三、七九四
第七十七款 勸業補助費	三、七九四
第七十八款 勸業補助費	三、七九四
第七十九款 勸業補助費	三、七九四
第八十款 勸業補助費	三、七九四
第八十一款 勸業補助費	三、七九四
第八十二款 勸業補助費	三、七九四
第八十三款 勸業補助費	三、七九四
第八十四款 勸業補助費	三、七九四
第八十五款 勸業補助費	三、七九四
第八十六款 勸業補助費	三、七九四
第八十七款 勸業補助費	三、七九四
第八十八款 勸業補助費	三、七九四
第八十九款 勸業補助費	三、七九四
第九十款 勸業補助費	三、七九四
第九十一款 勸業補助費	三、七九四
第九十二款 勸業補助費	三、七九四
第九十三款 勸業補助費	三、七九四
第九十四款 勸業補助費	三、七九四
第九十五款 勸業補助費	三、七九四
第九十六款 勸業補助費	三、七九四
第九十七款 勸業補助費	三、七九四
第九十八款 勸業補助費	三、七九四
第九十九款 勸業補助費	三、七九四
第一百款 勸業補助費	三、七九四

臨時部	二、一三二
第一款 勸業補助費	二、一三二
第二款 勸業補助費	二、一三二
第三款 勸業補助費	二、一三二
第四款 勸業補助費	二、一三二
第五款 勸業補助費	二、一三二
第六款 勸業補助費	二、一三二
第七款 勸業補助費	二、一三二
第八款 勸業補助費	二、一三二
第九款 勸業補助費	二、一三二
第十款 勸業補助費	二、一三二
第十一款 勸業補助費	二、一三二
第十二款 勸業補助費	二、一三二
第十三款 勸業補助費	二、一三二
第十四款 勸業補助費	二、一三二
第十五款 勸業補助費	二、一三二
第十六款 勸業補助費	二、一三二
第十七款 勸業補助費	二、一三二
第十八款 勸業補助費	二、一三二
第十九款 勸業補助費	二、一三二
第二十款 勸業補助費	二、一三二
第二十一款 勸業補助費	二、一三二
第二十二款 勸業補助費	二、一三二
第二十三款 勸業補助費	二、一三二

臨時第一號議案

昭和五年度兵庫縣市部歲入歲出豫算書

歲入

第一款 市郡連帶市部收入 七九六  
 第一項 市郡連帶市部收入 七九六  
 第三款 國庫下渡金 五、四四七  
 第一項 警察費下渡金 五、四四七  
 歲入總計 一〇七、八一

歲出

傳染病豫防費 二五、三四四  
 檢疫委員其他手當 五、三〇〇  
 雇員給 六、三九〇  
 旅費給 三、五〇〇  
 諸備給 七、四四四  
 備品費 三五〇  
 消耗品費 四〇〇  
 圖書及印刷費 三二一  
 賄賂費 三二一  
 船車馬類雇賃 七、九九八  
 衛生試驗費 四一二  
 備品費 一八三  
 消耗品費 二二九  
 救護費 五〇〇  
 第七目 豫備費 一〇、〇〇〇  
 歲出臨時部合計 一九二、六三二

臨時部

第一款 市郡連帶市部收入 三、二九五  
 第一項 市郡連帶市部收入 三、二九五  
 第二款 繰越金 九八、二七三  
 第一項 前年度繰越金 九八、二七三  
 歲入臨時部合計 一〇一、五六八  
 歲入總計 一〇七、八一

臨時部

第十四款 市郡分賦市部負擔 一一七、五〇六  
 第一項 市郡分賦市部負擔 一一七、五〇六

臨時部

第一款 市郡連帶市部收入 三、二九五  
 第一項 市郡連帶市部收入 三、二九五  
 第二款 繰越金 九八、二七三  
 第一項 前年度繰越金 九八、二七三  
 歲入臨時部合計 一〇一、五六八  
 歲入總計 一〇七、八一

臨時部

第一款 市郡分賦市部負擔 一一七、五〇六  
 第一項 市郡分賦市部負擔 一一七、五〇六

臨時部

第一款 市郡連帶市部收入 三、二九五  
 第一項 市郡連帶市部收入 三、二九五  
 第二款 繰越金 九八、二七三  
 第一項 前年度繰越金 九八、二七三  
 歲入臨時部合計 一〇一、五六八  
 歲入總計 一〇七、八一

臨時部

第十四款 市郡分賦市部負擔 一一七、五〇六  
 第一項 市郡分賦市部負擔 一一七、五〇六

昭和三號議案

昭和五年度兵庫縣市部歲入歲出追加豫算書

歲入

第一款 市郡連帶市部收入 一、二四六  
 第一項 市郡連帶市部收入 一、二四六  
 第十三款 國庫下渡金 一、三五八  
 第二項 警察費下渡金 一、三五八  
 歲入總計 二、六〇四

臨時部

第一款 市郡連帶市部收入 五、一五三  
 第一項 市郡連帶市部收入 五、一五三  
 第二款 繰越金 一一七、九〇三  
 第一項 前年度繰越金 一一七、九〇三  
 歲入臨時部合計 一二三、〇五六  
 歲入總計 一二五、六六〇

昭和三號議案

昭和五年度兵庫縣市部歲入歲出追加豫算書

歲入

第一款 市郡連帶市部收入 一、二四六  
 第一項 市郡連帶市部收入 一、二四六  
 第十三款 國庫下渡金 一、三五八  
 第二項 警察費下渡金 一、三五八  
 歲入總計 二、六〇四

臨時部

第一款 市郡連帶市部收入 五、一五三  
 第一項 市郡連帶市部收入 五、一五三  
 第二款 繰越金 一一七、九〇三  
 第一項 前年度繰越金 一一七、九〇三  
 歲入臨時部合計 一二三、〇五六  
 歲入總計 一二五、六六〇

昭和三號議案

昭和五年度兵庫縣市部歲入歲出追加豫算書

歲入

第一款 市郡連帶市部收入 一、二四六  
 第一項 市郡連帶市部收入 一、二四六  
 第十三款 國庫下渡金 一、三五八  
 第二項 警察費下渡金 一、三五八  
 歲入總計 二、六〇四

臨時部

第一款 市郡連帶市部收入 五、一五三  
 第一項 市郡連帶市部收入 五、一五三  
 第二款 繰越金 一一七、九〇三  
 第一項 前年度繰越金 一一七、九〇三  
 歲入臨時部合計 一二三、〇五六  
 歲入總計 一二五、六六〇

昭和三號議案

昭和五年度兵庫縣市部歲入歲出追加豫算書

歲入

第一款 市郡連帶市部收入 一、二四六  
 第一項 市郡連帶市部收入 一、二四六  
 第十三款 國庫下渡金 一、三五八  
 第二項 警察費下渡金 一、三五八  
 歲入總計 二、六〇四

臨時部

第一款 市郡連帶市部收入 五、一五三  
 第一項 市郡連帶市部收入 五、一五三  
 第二款 繰越金 一一七、九〇三  
 第一項 前年度繰越金 一一七、九〇三  
 歲入臨時部合計 一二三、〇五六  
 歲入總計 一二五、六六〇

昭和三號議案

昭和五年度兵庫縣市部歲入歲出追加豫算書

歲入

第一款 市郡連帶市部收入 一、二四六  
 第一項 市郡連帶市部收入 一、二四六  
 第十三款 國庫下渡金 一、三五八  
 第二項 警察費下渡金 一、三五八  
 歲入總計 二、六〇四

臨時部

第一款 市郡連帶市部收入 五、一五三  
 第一項 市郡連帶市部收入 五、一五三  
 第二款 繰越金 一一七、九〇三  
 第一項 前年度繰越金 一一七、九〇三  
 歲入臨時部合計 一二三、〇五六  
 歲入總計 一二五、六六〇

第四節 警察署長會議

大演習觀艦式ノ警衛警備ニ關スル事務打合セノ爲、十月二日縣下各警察署長會議ヲ縣會議事堂ニ開催ス。午前九時高橋知事、藤岡警察部長、警察部各課長及縣下五十四警察署長兩消防署長並間瀬神戶憲兵分隊長等全部出席シ劈頭別項ノ如キ、知事ノ訓示アリ、次テ警察部長ヨリ指示事項ノ説明アリ、正午休憩午後一時再會 注意事項ノ説明ニ入り質疑應答ヲ重ネ午後四時散會ス、知事訓示要旨及指示注意事項左ノ如シ

第一高橋知事訓示要旨

本秋神戸港沖ニ於テ海軍特別大演習觀艦式ヲ舉行セラルヘキ御豫定ニ付テハ既ニ過般ノ警察署長會同ニ於テ述ヘタル所ナルカ其ノ後愈々之カ期日ノ決定ヲ見ルニ至リ爾來縣民一致奉迎ノ誠ヲ致シ之カ準備ニ怠リナク只管其ノ期日ノ到來ヲ翹望シテ止マサルト共ニ縣ニ於テハ既ニ事務委員部處務規程ヲ設ケ夫々準備ヲ進メツ、アル所ナルカ特ニ警衛警備ノ事務ニ關シテハ之ヲ忽ニスヘカラス茲ニ本日各位ノ會同ヲ煩ハシ所懷ノ一端ヲ述フルノ機會ヲ得タルハ本官ノ最モ欣幸トスル所ナリ

ノ、取締ハ警衛上最モ重要ノ事ニ屬スルヲ以テ之カ取締ニ付テハ克ク相互ノ連絡ト意思ノ疏通ヲ圖リ萬遺憾ナキヲ期セラルヘシ衛生事務ハ觀艦式ノ舉行ニ當リ密接不離ノ重大ナル關係ニアルヲ以テ過般來既ニ海陸共ニ檢病ノ戸口調査ヲ勵行シ、或ハ海上關係者ニ對シ豫防注射ヲ勵行スル等專ラ防疫ニ努メツ、アル所ナルモ疾クモ海外ニアリテハ危險ナル傳染病流行シ而モ本縣ハ交通關係上最モ警戒ヲ要スヘキ狀態ニアリ各位ハ一般民衆ノ健康保持ニ努ムルト共ニ防疫事務ノ完璧ヲ期シ觀艦式舉行ニ際シ支障ヲ來ササラムコトニ努メラルヘシ

警衛警備ヲ始メ一般民衆取締ノ衝ニ當ルヘキ警察官ノ最モ注意ヲ要スヘキコトハ民衆ノ處遇ニシテ從來動モスレハ之カ取扱ニ關シ兎角ノ批難ヲ受ケタル事例ナシトセス各位ハ克ク部下ヲ戒メ交通整理或ハ難查取締等ニ當リテハ常ニ懇切叮嚀ヲ旨トシ些ノ物議ヲ顧スカ如キコトナク圓滿ナル警察取締ノ遂行ヲ期セラルヘシ更ニ今秋十一月中旬中國地方ニ於テ行ハセラル、陸軍特別大演習舉行ニ際シテハ之カ御統監ノ爲メ親シク聖駕ヲ岡山縣ニ駐メサセラル本縣ハ恰モ其ノ御道筋ニ當リ警衛警備上ノ重任ヲ拜スルト共ニ一面多數ノ警察官ヲ應援ノ爲演習地方ニ出張セシムルニ至ルヘク之カ人選ニ就テハ深甚ノ注意ヲ拂フヘキモ派遣ヲ命セラレタル警察官ハ其ノ任務ノ重大ナルニ鑑ミ各々忠實ニ其ノ職責ヲ完フスヘキハ素ヨリ苟クモ過誤失態ヲ演シ本縣ノ體面ヲ汚損スルカ如キコトナク其ノ大任ヲ完フスルト共ニ各位ハ嚴メ此ノ間ニ於ケル警

第二、指 示 事 項

- 一、警衛警備ニ關スル件
- 一、規律ニ關スル件
- 一、警衛員訓練ニ關スル件
- 一、御肖像御紋章等ノ取締ニ關スル件
- 一、要視察人取締ニ關スル件
- 一、朝鮮人ノ取締ニ關スル件
- 一、勞働爭議其ノ他取締方ノ件
- 一、銃砲火藥類其ノ他危險物取締ニ關スル件
- 一、交通取締ニ關スル件
- 一、臨時通船取締ニ關スル件
- 一、火災警防ニ關スル件
- 一、一般犯罪被害ノ豫防警戒並犯人檢舉ニ關スル件
- 一、工場衛生災害豫防ニ關スル件
- 一、傳染病豫防其ノ他一般衛生ニ關スル件
- 一、精神病者ノ視察取締ニ關スル件
- 一、觀艦式舉行地域沿岸及之ト密接ノ關係アル地方ノ清潔保持ニ關スル件

第三、注 意 事 項

- 一、健康週間實施ニ關スル件
- 一、警衛員選抜ニ關スル件
- 一、貴賓顯官其ノ他知名者ノ來往視察ニ關スル件
- 一、風紀取締ニ關スル件
- 一、諸營業ノ取締ニ關スル件
- 一、廣告物ノ取締ニ關スル件
- 一、鐵道當局及移動警察官トノ連絡ニ關スル件
- 一、古鐵管容器取締ニ關スル件
- 一、流行病日報ニ關スル件

第五節 施行事務ノ概要

三月二十二日

- 一、午後三時 縣正廳ニ於テ第一回協議會ヲ開ク來會者高橋知事、坂間内務、藤岡警察、戸塚學務各部長、植場官房主事、黒瀬市長、篠崎稅關長、河北港務部長、船井商工會議所常議員、福本同理事ニシテ協議シタル事項左ノ如シ。
- 1、知事、市長、縣、市會議長東上關係方面ニ舉行方陳情ノコト
- 2、準備委員トシテ河北港務部長、植場官房主事、梅津市助役、福本商工會議所理事ヲ當ラシメ奉迎、接待其他ノ基礎案ヲ作ラシムルコト
- 3、各關係應ニテ豫算ヲ編成スルコト

- 4、高架鐵道工事ノ完成ヲ促進スルコト
- 5、博覽會開催ノコト
- 6、陸上拜觀所ノコト

四月一日

- 一、海軍省堀軍務局長ヨリ知事宛ニテ當地方希望ノ通り神戸沖ニテ舉行ノ旨略内定シ準備ノタメ關田中佐西下ノ旨通知アリ

四月四日

- 一、海軍省軍務局長關田中佐同人事務局員加藤中佐來神戶駐在海軍造船監督官菊山大佐同義輪中佐ヲ加ヘ關係者協議會ヲ稅關會議室ニ於テ開ク

打合セタル事項左ノ如シ

- 1、御舉行ニ就キ宮内省、海軍省間ノ意見一致セシコト
- 2、大演習並ニ觀艦式御舉行ノコト
- 3、陛下御行動御豫定ノコト
- 4、乘組員接待ノコト
- 5、御賜餐ノコト
- 6、陪觀、拜觀ノコト
- 7、給水ノコト
- 8、警衛警備ノコト
- 9、船舶借上ノコト

四月十五日

- 一、高橋知事、墨瀨市長、岩佐縣會議長及藤田市部會議長陳情ノ爲

上京ス

四月十九日

- 一、知事ヨリノ獻上品ニ關シ廳内ノ協議會ヲ開ク

四月二十日

- 一、陳情ノ爲上京セシ高橋知事歸廳ス

五月三十日

- 一、海軍次官ヨリ知事宛觀艦式事務委員氏名通知アリ

六月三日

- 一、關田中佐ヨリ植場官房主事宛舉式豫定十月二十六日ノ旨電話アリ

六月四日

- 一、關田中佐ヨリ榑橋材料ノ提供方並ニ御召艦十八番ブイニ繫留豫定ノ件ニ付電話打合せアリ

六月五日

- 一、參列艦種隻數、乘組員概數關田中佐ヨリ植場官房主事宛宛報アリ

六月十二日

- 一、本月十四日軍務局長來神ニ付キ下打合セノタメ地元關係者打合會ヲ縣正廳ニ於テ開ク參會者ハ高橋知事、坂間、藤岡、戶塚各部長植場官房主事、墨瀨市長、河北港務部長、海軍監督官小野寺少將鹿島商工會議所會頭等二十名ナリ

六月十三日

- 一、第一艦隊參謀杉山中佐及ビ西尾少佐縣内上陸場豫定地視察ノ

爲來神ナル

六月十四日

- 一、觀艦式事務委員長海軍省軍務局長堀少將、同委員關田中佐、結田中佐、下坊中佐、加賀屋中佐、最上中佐、伊藤少佐來神、縣、市、稅關、郵便局並ニ商工會議所幹部參集ノ上縣正廳ニ於テ第一回ノ正式打合會ヲ開ク

六月二十四日

- 一、縣關係ノ處務規程制定サル

六月二十五日

- 一、縣係長任命サル

七月一日

- 一、午前十時正廳ニ於テ各部長並各係長會議開催官房主事ヨリ大體ノ經過報告ヲナシ次デ種々意見交換打合スル處アリタリ

七月三日

- 一、海軍監督官菊山大佐ヨリ演習並ニ式次第第二具體化セルニ就キ其ノ内定案ノ報告ニ接ス

七月八日

- 一、水野神戸郵便局長ヨリ記念スタンプ意匠ニ付キ縣ノ希望照會アリ直ニ縣工業試驗場長ヘ此ノ旨移牒考案セシメタリ

七月九日

- 一、海軍省近藤屬來廳事務打合セテ行ヘリ

七月十三日

- 一、縣關係奉迎送並ニ接待等ニ關スル豫算編成打合會ヲ開ク

七月二十一日

- 一、縣正廳ニ於テ植場官房主事、河北港務部長、梅津市助役會合不日上京會議ノ件ニ就キ打合ヲ行フ

七月二十四日

- 一、午後五時ヨリ同十二時ニ至ル間正廳ニ於テ警察部各係豫算會議ヲ開催ス

七月二十六日

- 一、海軍省ニ於テ打合會ヲ開カレ地元側河北港務部長、植場官房主事梅津助役出席ス

七月二十九日

- 一、海軍省ヨリ陪觀資格者調査方ノ照會アリ

八月一日

- 一、午前十時各係長會議開催ス

八月六日

- 一、愛國婦人會兵庫縣支部長ヨリノ獻上品決定サル

八月八日

- 一、秘書係長ヨリ各係長宛關田中佐ヨリ照會ノ皇族奉迎送次第ヲ通牒ス

八月十一日

- 一、縣ヨリ水野神戸郵便局長宛記念スタンプ圖案ヲ送附ス

税關ニ於テ地元關係者ノ打合會ヲ開ク

一、「コレラ」豫防警戒並ニ豫防注射ニ關シ神戸水上、尼崎、西宮、明石、各警察署長並ニ神戸、尼崎、西宮、明石、各市長宛通牒ヲ發ス

八月十二日

一、植場官房主事ヨリ關田中佐宛陪觀皇族御乘用艇トシテ豫定セル神戸水上署保安號ハ使用支障アリ右代用トシテ海洋氣象臺所有「春風丸」ヲ充當セラレ度旨通知ス  
一、秘書係長ヨリ各部長、各係長へ觀艦式ノ際御召艦供奉艦並ニ特務艦等ノ繫留場及水兵上陸地ノ位置圖ヲ送附ス

八月十三日

一、藤岡警察部長ハ警備上ノ打合セニ付其筋ノ招電ニ依リ上京ス  
一、傳染病豫防ニ關スル件ニ付キ神戸市内各警察署衛生主任會議ヲ開催ス

八月十四日

一、下記ノ通傳獻品顯出アリ  
醬油二立瓶詰二本  
赤穂郡上郡町上郡七六三番地  
丸西醬油株式會社專務取締役西脇儀兵衛  
清酒一舂瓶詰二本  
赤穂郡上郡町一五一番屋敷  
清酒醸造業 西脇壽一郎

八月十五日

一、伊藤少佐實地視察ノ爲來神、同氏ノ出席ヲ求メテ地元關係者ノ協議會ヲ稅關會議室ニ於テ開催シ各般ニ亙リ打合ヲ行フ出席者左ノ如シ

一、篠崎稅關長、嶺田監視部長、河北港務部長、岸會計課長、荒木内務技師、植場官房主事、梅津市助役、森垣市港灣部長、菊山大佐、箕輪中佐

一、陛下行幸ニ際シ上表ノ件ニ付高橋知事ヨリ宮内省白根庶務課長ニ打合ヲナス

一、植場官房主事ヨリ關田中佐ト左記事項ニ就キ電話打合ヲ行フ  
1、外人賜饌ノ件  
2、豫行日ノ特許拜觀ノ件

3、寫眞材料ノ件

4、貴賓宿舍及ヒ車馬ノ件

一、神戸、尼崎、西宮、明石ノ各港ニ於ケル「コレラ」防疫ヲ開始ス  
八月十六日

一、縣豫算内會ヲ開ク

一、陪觀資格者調査人名簿ヲ海軍省へ送付ス

一、料理請負人等選定ノ爲神戸市役所及神戸商工會議所ト打合セヲ爲ス

一、「コレラ」に注意、同「豫防注射の心得」ト題スルビラ各一萬枚ヲ印刷シ、警察署ヲ通シ一般ニ配布セシム

八月十八日

一、臨時縣會ヲ開ク

一、下記ノ通傳獻品顯出アリ

稻麥扱機 壹臺

赤穂郡上郡町二三六番地 柴田三代治

八月二十日

一、植場官房主事陪觀拜觀及案内圖等ニ就キ菊山大佐ト打合ヲ行フ

一、献上品下記ノ通決定ス

洋 服 地

縣 治 一 班

羽二重(九重織)

蔬 菜

花 卉

鮮鯛、伊勢鰯、蛤

西 洋 家 具

外ニ宮殿下御土産品

洋服地(十四方分)

柿、栗、(二十三方分)

八月二十一日

一、植場官房主事ヨリ關田中佐ト左記事項ニ就キ電話打合ヲ行フ  
1、陪觀拜觀ノ件

一、乗組員接待ノ件ニ關シ植場官房主事海軍協會ノ井手少將ト打合ヲ行フ

一、秘書係長ヨリ各部長、各係長へ觀艦式々場決定圖面ヲ送付ス  
八月二十五日

一、海軍次官ヨリ知事宛ニ十月二十六日神戸沖ニ於テ大演習觀艦式御舉行可被爲在旨公式ノ移牒アリ

一、日本毛織株式會社社員來應シ献上品洋服地調製上ニ關シ打合ヲ爲ス

八月二十六日

一、献上羽二重(九重織)ノ調製方ニ付打合セノ爲出石郡縮緬同業組合長來應ス

八月二十七日

一、戶塚學務部長京都府へ、田島學務部長新潟縣ヨリ本縣へ轉任ノ件發合アリ

2、天候不良時ノ準備ノ件

3、陪觀者服裝ノ件

4、乗組員接待ノ件

八月二十二日

一、下記ノ傳獻品顯出アリ

醬油一樽

揖保郡御津村岩見一三二七番地

坪田醬油株式會社社長 坪田久太郎

八月二十三日

一、乗組員接待ノ件ニ關シ植場官房主事海軍協會ノ井手少將ト打合ヲ行フ

一、秘書係長ヨリ各部長、各係長へ觀艦式々場決定圖面ヲ送付ス  
八月二十五日

一、海軍次官ヨリ知事宛ニ十月二十六日神戸沖ニ於テ大演習觀艦式御舉行可被爲在旨公式ノ移牒アリ

一、日本毛織株式會社社員來應シ献上品洋服地調製上ニ關シ打合ヲ爲ス

八月二十六日

一、献上羽二重(九重織)ノ調製方ニ付打合セノ爲出石郡縮緬同業組合長來應ス

八月二十七日

一、戶塚學務部長京都府へ、田島學務部長新潟縣ヨリ本縣へ轉任ノ件發合アリ

一、下記ノ通傳獻品類出アリ  
葡萄及メロン洋梨 一籠  
栗及松茸 一籠

兵庫縣農會長 山脇延吉

八月二十八日

一、下記ノ通傳獻品類出アリ

花 卉 一籠

愛國婦人會兵庫支部長 高橋 雅

御陪觀各宮妃殿下ニ對スル獻上願トシテ栗一籠宛

八月三十日

一、植場官房主事竇輪中佐ト左記事項ニ就キ打合ヲ行フ

1、特許拜觀船ノ件

2、海軍省及宮内省關係事務委員來神ノ件

縣下各警察署長ニ對シテ戸口調査勸行方ヲ通達ス

九月一日

一、稅關會議室ニ於テ打合會ヲ開ク、出席者ハ海軍省側田結中佐、

伊藤少佐、第一艦隊側杉山中佐、西尾少佐及監督官菊山大佐、

竇輪中佐、河北港務部長、植場官房主事、梅津市助役ニシテ

協議シタル事項左ノ如シ

1、特許拜觀船ノ件

2、相澤仕合ノ件

3、軍樂隊ノ件

會(指示)ス

九月九日

一、宮内省武宮書記官、黒田侍從、住山侍從武官、來次主膳官外

宮内屬二名來神サレ、午前中地元關係者集合縣正廳ニ於テ各

般ノ事ニツキ打合ヲ行ヒ午後港内ヲ巡視サル

一、御料理ノ件ニ關シ宮内省、海軍省ト打合セアリ各料理店ヨリ

見本ヲ差出サシメ獻立内定ス尙和食辨當請負人内定ス

九月十一日

一、内務次官ヨリ知事宛十月二十六日特別大演習觀艦式御舉行ア

ラセラルヘキ旨海軍大臣ヨリ通牒アリタル趣通知アリ

一、精神病院長並警察署衛生主任者ト打合會議ヲ開催ス

一、水上警察係長ハ神奈川縣橫濱港外ニ於ケル昭和二、三年度觀

艦式狀況視察及通船取締ニ關スル事項其ノ他打合ノ爲四日間

ノ豫定ヲ以テ内務省並ニ神奈川縣へ出張ス

九月十二日

一、陪觀、拜觀ノ範圍特ニ外人及婦人ノ件ニ就キ菊山大佐ト植場

官房主事ハ更ニ打合ヲ行フ

一、竇輪中佐來應植場官房主事ト左記事項ニ就キ打合ヲ行フ

2、士官候補生、準士官接待ノ件

3、飛行隊ノ分列式及應急用自動車配置ノ件

九月十三日

一、江田島行幸地檢分中ノ武宮書記官、黒田侍從一行午後九時十

4、警衛警備ノ件  
5、陪觀拜觀ノ件  
6、賜饌ノ件

御料理請負人選定ニ就キ神戸市商工課長及神戸商工會議所西川書  
記ニ來應ヲ求メ協議ヲ爲ス

九月二日

一、前日ニ引繼キ更ニ山本水上署長ヲ加ヘ打合ヲ行フ

一、御料理請負人ヲ海軍省事務委員長へ推薦ス

九月三日

一、陪觀資格者中現役將校ノ名簿ヲ海軍省委員長へ送付ス

九月四日

一、觀艦式ニ關スル衛生ボスター二千三百枚ヲ縣下各警察署長宛

配布ス

九月五日

一、救護班設置ニ關シ神戸市内、御影、芦屋、西宮各署長並神戸、

西宮、御影、魚崎、住吉、本庄、精道各市町村長及神戸、西

宮、武庫郡各醫師會長宛依頼狀ヲ發ス

九月六日

一、吉川主計少佐賜饌料理打合ノ爲來應サル

一、和食辨當請負人選定方海軍省委員ヨリ通知アリタルヲ以テ神

戸市役所及神戸商工會議所ト打合ヲ爲ス

九月八日

一、各府縣知事及縣下各警察署長ニ對シ精神病者ニ關スル件調査

八分神戶縣者來神西宮盤二一泊サル

一、「天機奉伺者參候所」開設ニ關シ拜謁係長ハ係委員ト共ニ神戸

稅關ニ出張設備其ノ他ノ打合セヲ爲ス

一、武宮宮内書記官來神各係ニ於ケル質疑ノ應答並ニ事務ノ打合

ヲ爲ス

一、神戸市觀艦式事務宿舍係長來應賜饌者ノ宿舍ニ就キ事務ノ打

合セヲ爲ス

九月十四日

一、午前九時ヨリ縣正廳ニ於テ武宮書記官一行ト地元關係者再度

打合ヲ行フ

九月十五日

一、高橋知事ヨリ觀艦式參謀長鹽澤少將並ニ同事務委員長堀少將

宛水兵上陸地ヲ全部本縣内ニ定メラレ度旨ノ陳情書ヲ發送ス

一、高橋知事ヨリ觀艦式事務委員長堀少將宛縣政記者並神戸市政記

者ニ對シ特別拜觀者トシテ取扱ハレ度旨依頼書ヲ發送ス

九月十六日

一、内務次官ヨリ高橋知事宛ニテ特別大演習觀艦式御次第ノ件海

軍々令部長ヨリ上奏御裁可ヲ經タル旨移牒アリ

一、植場官房主事ヨリ關田中佐宛愛國婦人會員ノ拜觀ニ就キ重ネ

テ打合ヲ行フ

一、海軍省副官ヨリ兵庫縣知事宛公式ニ通牒アリタル行幸御日程

案ヲ官房主事ヨリ神戸市長、神戸稅關長、神戸商工會議所會



頭、内務省神戸土木出張所長、中央郵便局長へ通知スルト同

時ニ秘書係長ヨリ各部長、各係長宛通知ス

一、神戸市内、阪神間並ニ明石警察署警務主任ヲ召集シ事務ノ打

合ヲ爲ス

九月十七日

一、市電氣局及郊外電鐵會社ニ對シ外來新聞記者約三百五十名ニ

優待乗車券發行方依頼ヲ爲ス

九月十八日

一、臨時拜觀通船取締ニ關スル縣令發布セラレ同時ニ水上警察係

ニ於テハ通船取締ニ關スル取締方針ノ決定ヲ爲ス

九月十九日

一、宮内大臣ニ對シ警衛警備ニ關スル計劃ノ概要ヲ申報ス

一、中國五縣警察部長及特高刑事兩課長會議岡山縣ニ於テ開催セ

ラレタルヲ以テ觀艦式警備計劃ニ對シ關係各府縣ノ援助方提

案ス

九月二十日

一、觀艦式ニ件フ衛生施設ニ關シ各警察署長ニ通牒ヲ、神戸稅關

長並ニ關係方面へ依頼狀ヲ發ス

九月二十二日

一、植場官房主事ハ河北港務部長、土師市秘書課長ト共ニ海軍省

ニ出頭東京ニ於ケル最後ノ打合ヲ行フ

一、學生拜觀等ニ關スル件ニ就キ市町村長各學校長並ニ各幼稚園

長宛照會ヲ爲ス

九月二十三日

一、神立海軍々醫少佐來縣神戸市及其ノ附近ノ衛生狀態及各料理

店清酒請負店等ノ衛生狀態ノ視察ヲ爲ス

九月二十五日

一、觀艦式記念海港博覽會開會式舉行サル

九月二十七日

一、觀艦式臨時通船取締ノ爲メ阪神淡路及東播沿岸各署十六警察

署營業主任會議ヲ水上警察署ニ於テ開催シ左記事項ニ付キ打

合セテ爲ス

協 議 事 項

- 1、營利ヲ目的トセサルモノ、範圍ノ件
  - 2、通船料ノ件
  - 3、定員測定方法ノ件
  - 4、拜觀船ノ標旗ニ關スル件
  - 5、便所ノ設備ニ關スル件
  - 6、船體檢査ノ件
  - 7、補助帆船ニ對スル制限ノ件
  - 8、規則第七條ニ基ク命令事項ノ件
  - 9、拜觀者ニ對スル注意事項ノ件
  - 10、小型船舶ニテ拜觀セントスルモノ、取締ノ件
- 九月二十八日
- 一、前合並ニ事務所決定ノ爲メ午前七時五十五分三宮驛着海軍省近

武川艦及小臨艦來神サ

九月三十日

一、觀艦式寫眞班長吉田中佐來應觀艦式寫眞攝影ニ關シ打合セテ

行フ拜謁係矢野、竹中、芝田三委員ハ「天機奉伺者參候所」

設備ニ關シ午後六時神戸稅關ニ出張篠崎稅關長、嶺田監視部

長其ノ他立會ノ下ニ燈明裝置其ノ他ノ調査打合ヲ爲ス

十月二日

一、加藤中佐來神地元各方面ニ亙リ打合ヲ行ハル

一、警衛警備ニ關シ縣下警察署長會議開催サル

十月四日

一、海軍次官ヨリ高橋知事宛觀艦式舉行ニ就キ必要ナル設備ニ關

シテハ當地ニ出張スル吳鎮守府主任官ニ相當援助サレタキ旨

依頼越アリ直ニ秘書係長ヨリ各部長、各係長ニ移牒セリ

十月六日

一、和洋食料店主ヲ招致シ衛生上ノ注意ヲ爲ス

一、學生陸上拜觀場所決定ス

一、新聞記者係事務所ヲ商工會議所ニ設置ノ爲商工會議所福本理

事ト打合ヲ行フ

十月七日

一、海軍省關田中佐第一艦隊參謀西尾少佐第二艦隊所屬妙高、羽

黒、足柄、那智ノ各艦長來神各方面視察ノ上打合ヲ行ハル

一、觀艦式當日ノ準備ノ爲稅關構内及水上關係ノ下調査ヲ爲ス尙

献上品臺ノ調製方ヲ大丸神戸支店ニ注文ス

十月八日

一、内務省内野防疫課長、南澤處觀艦式衛生施設視察ノ爲來臨ス

一、御陪觀ノ皇族殿下御宿所等ニ關シ奉迎係長並ニ中村、田中

兩委員寶塚ホテル及甲子園ホテルニ出張打合セテ爲シタリ

十月九日

一、各市長村長、各官公署長其ノ他ハ「天機奉伺者參候所」ニ參

候方ニ關シ縣報登載又ハ各別ノ書面ヲ以テ通牒ヲ發ス

一、接伴部長並中村委員上京各宮家へ伺候事務ノ打合セテ爲シタ

リ 久邇宮家ト事務打合ノ爲奉迎係長京都市へ出張ス

十月十日

一、本日付宮内大臣ヨリ知事宛行幸ノ旨通牒アリ同時ニ御發着時

間割送付サル

十月十一日

一、人事局屬準備ノ爲來神サル

一、觀艦式々場境界ノ柱燈、浮標本日ヨリ吳海軍港務部ノ手ニ依

リ敷設開始サル

一、海軍寫眞班長吉田中海軍中佐來應觀艦式寫眞攝影ニ關シ事務

打合ヲ行フ

十月十二日

一、谷口軍令部長來神港内設備其ノ他ヲ視察サル

十月十四日

一、拜謁係長神戸税關ヲ訪問天機奉伺所設置其ノ他事務打合せヲ爲ス

一、奉迎送係長ハ事務打合せノ爲大阪府廳へ出張ス

一、警衛ニ關シ内務大臣ノ訓令ニ基キ縣下各署長へ通牒ス

十月十五日

一、海軍事務委員長ヨリ通知ヲ得タル左記事項ヲ秘書係長ヨリ各部長及各係長ニ報告ス

1、觀艦式指揮官ニ於テ決定ノ式場警戒規程

2、觀艦式御次第細目并陪觀皇族ニ對スル奉迎送次第

3、賜饌ノ爲御差遣ノ皇族ニ對スル儀禮其ノ他ノ件

一、觀艦式當日ノ 陛下御尊影貸下等ニ關シ各新聞社代表者ヲ招致協議會ヲ開催ス尙同件其ノ他ニ付交渉打合せ等ノ爲大上委員海軍省へ出張ス

十月十六日

一、税關構内電燈設備ノ件ヲ中井剛造ニ請負ハシメ工事施行セシム

十月十七日

一、献上ノ花卉視察ノ爲献上品係長川邊郡長尾村へ出張ス

十月十八日

一、陛下軍艦霧島ニ乘御演習地ニ向ケ横須賀ヲ御發航遊バサル

一、觀艦式海軍事務所ヲ税關港務部樓上ニ開設サル

一、事務委員囑託各記者ト事務打合せ開催ス

十月十九日

一、海軍觀艦式事務所開設ニ就キ賜饌係長ハ事務打合せノ爲同所へ出張ス

十月二十日

一、拜謁係長ハ神戸税關へ出張「天機奉伺者參候所」設備ノ豫行ヲ爲ス

一、山田氏ヨリ申出ノ菊花寄贈差支ナキコトヲ決定ス

一、久邇宮多嘉王殿下御行動ニ關シ中村委員ハ湊川神社、神戸市役所神戸驛及博覽會場ニ至リ事務打合せヲ爲ス

一、陸上拜觀場所管警察署並市役所、町村役場ト事務打合せヲ爲ス

一、各新聞社寫眞攝影者ヲ招致シ御尊影等ニ關スル打合せヲ爲ス

一、内務大臣ニ對シ行幸特別警備ニ關スル計劃ヲ報告ス

一、正廳ニ於テ各係長會議ヲ開催ス

十月二十一日

一、秘書係長ヨリ各部長、各係長へ御召艦御入港ノ豫定日時ヲ通知ス献上ノ栗、柿、花卉、並ニ傳獻品全部ヲ受入レタリ

一、献上ノ鮮鯛其ノ他水産品ニ關シ視察ノ爲係員明石へ出張ス

一、各料理請負人及清酒請負人ヲ招致シ搬入方法等ニ付詳細ナル注意ヲ與フ

十月二十二日

一、久邇宮家ト事務打合せノ爲南委員京都市へ出張ス

一、陛下御召艦霧島ニテ神戸港ニ御入港更ニ軍艦羽黑ニ御移乗江

一、午前八時ヨリ午後二時迄及午後十時ヨリ翌午前四時迄ノ間第一回港内外檢索ヲ爲ス

十月二十四日

一、豫行演習舉行サルコノ日大官連續々來神サル

一、縣市聯合ニテ入港ノ聯合艦隊所屬士官候補生、下士官及兵代表ノ慰勞宴ヲ催ス

一、聯合艦隊司令長官山本中將ハ地方官民有力者ヲ旗艦陸奥ニ招待サル

一、下記ノ献上品、傳獻品ヲ鐵道便ヲ以テ送納ス

西洋家具 七個

羽 重 一個

洋 服 地 三個

リノリウム 二個

一、新聞記者係事務所ヲ神戸商工會議所ニ移轉ス

十月二十五日

一、陛下神戸港ニ御入港遊ハサル

一、天機奉伺事務擔任ノ各係員ハ午前八時神戸税關ニ出張正午一切ノ準備ヲ終了午後三時天機奉伺者參候所ヲ開キ九時閉鎖、

名簿ハ直ニ衛生係ノ消毒ニ附シ午後十一時過御召艦ニ持參ス

ルニ差支ナキ様包裝ヲ了ス

一、各宮殿下ノ献上品ヲ各係官ニ夫々奉納方依頼ス

一、洋食店ニ對シ搬入督勵ヲ爲スト共ニ定刻各指定艦ニ搬入誘導

田島へ向ケ發航遊ハサル

一、献上ノ鮮魚ヲ受入レタリ

一、献上品、傳獻品中左記ノモノハ軍艦羽黑ニ移送シ長官自ラ之ヲ献上ス

記

縣治一斑、蔬菜、盆栽、鮮鯛(以上献上品)

花卉、葡萄、メロン、洋梨、栗、松茸、柿(以上傳獻品)

一、寄贈菊花ノ下調査ヲ爲ス

一、御召艦ニ御尊影受取ノ爲使用スル汽艇借用方内務省土木出張所ニ交渉借用ス

一、皇族御休憩用天幕設備ニ付キ大塚技手第一突堤ニ出張調査ヲ爲ス

十月二十三日

一、高橋知事ハ觀艦式御盛儀ノ無滞終ハラセラル、襟祈願ノ爲長

田、生田、湊川ノ市内三神社并ニ廣田、海ノ兩神社ニ參拜ス

一、海上拜觀ノ件ニ付キ神戸税關並ニ三菱倉庫株式會社其ノ他ト事務打合せヲ爲ス

一、陸上拜觀場所設備本日ヨリ一齊着手ス

一、大阪灣境沖準備地ニ集合シタル觀艦式參加軍艦百六十三隻

ハ午前六時ヨリ順次式場ニ進入シ午後二時全艦隊控錨シタリ

此ノ間軍艦ノ航路警戒ノ爲メ保安丸以下六隻尼崎西宮沖合ニ

出動警戒ニ從事ス

ヲ爲ス

- 一、第一突堤ニ夜景御覽場所並ニ皇族殿下御休憩ノ爲稅關ト打合セノ上貴賓室ノ設備ヲ完成ス
- 一、御召艦警衛ノ港内沿岸中隊第一第二小隊ハ午後零時三十分配置シ警衛ニ從事ス第三小隊ハ午前八時ヨリ配置ニ就キ拜觀通船發着場ノ警戒ニ當ル
- 一、御召艦羽黒ハ午後三時無事御入港々内第十番浮標ニ御繫留同三時三十分第十八番浮標繫留ノ霧島ニ御移乗アラセラレ當夜御假泊アラセラル

十月二十六日

- 一、盛儀御舉行
- 一、陛下横須賀ニ向ケ御發航遊ハサル
- 一、縣市聯合ニテ艦隊最高幹部招待會ヲ催ス
- 一、早朝植場官房主事天機奉伺者名簿ヲ御召艦ニ持參ス
- 一、和食店ニ付料理搬入ノ誘導ヲ爲ス
- 一、皇族殿下ノ御行動ニ關シ委員一名海軍出張所ニ至リ事務ノ打合せヲ爲ス
- 一、午前一時式場警衛隊全員集合各中隊毎ニ點檢訓示ノ後午前二時ヨリ配置ニ就キ式場警衛ニ從事ス

十月二十七日

- 一、陛下東京ニ還行遊ハサル
- 一、高橋知事ヨリ宮内大臣宛ニ 天機奉伺電報皇后宮大夫宛ニ

御機嫌奉伺電報ヲ發ス

- 一、高橋知事ヨリ宮内大臣並ニ行幸主務官へ御禮電報ヲ發ス
- 一、高橋知事ハ市内三神社并ニ廣田、海兩神社ニ御禮參拜ス
- 一、縣市聯合ニテ艦隊乘組士官及準士官ノ歡迎宴ヲ催ス
- 一、商工會議所内ニ於ケル新聞記者係事務所ヲ閉鎖ス

十一月一日

- 一、高橋知事御禮言上ノ爲上京ス
- 一、コノ日博覽會閉會式ヲ舉行サル

十一月二十二日

- 一、堀軍務局長一行挨拶ノ爲來神サル

## 第二章 庶務部

### 第一節 秘書

#### 第一款 委員ノ任命並ニ徽章

第一、委員ノ任命

六月二十四日觀艦式事務委員部處務規定制定セラレ、次テ各部係長ノ任命ヲ見タル後當該部係ニ於ケル事務委員ハ原則トシテ其ノ部課(署)ニ屬スル者ノ中ヨリ適任者ヲ選ヒテ必要數ノ内申ヲ爲サシメ七月九日發令ヲ見タルカ、尙事務ノ必要ニ基キ其ノ後ニ至リ更ニ追加セラレタル向モアリ結局各部ヲ通シテ五百二十八名ノ任命ヲ見タル次第ナリ

#### 第二款 委員ノ徽章

各部係間及本廳外關係方面トノ事務連絡其ノ他ノ必要上左ノ如キ委員徽章ヲ定メテ之ヲ各委員ニ佩用セシメタルカ、本徽章ハ委員トシテ任命囑託セラレサリシ者ト雖モ觀艦式事務ニ從事シ特ニ其ノ必要アリト認メタル者ニ對シテモ之ヲ佩用セシメタリ



ハンボリ ハルタメ  
淡 シブイ 紫 銀

#### 第二款 文書ノ發受並ニ整理

觀艦式事務ニ關シテ發受スル文書ニハ總テ「兵觀艦第 號」又ハ「兵甲觀艦第 號」(一事件ニ關シ多數ノ箇所ニ照會シ又ハ多數箇所ヨリ受クルモノニ使用ス)ノ番號ヲ附シ特ニ文書件名簿ヲ備ヘテ之ニ登錄整理シ、且ツ他ノ文書トノ識別ヲ容易ナラシムル爲外ニ左ノスタンブヲ捺捺シテ其ノ混同ヲ防キタリ。是等文書取扱ニ關シテ左ノ通牒ヲ發シタリ。

兵觀艦第七號

昭和五年七月二十六日

部係長宛 秘書係長

#### 觀艦式事務委員部ニ屬スル文書取扱方ニ關スル件

大演習觀艦式事務委員部ニ屬スル文書取扱方左記ノ通御決定相成候條御了承相成度此段爲念申進候也

- 左記
- 一、回議書及收受發送文書ノ上部欄外ニ一定ノ標印ヲ捺捺シテ他ノ文書トノ識別ヲ易カラシムルコト
  - 二、收受發送文書ハ特ニ設ケタル文書件名簿ニ登錄スルコト
  - 三、文書ニ附スヘキ番號ハ左ノ通トスルコト
- 兵觀艦第 號  
兵甲觀艦第 號

- (一) 事件ニ關シ多數ノ箇所ニ照會シ又ハ多數ノ箇所ヨリ受クルノニ使用ス)
- 四、到達ノ電信、書留郵便物等ハ特ニ設ケタル送達簿ヲ以テ宛名ニ進達配付スルコト
- 五、前各號ニ定ムルモノノ外ハ一般ノ例ニ依リテ處理スルコト

識別スタンプ



第三款 天氣豫報

觀艦式ノ御催ハ天候ノ影響ヲ受クルコト至大ニシテ、殊ニ御親臨當日天候ニ因リテハ或ハ之ヲ變更又ハ御取止相成ルノ已ムナキニ至ル場合アルヘキヲ以テ、隨テ之ニ關スル通報ハ甚ダ敏活慎重ナラサル可カラス。故ニ海軍觀艦式事務委員部ニ於テモ充分考慮スル所アリ之カ通報連絡方ニ關シ本縣並ニ稅關港務部當局ト會合ノ際慎重協議ヲ遂ゲタル結果左記要領ノ通り計畫實施スルコト、シ更メテ海軍觀艦式事務長ヨリ依頼アリタルヲ以テ、更ニ神戸海洋氣象臺及其ノ他關係方面ト打合セテ重ネ敏活且ツ圓滑ナル連絡ヲ持スルニ萬遺憾

左記

- 一 係員ヲ神戸驛ニ派遣ス
- イ、大阪運輸事務所ニ豫定各驛ニ揭示方依頼ス(鐵道電話使用)
- ロ、神戸驛ニ揭示セシム
- 二 神戸市役所ニ電話ニテ通報
- イ、延期又ハ中止ノ旨通知
- ロ、揭示方依頼
- 三 揭示方依頼ノ電話通報先(電車、バス)
- イ、神戸市電氣局
- ロ、阪神電車瀧道終點
- ハ、阪急電車上筒井終點
- ニ、神有電車湊川終點
- ホ、神姫電車兵庫終點
- ヘ、阪神國道バス神戸終點
- ト、神明國道バス神戸終點
- 右各驛ニ電話シ豫定各驛ニ揭示方依頼ス
- 四 其ノ他電話通報先
- イ、縣廳各係長
- ロ、神戸商工會議所
- 第二、觀艦式前後ニ於ケル通報
- 觀艦式前後ニ於テモ警衛警備其ノ他ノ施設計畫ハ海上ニ於テ之ヲ

ナキヲ期シタリ。

第一、當日ニ於ケル通報計畫(海軍省觀艦式事務委員部計畫)

- 觀艦式當日早朝天候通報要領
- 一 神戸稅關港務部内ニ在ル觀艦式事務委員ハ觀艦式前日午後三時及午後九時ニ於テ翌日ノ天氣豫想ヲ又當日午前五時當日ノ天氣豫想ニ關シ神戸海洋氣象臺ヨリ通報ヲ受ク。
- 二 觀艦式事務委員長ハ右ノ氣象通報ヲ受領セハ觀艦式指揮官ト打合セノ上觀艦式御舉行ニ差支ヘ無キヤ否ヤニ關スル意見ヲ霧島ニ在ル行幸主務官並ニ演習統監部ニ通知ス。
- 三 萬一觀艦式日時御變更又ハ御取止メ等ノ場合ハ演習統監部ハ速ニ其ノ旨ヲ觀艦式指揮官及觀艦式事務委員長ニ通報ス。
- 四 前號ノ場合觀艦式指揮官ハ之ヲ參加艦船ニ通達シ觀艦式事務委員長ハ之ヲ兵庫縣廳、大阪府廳、神戸稅關、大阪稅關及大阪中央放送局ニ通報スルコト。
- 五 觀艦式事務委員長ヨリ御取止メ又ハ日時御變更ノ通知ヲ受クルコトアラハ
- (イ) 大阪中央放送局ハ其ノ旨直ニ午前五時半頃放送スルコト
- (ロ) 兵庫縣廳、大阪府廳、神戸稅關及大阪稅關ハ速ニ(拜)者其ノ他關係アル向ニ通報手段ヲ講スルコト
- 注意 豫定通り御舉行ノ場合ニハ何等通報ヲ發セス。
- 右ニ基キ本縣ニ於テハ第五號ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ(拜)者觀者ニ周知セシムル爲、左ノ計畫ヲ樹テ係員ハ警衛事務ニ從事セ

爲スモノ多ク隨テ荒大等ノ場合ニ於ケル措置ニ關シ關係諸部ト生セサル様ニ相當考究スルノ要アリ、天候ノ通報ハ一段ト緊要ナルモノアルヲ以テ本縣ニ於テハ十月二十日ヨリ同二十八日迄海洋氣象臺ヨリ一日二回通報ヲ受ケ之ヲ各部係ニ周知セシメテ萬全ヲ期シタリ

以上ノ如ク計畫實施シタルニ十月二十四日豫行演習當日ヨリ漸次天候悪化シ廿五日ハ朝來ヨリ遂ニ降雨トナリ天候變フベキモノアリシモ二十六日當日ハ曉天隅ナク晴レ渡リ陽光和カニシテ風ナク平和ヲ象徴スル絶好ノ觀艦式日和トナリ芽出度御親臨ヲ終了セラレタリ

第四款 各部係並ニ廳外トノ連絡

各部係並ニ廳外トノ事務ノ連絡ニ關シテハ主トシテ秘書係長之ニ膺リ、1、部内ニ於テハ上局並ニ廳外關係方面ト往復折衝シタル事項ニ付必要ニ應シテ部係長會議ヲ開催シ輕易ナルモノハ通報報ニ依リテ之カ連絡ヲ保チ、2、廳外關係ニ在リテハ各部係長ノ申出、要求等ヲ統一シテ之ヲ折衝シ以テ事務ノ圓滑ヲ期シタリ。

第二節 拜 謁

第一款 天機奉伺ニ關スル事務

- 第一、事務分掌
- 天機奉伺ニ關スル事務分掌左ノ如シ
- 一、設 備 係員全部

但シ海軍出張所詰及當日午前中夜景見物招待場ノ設備ヲ擔任セシ者ヲ除ク

一、受 付

文書課屬 大橋 登一  
同 嘱託 今井 馬吉  
統計課屬 井上 寅一郎  
同統計主事補 宮 正

一、案 内 (必要ノ場合ハ受付ヲ援助ノコト)

統計課屬 高 階 貢  
同統計主事補 木村 良之助

一、侍 立 (休憩中必要ノ場合受付ヲ援助ノコト)

統計課屬 守時 孝治郎  
同 後藤 卯佐次  
同 藤原 武一郎

一、連 絡

文書課屬 芝田 孫太郎

一、外人應接

外務係通譯 兒玉 辰二  
外事課通譯 大久保 英一

一、給食及自動車連絡

文書課屬 松尾 勝美  
同 茶谷 重明  
同 給仕 相川 重太郎  
統計課屬 土屋 爲光

一、休憩所

統計課屬 土屋 爲光

一、右海軍委員出張所ニ當日係係員詰切ルコト  
右ノ根本要項ニ據リテ調査研究ヲ重ね、一面神戸税關トモ打合ハセテ爲シタル上左ノ計畫概要ヲ樹テ九月十四日當廳ニ於テ開催シタル行幸主務官等トノ打合せ會ニ提出シテ其ノ了解ヲ求メ併セテ左ノ質疑事項ヲ提出セリ

天機奉伺ニ關スル計畫概要

一、天機奉伺有資格者ヘノ周知方法ハ十月十日頃ニ採ルヘシ(縣報登載及新聞記事トシテ發表スルコト)

一、天機奉伺者名簿謹記用卓子其ノ他別圖ノ通(別圖省略)配置ス

說 明

一、出入口 正面ノ門戸ヲ入口トシ兩脇ヲ出口トス

一、入口ノ門前兩脇ニ机(卓子掛ヲ用フ)ヲ置キ受付所トス(税關備品ヲ用ウルコト)

一、前記受付所ノ机上ニ名刺受用トシテ黒塗盆ヲ置クコト

一、雨天ノ際ハ門戸ト中石段下トノ中間入口ノ兩脇ニ雨具置用トシテ机ヲ設クルコト(税關備品ヲ用ウルコト)

一、名簿謹記用卓子ハ巾二、六呎長サ六呎ノモノヲ二臺設ク(税關備品ヲ用ウルコト)

一、右卓子ニハ青雜紗ノ卓子掛ヲ掛ク(税關備品ヲ用ウルコト)

一、名簿ハ四冊配置ノコト

一、右四冊ニ各々硯、筆、墨ヲ備フルコト

一、海軍出張所詰

同 木本 是郎

一、庶 務

文書課屬 矢野 慶正  
同 竹中 鹿藏  
同 芝田 孫太郎

第二、計 畫

天機奉伺ニ關スル事務ニ關シテハ行幸主務官等ト協議ノ結果大體左ノ通り計畫シテ之ニ關スル事ハ拜謁係ニ於テ擔任スルコトトナレリ

一、期日 天機奉伺ハ十月廿五日午後三時ヨリ午後九時迄ノ間ニ之ヲナスコト

一、場所 神戸税關正門適當ノ場所ヲ撰定スルコト

一、服裝 行在所ニ天機奉伺ヲ爲シ得ベキ資格及服裝ニ關スル件通牒ニ依ル

一、十月廿五日ハ海上ニ於ケル天機奉伺ハ一切許サレズ陸上ニ於テ天機奉伺スルコト

一、天機奉伺者名簿ヲ設備スルコト

一、適當ノ時期ニ右ニ關スル件ヲ市町村長ニ通牒スルト共ニ新聞ニ發表シ一般ニ周知セシムルコト

一、大臣其ノ他ノ顯官ニシテ軍艦ニテ天機奉伺ヲ爲サントスル者アル場合ハ港務部内海軍委員出張所ニ就キ行幸主務官ニ無線電話ヲ爲シ打合ハセテナスコト

一、名簿謹記用卓子ノ正面奥ニ金屏風一雙ヲ立ツコト(税關備品ヲ用ウルコト)

一、金屏風前面ニ適當ナル盆栽二鉢ヲ飾ルコト

一、記帳場所ノ周圍ニ紅白ノ幔幕(高サ八尺見當)ヲ張ルコト

一、記帳場所入口ノ兩側ニ目隠シノ爲衛立ヲ置クコト(税關備品ヲ用ウルコト)

一、携帶品置場用トシテ前記衛立ノ側ニ小卓各一個ヲ置クコト(税關備品ヲ用ウルコト)

一、照明設備ハ現在ノ儘ニテ可ナリト思惟スルモ必要ノ場合ハ名簿謹記用卓子上ニ電氣スタンドヲ相當配置スルコト

一、右配置ハ十月十五日頃ニ一回豫行シ當日ハ午前中ニ配置ヲ了ス

一、係員トシテ受付案内其ノ他相當人員ヲ配置シ特ニ名簿謹記用机ノ左右兩脇ニ各一名宛侍立セシム

一、名簿ハ一括消毒ノ上翌朝御召艦ニ運ブコト

質 疑 事 項

(括弧内ハ其ノ回答ナリ)

一、資格認定

二、天機奉伺者ノ資格認定ハ奉伺者ヨリ差出シタル名刺ヲ證據トシテ認定スルガ如キ方法ニ據リテ差支ナキヤ

(可)

一、名簿ノ様式

天機奉伺者名簿ノ様式ハ三大節等ノ砌地方廳ニ於テ謹製シ來リタルモノノ様式ニテヨロシキヤ  
 (可。外人ノ分ハ用紙西洋紙ヲ用キ簿冊ヲ別ニスルコトト大キサハ美濃半切大)  
 一、外國領事其ノ他有力外人實業家等參候ノ場合ハ名簿ニ記載セシメテ差支ナキヤ

(外人ノ分ハ名簿ヲ別ニスルコト)  
 一、「地方 行幸行啓ノ節行在所御宿泊所ニ於テ 天機奉伺又ハ御機嫌奉伺ヲ爲シ得ヘキ資格及其ノ服裝ニ關スル」通牒ニ依ル資格ナキ者ト雖モ相當社會的地位アル者ノ參候ノ場合ハ名簿ニ記載セシメテ差支ナキヤ

(無資格ノ者ハ帳簿ヲ別ニスルコト)  
 一、稅關正門前ニ國旗提燈ヲ掲揚スヘキヤ  
 (掲揚差支ナシ)  
 一、稅關正門ニ「天機奉伺者參候所」ト標札ヲ掲ケテヨロシキヤ  
 (差出スコト)  
 右質疑ニ對スル回答等ニ依リテ九月十九日再ヒ左ノ計畫ヲ樹立シタリ

**天機奉伺ニ關スル計畫概要**  
 一、天機奉伺有資格者ヘノ周知方法ハ十月十日頃ニ探ルヘシ而シテ其ノ方法ハ縣報登載及新聞記事トシテ之ヲ發表スルコト

一、天機奉伺者名簿ハ別冊様式ニ依リ多數調製シ置クコト(別冊様式略ス)但シ三大節ノ砌當廳ニ於テ調製スルモノニ同シ表紙ノ記載左ノ通

昭和五年十月二十五日  
**天機奉伺者名簿**

一、外國領事其ノ他有力外人實業家等參候ノ場合記載セシムヘキ名簿ヲ調製シ置クコト  
 用紙ハ西洋紙ニテ美濃半切大ヲ用ウルコト  
 一、天機奉伺者名簿謹記用卓上其ノ他別圖ノ通配置スルコト(別圖略ス)  
 一、稅關正門前ニ國旗及提燈ヲ掲揚スルコト(稅關備品ヲ用ウルコト)  
 一、稅關正門ニ「天機奉伺參候所」ノ標札ヲ差出スコト  
 一、正面ノ門戸ヲ入口トシ兩脇ヲ出口トスルコト  
 一、入口ノ門前兩脇ニ机(卓子掛ヲ用ウ)ヲ置キ受付所トスルコト(稅關備品ヲ用ウルコト)  
 一、右受付所ノ机上ニ名刺受用トシテ黒塗盆ヲ置クコト  
 一、雨天ノ際ハ門戸ト中石段下トノ中間、入口ノ兩脇ニ雨具置用トシテ机ヲ置クコト(稅關備品ヲ用ウルコト)  
 一、名簿謹記用卓子ハ巾二、六呎長サ六呎ノモノヲ二臺設クルコト(稅關備品ヲ用ウルコト)

昭和五年十月九日  
 兵庫縣大演習觀艦式事務委員部  
 庶務部 長  
 各市町村長 殿

**天機奉伺ニ關スル件通牒**

本月二十五日午後三時ヨリ同九時迄神戸稅關内ニ「天機奉伺者參候所」開設可相成候處參候者ハ同所備付ノ天機奉伺者名簿ニ其ノ資格及氏名ヲ記載スルコトト相成居候尙天機奉伺ヲ爲シ得ヘキ資格及其ノ服裝ハ別記ノ通ニ有之候條右ニ依リ委細御了知ノ上貴部内有資格者ニ周知方可然御取計相成度  
 追テ參候者ハ其ノ資格ヲ肩書シタル名刺ヲ受附ニ差出候様致度尙自動車使用ノ向ハ左記通路ニ依リ稅關構内ニ出入相成候様致度申添候

入口 稅關京橋通路、稅關小野濱通路(稅關本廳前入口)  
 出口 稅關第一波止場東通路(神戸クラブ南側入口)

(別記)  
 丙第一〇六二號  
 昭和三年十月五日

內務大臣秘書官  
 兵庫縣知事 殿

一、名簿ハ四冊配置ノコト  
 一、右四冊ニ各々硯、筆、墨ヲ備フルコト  
 一、名簿謹記用卓子ノ正面奥ニ金屏風一雙ヲ立ツルコト(稅關備品ヲ用ウルコト)  
 一、金屏風ノ前ニ適當ナル盆栽二鉢ヲ飾ルコト  
 一、記帳場所ノ周圍ニ紅白ノ幔幕(高さ八尺見當ヲ張ルコト)  
 一、記帳場所出入口ノ兩側ニ目隠シノ爲衝立ヲ置クコト(稅關備品ヲ用ウルコト)  
 一、照明設備ハ現在ノ儘ニテ可ナリト思惟スルモ必要ノ場合ハ名簿謹記用卓子上ニ電氣スタンドヲ相當配置スルコト  
 一、右配置ハ十月十五日頃ニ一回豫行シ當日ハ午前中ニ配置ヲ了スルコト  
 一、係員トシテ受付、案内其ノ他相當人員ヲ配置シ特ニ名簿謹記用机ノ左右兩脇ニ各一名宛特立セシムルコト  
 一、名簿ハ翌朝一括消毒ノ上御召艦ニ運ブコト

**第三、實 施**

前期計畫ニ基キ着々準備ヲ進メタルカ事情ノ變更等ニ依リテ改メタルモノナキニアラス其ノ遂行要領左ノ如シ

一、天機奉伺有資格者ヘノ周知方法  
 十月九日左記ノ通り縣報登載並通牒等ニ依リ周知方法ヲ探レリ

1、縣報登載  
 ○兵觀艦第八七號

地方行幸啓ノ節行在所御泊所ニ於テ 天機奉伺又ハ御機嫌奉伺ヲ爲シ得ヘキ資格及其ノ服裝別紙寫ノ通改定ノ旨宮内大臣ヨリ通牒有之候ニ付及移牒候也

(別紙)

宮内大臣官房 庶務課 第三六一號

昭和三年十月一日

宮内大臣 一木喜徳郎印

内務大臣 望月圭介殿

通牒

地方行幸啓ノ節行在所御泊所ニ於テ 天機奉伺又ハ御機嫌奉伺ヲ爲シ得ヘキ資格及其ノ服裝別紙ノ通改定致候

追テ各地方長官ヘハ貴大臣ヨリ御通達相成候様致度

地方行幸啓ノ節行在所御泊所ニ於テ 天機奉伺又ハ御機嫌奉伺ヲ爲シ得ヘキ資格及其ノ服裝左ノ通定ム

第一、行在所御泊所ニ於テ 天機奉伺又ハ御機嫌奉伺ヲ爲シ得ヘキ資格

一、宮中席次ヲ有スル者

二、神佛各宗派管長

三、門跡寺院及御由緒寺院ノ住職

四、學位ヲ有スル者

五、行在所若ハ御泊所所在ノ道府縣又ハ特別大演習御施行ノ道府

縣ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者

- (イ) 道府縣會議長、副議長、議員
- (ロ) 市長、市參事、助役局長(局長ニ相當スル部長ヲ含ム)
- (ハ) 市會議長、副議長、議員
- (ニ) 市制第六條ノ市ノ區長、區會議長
- (ホ) 地方森林會議員
- (ヘ) 法令ノ定ムル各種委員會ノ委員
- (ト) 官衙長
- (チ) 町村長
- (リ) 市町村組合長及町村組合長
- (ヌ) 官立私立學校長
- (ル) 商工會議所會頭、副會頭、議員
- (ヲ) 道府縣市町村農會會長
- (ワ) 道府縣市町村教育會會長
- (カ) 道府縣市町村青年團及處女會ノ長
- (ヨ) 道府縣市町村在郷軍人分會會長
- (タ) 消防組頭
- (レ) 府縣社及郷社ノ社司
- (ツ) 道府縣立感化院長
- (フ) 水産會會長、山林會會長、重要物産同業組合會會長、畜産組合聯合會會長、漁業組合聯合會會長及茶葉組合聯合會議所會頭
- (ネ) 辯護士會會長
- (ナ) 道府縣市醫師會會長、同商科醫師會會長、同藥劑師會會長
- (ラ) 宮内大臣ヨリ選擧セラレタル社會事業功勞者
- (ム) 内務大臣ヨリ選擧セラレタル市町村吏員
- (ウ) 宮内大臣又ハ主務大臣ヨリ獎勵金又ハ助成金ヲ下附セラレタル社會事業團體ノ代表者

(キ) 産業組合中央會ヨリ特別表彰ニ係ル産業功勞者

(ク) 褒章受領者

(オ) 内務大臣ヨリ警察官吏及消防官吏功勞章ヲ付與セラレタル者

(カ) 内務大臣ヨリ選擧セラレタル地方改良功勞者及衛生功勞者(團體ヲキトキハ其ノ代表者)

(キ) 文部大臣ヨリ選擧セラレタル學校職員及教育功勞者

(マ) 主務大臣ヨリ選擧セラレタル實業功勞者

六、行在所又ハ御泊所所在道府縣又ハ特別大演習御施行ノ道府縣ニ於ケル名望家又ハ各種功勞者ニシテ當該道長官又ハ府縣知事ノ推擧ニ係ル者

七、行在所又ハ御泊所所在地ノ市町村ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者

(イ) 村社ノ上席社掌

(ロ) 町村ノ助役

(ハ) 市町組合及町村組合ノ助役

(ニ) 町村會議員

(ホ) 市制第六條ノ市ノ區會議員

(ヘ) 市町村及町村組合會議員

(ト) 衛生組合長

八、宮中席次第三階以上ノ者ノ夫人

九、供奉長官ノ特ニ銓衡シタル者

第二、天機奉伺又ハ御機嫌奉伺ノ爲行在所又ハ御泊所ニ參入スル者ノ服裝ハ通常服(フロックコートウイジテ イングドレス又ハ袴袴) 服制アル者ハ之ニ相當スル制服、神佛各宗派ノ管長及住職ハ之ニ相當スル服トス

昭和三十五年十月九日

但シモーニングコート、黒絨付羽織袴白襟紋付又ハ之ニ相當スル僧服ニテモ妨ナシ

丙第五九六號

昭和五年六月二十四日

内務大臣秘書官

兵庫縣知事殿

通牒

天機竝御機嫌奉伺又ハ御禮ノ爲記帳スル場合ノ服裝ニ關シ別紙ノ通り式部長官ヨリ通知有之候條及通牒候也

(寫)

式部送第九八一號

昭和五年六月二十日

式部長官男爵 林 權 助

内務大臣 安 達 謙 藏 殿

左記ノ場合男子ハ「モーニングコート シルクハット」女子ハ白襟紋付(縫紋ヲ除ク)ヲ以テ何レモ通常服ニ代用ノ儀差許サレ候條及御通知候

記

一、天機竝御機嫌奉伺ノ爲記帳スル場合

一、任官叙位叙勳賜物等ノ御禮ノ爲記帳スル場合

2、通牒

昭和五年十月九日

(左記各官公署等宛)

本月二十五日午後三時ヨリ同九時迄神戸税關内ニ「天機奉伺者參候所」開設可設相成候處參候者ハ同所備付ノ天機奉伺者名簿ニ其ノ資格及氏名ヲ記帳スルコトト相成居候尙 天機奉伺ヲ爲シ得ヘキ資根及其ノ服裝ハ別紙其ノ筋ノ通牒ノ次第二依ルヘキモノニ有之候條此段申進候也

追テ參候者ハ其ノ資格ヲ肩書シタル名刺ヲ受付ニ差出候様致度尙自動車使用ノ向ハ左記通路ニ依リ税關構内ニ出入相成候様致度尙御關係ノ向ニ本件御周知方可然通取計相煩度申添候

記

入口 税關京橋通路、税關小野濱通路(税關本廳前入口)

出口 税關第一波止場東通路(神戸クラブ南側入口)

(各國領事館、第十師團司令部、歩兵第八旅團司令部、歩兵第三十九聯隊、騎兵第十聯隊、野砲兵第十聯隊、輜重兵第十大隊、姫路聯隊區司令部、姫路憲兵隊本部、歩兵第七十聯隊、神戸聯隊區司令部、神戸憲兵分隊、由良要塞司令部、陸軍運輸部神戸出張所、内務省神戸土木出張所、大阪地方專賣局神戸出張所、臺灣總督府專賣局神戸支局、神戸税關、神戸稅務署、神戸地方裁判所、神戸地方裁判所檢察局、縣下各區裁判所及同檢事局、神戸戶務所、神戸商業大學、姫路高等學校、神戸高等商船學校、海洋氣象臺、花菱検査所、營繕管財局神戸出張所、大阪逓信局

海軍部神戸出張所、神戸中央郵便局、神戸中央電話局、神戸鐵道郵便局、鐵道省神戸改良事務所、神戸驛、三宮驛、兵庫驛、移民收容所、神戸營林署、陸軍航空本部神戸検査班、和田岬燈臺、神戸輸出絹織物検査所、鐵道省鷹取工場、大阪逓信局神戸電信電話技術官駐在所、三宮郵便局、兵庫郵便局、縣下各官國幣社、各商工會議所、各縣立學校、各私立學校、神戸高等工業學校、姫路少年刑務所)

(官製ハガキ印刷)

昭和五年十月九日

兵庫縣大演習觀艦式事務委員部

庶務部長

(追書括弧内記載ノ者)宛

十月二十五日午後三時ヨリ同九時迄神戸税關内ニ「天機奉伺者參候所」開設相成參候者ハ同所備付ノ天機奉伺者名簿ニ其ノ資格及氏名ヲ記帳スルコトト相成居候條此段申進候也

追テ參候ノ節ハ、(貴族院議員)(衆議院議員)(兵庫縣會議長)(兵庫縣副議長)(兵庫縣會議員)(縣社何々神社社司)(郷社何々神社社司)(兵庫縣地方森林會議員但シ官(更ニシテ議員タルモノハ除ク)(兵庫縣水產會議長)(兵庫縣山林會議長)(兵庫縣畜産組合聯合會長)(兵庫縣醫師會會長)(兵庫縣齒科醫師會會長)(兵庫縣藥劑師會會長)(兵庫縣教育會會長)(神戸辯護士會會長)(兵庫縣農會會長)(兵庫縣織物同業組合聯合會長)(日本麥稈真田同業組合聯合會長)(兵庫縣養蠶同

入口 税關京橋通路、税關小野濱通路(税關本廳前入口)  
出口 税關第一波止場東通路(神戸クラブ南側入口)

3、新聞發表

天機奉伺者參候所開設ニ關スル資料ヲ接件部新聞記者係長ニ送付シテ十月九日ノ朝刊ニ可成詳細登載スル機取計ラヒタリ

尙モ一ニングコート着用ノ場合帽子ニハ制限ヲ附セスシテ可ナリヤ否ヤニ關シ聊カ疑義アリシヲ以テ左記(甲)ノ通行幸主務官ニ電照シ(乙)ノ通回答アリシヲ以テ(丙)ノ通夫々通知並發表セリ

(甲)

(十月十六日武宮行幸主務官宛電報照會)來ル二十五日神戸税關ニ設ケラルヘキ 天機奉伺者名簿ニ記帳スル者ガ(モ一ニングコート)ヲ着用スル場合ハ昭和三年御大典ノ御砌地方鑿鑿者ノ服裝ニ準シ帽子ニハ制限ヲ附セスシテ差支ナキヤ折返シ御回答ヲ乞フ

兵庫縣知事

(乙)

(十月十七日知事宛電報回答)

武宮宮内書記官

(丙)

兵觀艦第一三三號 (縣報登載)

業聯合組合會長)ノ如ク 天機奉伺ノ資格ヲ肩書シタル名刺ヲ受附ニ御差出相成候様致度尙服裝ハ通常服(フロックコート)(但シモ一ニングコート、シルクハット、黒紋付羽織袴代用差支無之)有之自動車御使用ノ場合ハ左記通路ニ依リ税關構内ニ御出入相成候様致度申添候

記

入口 税關京橋通路、税關小野濱通路(税關本廳前入口)

出口 税關第一波止場東通路(神戸クラブ南側入口)

昭和五年十月九日

拜 謁 係 長

各 課 長 宛

天機奉伺ニ關スル件

本月二十五日午後三時ヨリ同九時迄神戸税關内ニ「天機奉伺者參候所」開設可相成候處參候者ハ同所備付天機奉伺者名簿ニ其ノ資格及氏名ヲ記帳スルコトト相成居候尙天機奉伺ヲ爲シ得ヘキ資格及其ノ服裝ハ別紙其ノ筋ノ通牒ノ通ニ有之候條右ニ依リ委細御了知ノ上貴課員有資格者ニ周知方可然御取計相煩度

追テ參候者ハ其ノ資格ヲ肩書シタル名刺ヲ受附ニ差出候様致度自動車使用ノ向ハ左記通路ニ依リ税關構内ニ出入相成候様致度尙又本件貴課所屬各廟ニ周知方可然御取計相成度申添候

記



昭和五年十月二十一日

兵庫縣大演習觀艦式事務委員會

各市町村長宛

庶務部長

天機奉伺ニ關スル件通牒

本月九日附兵觀第八七號ヲ以テ及通牒候來ル本月二十五日神戸稅關内ニ設ケラルヘキ天機奉伺者名簿ニ記載スル者「モーニングコート」ヲ着用スル場合ハ帽子ニハ制限ヲ附セサルコトニ相成候條此ノ旨貴部内有資格者ニ周知方可能御取計相成度

昭和五年十月二十一日

兵庫縣

新聞ニ發表ノ件

(十月九日附通知狀ヲ發シタル)(各官公署等宛)  
本月二十五日神戸稅關内ニ設ケラルヘキ天機奉伺者名簿ニ記載スル者「モーニングコート」ヲ着用スル場合ハ帽子ニハ制限ヲ附セサルコトニ相成候條此段爲念申進候也

昭和五年十月二十一日 (官製ハガキニ印刷)

兵庫縣大演習觀艦式事務委員會

庶務部長

(十月九日附通知狀ヲ發シタル)者宛  
本月二十五日神戸稅關内ニ設ケラルヘキ天機奉伺者名簿ニ記載スル者

八〇

ノ節「モーニングコート」着用ノ場合ハ帽子ニハ制限ヲ附セサルコトニ相成候條此段爲念申進候也

昭和五年十月二十一日

拜謁係長

各課長宛

天機奉伺ニ關スル件

來ル本月二十五日神戸稅關内ニ設ケラルヘキ天機奉伺者名簿ニ記載スル者「モーニングコート」ヲ着用スル場合ハ帽子ニハ制限ヲ附セサルコトニ相成候條此段爲念申進候也

兵觀艦第一三三號ノ寫ヲ接件部新聞記者係長ニ送付シ十月二十一日ノ朝刊ニ登載スル様取計ラヒタリ  
第五、天機奉伺者名簿調製  
奉伺有資格者ノ範圍廣汎ニシテ且無資格者ノ奉伺ヲモ拒絶セサルヲ以テ奉伺者ノ數ヲ邦人三千人外國人三百人以上ト想定シ名簿ハ邦人記載用トシテハ三十冊調製(奉書ニツ折十枚水引綴ノモノ)  
外國人記載用トシテハ六冊調製(西洋紙「W.T.ケント」美濃紙半切十枚白リボン横綴ノモノ)シ表紙ニ邦人記載用ノモノト同様ニ  
〔昭和五年十月二十五日 天機奉伺者名簿一ト記載セリ〕

第六、設備

天機奉伺者名簿記載用卓子其ノ他ハ計畫概要ノ通り主トシテ稅關備品ヲ用キシモ其ノ主ナル事項ヲ摘録スレバ左ノ如シ

一、提灯ハ兩側ニ日ノ丸ヲ描ケル新調ノモノト爲シタリ

一、「天機奉伺者參候所」ノ標札ハ長サ六尺巾二尺ノ寒冷紗木製梓付ニシテ正門ノ石柱ニ吊ルスコトトス

一、正面ノ門ヨリ中階段上ノ門扉迄ノ間ニ出入口ヲ割スル爲ニ二寸角長サ十四尺ノ横木ニ高サ三尺ノ撞木向木ヲ嵌込ミ紅白ノ天竺木綿ヲ以テ捲立テタル通路區劃材ヲ設備スルコトトス

一、名簿記載用卓子ハ巾、二・六呎長サ六呎ノモノヲ三臺〔形ニ設備スルコトトス

一、名簿ハ邦人記載用ノモノ五冊

(右側ニ夫々硯、筆、紅花墨各一個ヲ附ス)

外國人記載用ノモノ一冊(右側ニGペン附黒塗ペン軸「硝子製ノペン置皿上ニ載ス」白色ノ吸取紙ヲ有スル黒塗吸取紙挾硝子製インク瓶各一個ヲ附ス)

一、金屏風ハ本廳備品ヲ一枚立ツルコトトス

一、盆栽ハ神戸市山本通三丁目草樂園ヨリ眞柏(高サ一尺見當)丸鉢ノモノヲ二鉢借入ルルコトトス

一、照明設備トシテハ玄關内圓柱ニ取付ケアル電燈八個及其ノ外方天井ノ電燈四個並ニ中階段天井ノ電燈ノ電球ヲ執レモ強力ノモノニ取替ヘテ電氣スタンドノ使用ヲ廢シ玄關車寄上ニ電燈二

個ヲ新設スル外正門附近ニ新ニ電燈ヲ取付ケテ參候者ノ通行ノ便ヲ計ルコトトセシガ之ニ要スル電力ハ全部稅關ニ於テ負擔シ

電燈、電線等借入費トシテ本縣ニ於テ金百圓ヲ負擔シ工事ハ稅關ニ於テ監督實施スルコトトセリ

第七、名簿ノ取扱方及救護班等ノ設備

1、名簿ノ取扱方

名簿ハ參候所閉鎖後直ニ警務部衛生係ニ於テ消毒ヲ行フコトトシ御召艦ニ運ブ爲ニ封筒及白金巾ヲ用意スルコトトセリ封筒ハ當日記載ヲ了シタル名簿ノ冊數ニ依リ豫メ數箇用意シ用紙厚模造紙ニシテ其ノ表面ニ

武宮行幸主務官殿

兵庫縣知事 高橋守雄

(天機奉伺者名簿在中)

ト記載シ置クコトトセリ

2、救護班其ノ他

當日警務部衛生係ニ於テ稅關廳舍内ニ救護班ヲ派遣スルコトトセリ

其ノ組織醫師一名看護婦二名事務員二名

奉伺者休憩所ヲ稅關廳舍前ノ荷物檢査所ニ設ケルコトトス但シ格別ノ設備ヲ爲サス當日一應掃除シ同所備付ケノ長椅子ニ雜巾掛ケラナスノ程度ニ止ムルコトトス

第八 當日ノ模様並ニ經費等

一、午前八時係員神戸稅關ニ到リ人夫二名ヲ使役シテ設備ニ着手

八一

シ正午一切ヲ終了シタリ

救護班室ハ事務室ニ、係員控室ハ應接室ニ之ヲ設ケタリ

一、午後一時ヨリ午後二時四十分迄係員會合協議會ヲ開催事務打合セテナシタリ

一、午後三時參候所ヲ開キタリ

一、休憩所ニ於テ參候所ノ開始ヲ待合セ居リタル多數者一時ニ參候セシモ秩序整然トシテ嚴肅裡ニ順次記帳セリ而シテ午後六時ニ至リ記帳ノ順番ヲ待ツ者非常ニ多數ニ及ヒシヲ以テ最初ノ形ノ机ニ同形ノ机各一個ヲ増加シテ(ハ)形トシ携帶品置場用小卓ヲ左右トモ出入口ヲ割スルガ如クニ置換ヘ名簿ヲ四個増設セシガ一時間ニシテ參候者減少シタルニ付最初ノ配置ニ復セシメタリ

一、濱口内閣總理大臣等參候ノ趣通知アリシヲ以テ途中ニ於テ親任官記帳用名簿ヲ設ケタリ但シ名簿ハ他ノ一般ノモノト同様ノモノヲ用キタダ其ノ傍ニ「親任官」ト模造紙ノ小紙片ニ記載シタルモノヲ置キ他ノ者ヲシテ記帳セシメサルコトト爲シタリ

一、午後九時參候所ヲ閉鎖ス

一、參候者概數八百名ニシテ名簿ハ邦人記帳用ノモノヲ十二冊外國人記帳用ノモノヲ一冊使用セリ

一、名簿ハ豫テ用意セル封筒及之ヲ包ムヘキ白金巾ト共直ニ警務部衛生係ノ消毒ニ附シ午後十一時過封筒ニ納メタル上ヲバラ

ビン紙ニテ包ミ之ヲ白金巾ニテ包裝シ更ニバラビン紙ニテ包ミタルモノヲ衛生係ヨリ受取りシカ翌二十六日早朝植場官房主事御召艦ニ持參セリ

一、支出經費所要物品

人夫	七圓
消費品	二八圓二八錢
圖書及印刷費	二二圓七九錢
雜費	四二圓五〇錢
合計	一〇一圓五七錢

所要物品(備品ハ主トシテ在庫品ヲ使用セリ)

品名	數量	備考
帳幕	一筋	長サ六〇尺巾九尺紅白天笠木綿、借上
出入口通路	二本	二寸角長サ十四尺ノ横木ニ長サ三尺ノ横木四本ヲ嵌込ミ紅白ノ天笠木綿ヲ以テ捲立テタルモノ西側甲、借上
盆栽	二鉢	借上
天機奉伺者名簿	三〇冊	奉書ニツ折水引綴(邦人記帳用)
同	六冊	西洋紙美濃紙半切白リボン綴(外國人記帳用)
筆(中)	一〇本	本廳在庫品
ペン先(Gペン)	四本	同
模造紙	二枚	同
吸取紙	二枚	買入レ
墨	五本	同
墨金	二個	名刺受用、借上
同	五個	本廳在庫品

トシテ丹心熱誠誦書シタルハ國民至情ノ一端ノ顯ハレトモ謂フヘク洵ニ慶祝ニ堪ヘサル次第ナリ將來再ヒ本事務ヲ執行スルカ如キコトアラハ一人當リ平均所要時間十分ノ計算ヲ以テ諸設備ヲ爲スノ要アラン

### 第二款 夜景見物招待事務

特別大演習觀艦式ノ爲來縣ノ各地方長官各府縣書記官及本縣縣會議員ヲ十月二十五日夜ノ光景見物ノ爲、産業獎勵館樓上ニ招待スヘク併セテ之カ事務ハ本係ニ於テ擔任ノコトニ同月二十四日決定セラレシヲ以テ直ニ所要經費ノ要求其ノ他ノ計畫ヲ樹テタリ

第一、分掌

一、設備

(イ) 電燈天幕ノ設備

營繕係ニ於テ全部擔任

(ロ) 其ノ他

文書課屬	福井	又雄
同	高谷	至明
文書課屬	宮田	形次
同	吉田	正雄
同	江角	武朝
文書課給仕	谷川	證
(以下當日正午迄)		
統計課屬	守時	孝治郎

### 第九、餘錄

其ノ他係員控室用品適宜

一、本事務ノ執行ニ付終始神戸稅關各職員ヨリ多大ノ援助ヲ受ケタルコトハ感謝ニ堪ヘサル處ナリ

一、當日各參候者ノ記帳ニ豫想以上ノ時間ヲ要シ爲ニ一時ハ多數ノ者ノ順番待合セテ見ルノ己ムナキニ至リ且門外ニ溢レテ折柄ノ降雨ノ爲雨滴ニカ、ル者モアリタルカ參候者ハ孰レモ鞠躬如

電球	一六個	五〇〇ワット四個、一〇〇ワット二個
金屏風	一雙	本廳在庫品
名簿記用卓子	五脚	長サ六尺、巾二尺六寸、稅關備品借用
右卓子掛	五枚	青緞紗、稅關備品借用
提燈	二張	稅關備品借用
國旗	二張	同
雨具置臺	二脚	同
盆栽置臺	二脚	同
衝立	二個	同
受付用机	二脚	同
右卓子掛	二枚	同
携帶品置臺	二脚	同

### 第九、餘錄



昭和五年二十一日

兵庫縣知事 高橋守雄

- 一、二十四日エレベーターノ試運転ヲ爲シタリシガ至極良好ノ成績ヲ擧ケタリ
- 一、二十四日中天幕張り及電燈八個ノ取付ヲ了セシモ夜ニ入りテ試験的ニ點燈セシニ光力不足セルヲ以テ更ニ四個増設スルコトトセリ
- 一、二十五日早朝ヨリ設備ニ着手セシモ折悪シク降雨盛ニシテ風サヘ強ク吹キ爲ニ樓上ノ配置ヲ實行スル能ハス、午後一時過ニ至リテ漸ヤク細雨トナリ風力又衰ヘシヲ以テ一齊ニ配置ヲ了セリ
- 一、午後四時過ヨリ係員所定ノ位置ニ着ケリ
- 一、來賓多數來場、家族同伴ノ向モ多ク頗ル盛況ヲ呈シタリシカ午後十一時ニ至リテ閉場セリ
- 一、比較的貴重ナル物品ハ當夜夫々適當ノ箇所ニ格納シ置キテ二十七日全部返納其ノ他ノ手續ヲ爲セリ

第五、支出經費及所要物品

1、支出經費

人 夫 三六四五〇  
 消費品 八六  
 雜費 一六一、五一  
 合計 一九八、八七

2、所要物品

品名	數量	備考
煙草(數鳥)	三袋	買入レ
マツチ	三袋	同
茶	一二〇人分	ミカド食堂ニ一任
標	一本	長サ九尺、巾一尺五寸、模造紙張リ
卓子	二〇個	本廳在庫品
卓子	二〇枚	同
卓子受付用	四枚	同
土瓶	五個	同
湯呑	五〇個	同
盆	五個	同
灰皿	二〇個	同
煙草	三個	同
椅子	五〇脚	同
椅子	九九脚	産業獎勵備品
卓子	一二脚	同
麻裏草履	三〇足	ミカド食堂ヨリ借入レ
下足番用木札	五〇足分	議事堂ヨリ借入レ
押ピ	一〇〇個	本廳在庫品

第三節 献上品

第一款 事務計劃

第一 事務ノ打合及計劃

1、第一回事務打合會  
 昭和五年七月三日係長ハ各委員ヲ召集事務打合會ヲ開催ス

打合事項

- 一、献上品目ニ關スル件
- 二、献上品係豫算ニ關スル件
- 三、献上品係ノ事務ニ關スル件
- 四、傳獻品ニ關スル件

右打合ノ結果

- 一、献上品目  
 本縣ニ於ケル主ナル生産品、(代表的物産)特産品ヲ第一トシ季節ヲ考慮シ各係ニ於テ入念調査ノ上夫々専門的ニ觀察シ優秀ト認ムル品目ヲ擧ゲ更ニ打合會ヲ開催シ檢討スルコト
- 二、献上品係豫算  
 献上品目ノ決定後ニ非サレハ確定的數字ヲ計上シ得サルモ前年ノ實例及現況ニ鑑ミ適當ニ要求スルコト
- 三、献上品係ノ事務  
 觀艦式事務委員部處務規程ニ依ルハ勿論内部ノ事務ノ取扱、分掌、連絡等ニ關シテハ前年ノ例ニ依リ其ノ都度打合會ヲ開キ又ハ係長ヨリ指揮スルコト
- 四、傳獻品ノ取扱  
 一般ヨリノ傳獻品ニ關シテハ前年ノ例ニ依リ取扱フコト、シ此ノ際一般的通牒等ハ之ヲ見合スコト

2、第二回事務打合會

越ヘテ七月五日各係主任技師ヲ召集シ献上品目並ニ豫算ノ第二回事務打合會ヲ開催シタリ其ノ結果

一、献上品目

既ニ各委員候補者ニ於テ調査シタル品目ヲ議題トシ各自熱心ニ檢討ノ結果左ノ品目ヲ豫選スルヲ得タリ

1、農産品關係

(1) 蔬 菜

最近本縣ノ和洋蔬菜ハ著シク進歩シ其ノ年産額七百餘萬圓ニ達シ就中大量生産地勢カラス、此ノ和洋蔬菜十六種ヲ縣下各生産地ニ於テ選裁セシメタルモノ、中ヨリ本縣産ノ龍「副業生産品トシテ認メラル、モノ」ニ盛合セタルモノヲ選定スルコト

(2) 柿

丹波地方ニ産出スル五所柿ノ中ヨリ其ノ最優秀ナルモノヲ選定スルコト

(3) 栗

攝丹地方ニ栽培ノ栗ハ夙ニ名高キヲ以テ同地方特産ノモノ、中ヨリ精選シタルモノヲ選定スルコト

(4) 花 卉

本縣ノ花卉盆栽ハ夙ニ全國的ニ之ヲ認メラレ其ノ産額ニ於テ右翼ニ位スルノ状況ナルヲ以テ此ノ中ヨリ優良ナルモノヲ選定スルコト

ロ、林産品關係

松 茸

本縣ノ松茸ハ其ノ産額全國第一位ニ位シ其ノ品質亦佳良ナルモ特ニ

此ノ中ヨリ最優秀品ヲ選定スルコト

ハ、蠶糸業關係

羽二重(九重織)ハ出石郡ニ産シ年額五十萬圓ニ過キサルモ、其ノ品質ニ於テハ廣ク社會ヨリ稱贊セラレ、ノ狀況ナルヲ以テ之ヲ選ビ同郡縮緬同業組合ヲシテ特ニ選製セシムルコト

ニ、畜産品關係

本縣ニ於ケル毛織物ハ全國第二位ノ生産地トシテ名高ク其ノ年産額實ニ四千七百七十九萬七千餘圓ニ及フ此ノ中ヨリ特ニ精製シタルモノヲ選定スルコト

ホ、水産品關係

明石鯛ハ其ノ名ニ於テ將又買ニ於テ古クヨリ知ラレ量ニ於テモ年々十餘萬圓ニ達スルノ狀況ナルヲ以テ特産トシテ鮮鯛及内海産ノ蛤及伊勢蝦ヲ組合セタルモノヲ選定スルコト

ヘ、工業品關係

(1) 西洋家具 本縣ノ西洋家具ハ其ノ産額ニ於テ又廉價ニ於テ共ニ全國第一位ヲ占ムルモノニシテ本縣産ノ材料ヲ以テ優良工ニ製作セシメタルモノヲ選定スルコト

(2) 其ノ他

其ノ他工業品トシテ本縣ニ於ケル重要物産及特産品ハ清酒(年産約七十四萬石)綿織物(年産約四千三百三十五萬圓)製革(年産約四百五十八萬圓)皮革製品(年産約百三十五萬圓)肥料(年産約百九十九萬圓)

萬圓)精製砂糖(年産約三百二十萬圓)紙類(年産約二百四十五萬圓)素麵(年産約七百五十七萬圓)醬油(年産約六百五十四萬圓)メリヤス(年産約三百八十一萬圓)杞柳製品(年産約二百九十七萬圓)リノリウム(年産約二百五十萬圓)ゴム製品(年産約二百三十萬圓)タオル(年産約百七十九萬圓)五箇餅(年産約百七十萬圓)陶磁器(年産約百五十三萬圓)由多加織、赤穂織通、牛肉等妙カラサルニ付之等ヲ一表トシ上司ノ選拔上ニ便スルコト

ト、縣治一斑

最近ノ縣治ノ情勢ヲ淨書シ「縣治一斑」トシタルモノ

二、獻上品豫算

品目確定ノ上ニ要求スヘキモノナルモ大體品目毎ニ要求額ヲ調査スルコト、ス

第二豫算

昭和五年七月七日次ノ豫算要求ヲ爲ス

Table with 2 columns: Item Name (e.g., 獻上品費, 備品費, 消耗品費) and Amount (e.g., 二〇〇〇圓, 五〇圓, 一〇〇圓).

然ルニ査定ハ之ニ對シ更ニ各皇族宮殿下ニ對スル獻上品費一千圓ヲ増額シタル三千八百二十七圓ナリシカ昭和五年八月十八日臨時縣會ニ於テ議決セラタル決定豫算ハ次ノ通

款、觀禮式行幸諸費

項、觀禮式行幸諸費

Table with 2 columns: Item Name (e.g., 目、獻上品費, 獻上品費, 備品費) and Amount (e.g., 三六五〇圓, 二、八三〇圓, 五〇圓).

第二款 獻上品

第一、獻上品目ノ決定並ニ調達方法等

1、獻上品目ノ決定

- List of items and their procurement methods, including '羽二重(九重織)', '蔬菜盛合', '花', '鯛', '西洋家具', '外ニ宮殿下獻上品'.

棹、栗 (二十三三分)播丹地方ニ於テ調達

2、獻上品ノ調達

昭和五年八月二十日獻上品目ノ決定ニ基キ係長ハ各係委員ヲ召集シ獻上品調達ニ關スル打合會ヲ開催セリ

會議事項

- List of meeting items and decisions, including '一、獻上品目', '前記ノ通り', '一、同上數量', '洋服', '縣治一斑', '羽二重(九重織)', '蔬菜盛合', '花', '鯛', '西洋家具', '外宮殿下獻上品', '御成年以上男子ノ御方分', '御婦人及未成年ノ男子ノ御方分', '柿、栗', '一、調達先', '前記地方ニ於テ各係委員調査ノ上速ニ上司ニ經伺スルコト'.

一、調達方法

特定人ヲシテ調達セシムルノ方法ニ依ルモノナルヲ以テ之カ人選ニ關シテハ市町村長、市町村産業團體長等ト協議シ其ノ健康状態ハ勿論一般ノ身上ニ關シテ充分ノ注意ヲ拂フモノナルコト

一、調達時期

十月二十日迄ニ完了スルコト(工産品ハ十月十五日迄ニ可成完了セシムルコト)

一、購入豫定價格

前記豫算ノ通

一、其ノ他

前各號ニ依リ實施シ經過ヲ速ニ係長ニ報告シ處理上齟齬ナキヲ期スルコト

而シテ各係員ニ於テ夫々調査ノ結果調達方奉仕者ヲ豫選シ上司ノ決定ヲ見タルモノ左ノ如シ

一、蔬菜 (十六種)

玉	ち	さ	神戸市六甲八幡	今	北	榮	太郎
パ	ー	セ	リ	同	同	同	同
リ	ー	キ	神戸市須磨多井畑	中	野	福	三郎
燕	一	青	明石市上九	岡	本	保	治
人	參	武	東郡大庄村又平	西	谷	友	五郎
廿	日	大	根 川邊郡伊丹町	能	田	作	藏
廿	日	大	根 川邊郡伊丹町	山	村	平	藏
菘	菘	草	有馬郡八多村	辻	井	貞	七

甘	ト	ト	藍	有馬郡小野村	戸	出	篤三郎
ト	マ	ト	有馬郡小野村	戸	出	周	策
大	一	根	明石郡大久保村	吉	原	喜	一
リ	一	キ	明石郡伊川谷村	久	保	久	彌
玉	ち	さ	美濃郡志染村	岡	本	源	吉
コ	ル	ー	美濃郡志染村	田	中	貞	一
ル	パ	ー	美濃郡志染村	同	同	同	同
花	椰	菜	美濃郡淡河村	馬	勝	長	太郎
同	同	同	美濃郡奥百川村	光	齊	彦	治郎
セ	ル	リ	加東郡米田村	高	郷	長	治
甘	藍	藍	印南郡阿彌陀村	山	本	哲	夫
人	參	參	飾磨郡斐鹿町	植	原	菊	次
人	參	參	揖保郡綱干町	松	下	力	松
人	參	參	揖保郡新宮村	紫	島	龜	吉
胡	瓜	瓜	赤穂郡有年村	三	里	六	太郎
胡	瓜	瓜	赤穂郡有年村	宮	本	才	助
胡	瓜	瓜	赤穂郡有年村	松	井	政	助
胡	瓜	瓜	美方郡村岡町	安	藤	光	之助
莢	豌豆	豆	美方郡村岡町	西	村	藤	十郎
玉	ち	さ	ワヤヘッド、ニューヨーク				
リ	ー	キ	アメリカンフラック				

「パラベン紙」等ヲ以テ適當ニ包ミ更ニ棒ヲ以テ固定シ且各献上臺ニ添ヘ次ノ通獻納手續ヲ了セリ。

一、昭和五年十月二十二日高橋知事自ラ軍艦羽黒ノ艦上ニ於テ献上セルモノ

甘	ト	ト	藍	ナクセツション、野崎中生
大	根	美濃早生	トライアンフ、マツテレス	
ル	パ	ー	ビクトリア	
花	椰	菜	「マーリースノーボール」	
セ	ル	リ	「フアーストクローツ」	
薯	爪	中	ゴールデンセルフブランディング	
胡	瓜	臺灣毛馬		
莢	豌豆	四十日絹莢		
二、盆	栽	川邊郡長尾村	今里興一郎	
三、鮮	鯛	等	兵庫縣水産會	
四、西洋	家具	神戸西洋家具商組合		
五、縣	治	一斑	大丸神戸支店(内容ハ縣統計課ニ於テ作製シタルモノ)	

右ノ通決定シタル上夫々此ノ旨ヲ傳ヘ直ニ謹製ニ着手セシメタルニ何レモ熱誠之ニ從事シ豫定ノ期日ニ完全ニ調達シタルヲ以テ首尾克ク之ヲ獻納スルコトヲ得たり、而シテ奉仕者ハ何レモ(従業員悉皆)健康診斷ヲ經タルハ勿論製作ニ當リテハ常ニ齊戒沐浴衷心赤誠ヲ捧ケ以テ完成ヲ期シタル結果茲ニ至ラシメタルモノニシテ眞ニ感嘆スルノ外ナシ、尙關係市町村長、郡市町村農會會長等亦奉仕者ヲ督勵シ終始後援ノ勞ヲトリタルハ附記スヘキ事項トス

第二、献上物品ノ獻納  
献上品ハ所定ノ容器(籠又ハ白木ノ箱)ニ收メ、更ニ之ヲ逡送用外箱ニ入レ(箱ニ入レ難キ盆栽、蔬菜等ノ如キ物ハ豫メ「ペール」

献上品目録

兵庫縣治一班	一	冊
蔬菜盛合	二	籠
盆	一	鉢
鮮鯛、伊勢蝦、蛤	一	籠
洋服	三	箱
羽二重	一	箱
西洋家具	七	箱

一、昭和五年十月二十四日宮内省ニ鐵道便ヲ以テ送納シタルモノ

備考 献上品ヲ二様ニ奉納シタルハ宮内省ヨリノ指示ニ依リタル爲ナリ

各宮殿下ニ對スル献上品ハ左ノ如ク之ヲ取扱ヒタリ

一、御陪觀ノ宮殿下御宿所ニ於テ献上シタルモノ

(御成年以上ノ男子宮殿下ニハ洋服地一着分箱入一個、御女子宮殿下及御未成年宮殿下ニハ粟及柿一籠宛)

伏見宮博恭王殿下 寶塚ホテルニ於テ

同 妃殿下

伏見宮博義王殿下 甲子園ホテルニ於テ

同 妃殿下 大阪市住吉區住吉 醫學博士 加藤甚七

賀陽宮恒憲王殿下 方ニ於テ

久邇宮朝融王殿下 甲子園ホテルニ於テ

同 妃殿下 同

久邇宮多嘉王殿下 同

同 恭仁女王殿下 同

同 家彦王殿下 同

同 德彦王殿下 同

備考 一、右献上ハ何レモ接待部長又ハ同係長何候ノ上捧呈シ御

内示ニ依リ賀陽宮殿下ノ分ハ鐵道便ヲ以テ送付シ又久邇宮多嘉

王殿下ノ分ハ翌日京都ニ關係官持參奉納セリ

二、献上品ニハ簡單ナル説明書及目錄書ヲ添付セリ

第三款 傳 獻 品

第一、傳 獻 品

傳獻物品トシテ出願セルモノ、内探納セラレタルモノハ次ノ通ニ

シテ之カ奉納ハ縣ノ献上物品ト同時ニ同様ニ取扱ヒタリ

一、軍艦羽黒ニ於テ献上セルモノ

I、花 卉 一 籠

右献上愛國婦人會兵庫縣支部長 高 橋 雅

二、葡萄、メロン、洋梨 一 籠

備考 奉納ニ二様ノ取扱ヲ爲シタルハ何レモ宮内省ノ指示ニ依リ

タル爲ナリ

是等傳獻類出者ニ關シテハ豫メ宮内省ニ經何シ探納ノ内達ニ在ルト

共ニ直ニ其ノ旨ヲ通牒シ製作ニ付テハ縣ノ献上品調辨者ニ對スルト

毫モ異ルトコロナク健康診斷ハ勿論調製上ノ指導ハ遺憾ナキ時期シ

タリ、而シテ願出者何レモ誠心誠意克ク獻納ヲ完了シタルハ奇特ノ

行爲ト謂ハサルヘカラス

第二、御陪觀ノ宮妃殿下ヘ傳獻

愛國婦人會兵庫縣支部長高橋雅ヨリ御陪觀ノ各宮妃殿下ニ對シ丹

波栗一籠宛ノ傳獻品ハ前記御陪觀所ニ於テ縣ヨリノ献上品ト共ニ獻

納セリ

3、栗 及 松 茸 一 籠

右献上兵庫縣農會長 正七位勳六等功四級 山 脇 延 吉

4、五 所 柿

右献上氷上郡柏原町 正八位勳五等 田 艇 吉

二、宮内省ニ鐵道便ヲ以テ送納シタルモノ

リノリウム 二 卷

右献上東洋リノリウム株式會社 常務取締役 寺 西 福 吉

備考 奉納ニ二様ノ取扱ヲ爲シタルハ何レモ宮内省ノ指示ニ依リ

タル爲ナリ

是等傳獻類出者ニ關シテハ豫メ宮内省ニ經何シ探納ノ内達ニ在ルト

共ニ直ニ其ノ旨ヲ通牒シ製作ニ付テハ縣ノ献上品調辨者ニ對スルト

毫モ異ルトコロナク健康診斷ハ勿論調製上ノ指導ハ遺憾ナキ時期シ

タリ、而シテ願出者何レモ誠心誠意克ク獻納ヲ完了シタルハ奇特ノ

行爲ト謂ハサルヘカラス

第二、御陪觀ノ宮妃殿下ヘ傳獻

愛國婦人會兵庫縣支部長高橋雅ヨリ御陪觀ノ各宮妃殿下ニ對シ丹

波栗一籠宛ノ傳獻品ハ前記御陪觀所ニ於テ縣ヨリノ献上品ト共ニ獻

納セリ

第四節 賜 饌

第一款 計 劃

第一、事務分掌

1、事務ノ分割

擔任事務カ賜饌有資格者ノ調査、賜饌用御料理請負人ノ調査、

注文等主タル事務ノ外賜饌者ノ宿舍、車輛ノ斡旋等ニ岐ルル關

係上便宜係ヲ左ノ三部ニ分チタリ

而シテ賜饌者ハ陪觀者中ノ一部ノ有資格者ナルニヨリ陪觀係

ト密接ノ關係アルヲ以テ同係ト連絡ヲ保チ之カ事務ニ對シテハ

萬遺憾ナキヲ期シタリ

第一部 庶 務 經費 關 係 外部トノ交渉

第二部 名簿ノ作製 御召狀ノ發送 賜饌者ノ車輛、宿舍斡旋ニ關スル事項

第三部 料理請負人ノ選擇 食器ノ準備 軍艦上ニ於ケル設備

2、各委員ノ擔任事務

係ノ事務方針決定セシヲ以テ、七月十九日係員ノ事務分擔ヲ

定メ、夫々事務ヲ進ムルコトト爲シタリ。其ノ後委員ノ追加任

命等アリ期日ノ切迫スルニ從ヒ其ノ分掌ヲ細分シテ事務ノ周密

ヲ期スル所アリ、十月一日現在ニ於ケル事務分擔左ノ如シ

第一部 庶 務 係 長 古 賀 精 一

事務委員 安 井 庄 司

事務委員 片 山 平 三 郎

補助(單) 安 福 正 雄

同(町村長 會書記) 藤 原 照 雄

紙 谷 文 次

宇 野 梢 可

池 中 好 顯

池 田 藤 三 郎

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

須 磨 崎 春 治

神戸市書記ヲ記セルハ神戸市ニ於ケル事務委員部ノ宿舎係員ニシテ同係長タル同市水道課長關源三郎ト賜饌係長トノ協議ニ依リ應援ヲ受ケタルモノナリ

第二、經費豫算

賜饌係經費トシテハ觀艦式行幸諸費奉迎事務費中ニ編成セラレ、臨時縣會ニ於テ議決シ、庶務係ヨリ配當ヲ受ケタルモノ左記ノ通ナリ

消耗品費	五〇圓
通信運搬費	三〇四圓
印刷費	六八〇圓
自動車借上料	六〇圓
計	一〇九四圓

而シテ事務ノ實際ニ當リテハ右經費ノ外左ノ經費ヲ要シタリ

備品費	六圓
-----	----

尙右ノ外左記資格者ニ付調査方電話ニテ照會アリ各係員ハ夫々受持ヲ定メ、或ハ電話或ハ書面等ヲ以テ迅速的確ニ調査スル方法ヲ採リ、約千二百三十名ニ付其ノ資格位階動等ヲ調査シ回報シタル外、其ノ後ノ異動ニ付テハ其ノ都度報告ヲ爲シ萬全ヲ期シタリ。而シテ、觀艦式後賜饌ニ召サルヘキモノアル様ノ新聞記事ニ依リ元々何々ノ資格アリシ者、或ハ有位有動者ノ故ヲ以テ御召ニ預リ度旨書面又ハ電話ヲ以テ申出ツル者アル等事務繁忙ヲ極メタリ

記

- 一、大演習觀艦式事務關係ノ兵庫縣下ノ高等官、同待遇及兵庫縣下ノ市長、助役、高級吏員
- 一、兵庫縣下ニ在職スル高等官、同待遇者

第四、宿舎車輛幹旋準備

海軍當局ヨリ義ニ示アリタル賜饌ニ召サルヘキ有資格ニ依リ來縣宿泊セラルル向ハ相當多數アルヘキヲ豫想シタルヲ以テ、先ツ宿舎車輛ノ要否ヲ調査スルト共ニ、一方宿舎收容能力、設備内容等ノ調査ヲ要スルニ依リ係員ヲ六班ニ分チ神戸市内ニ於テ適當ト認メラルル旅館、ホテル等六十三ヲ選定シ別記調査票ニ依リ實地ニ付數日間ニ亘リ調査シタルニ既ニ直接申込アルニ依リ辭退スルモノ、或ハ不適當ノモノアル等調査ニ合格セシモノ四十二ナリキ。

前記宿舎車輛ノ要否ニ付テハ、左記書面ヲ以テ照會(海軍當局ニ於テ「參」「不參」ノ調査セラルル照會ト同時ニ發送ヲ乞ヒタリ)シタルニ其ノ回答一日五通乃至二、三十通ニシテ日々名簿ニ登載整理

九四  
六九圓  
一〇圓  
八五圓

第三、有資格者ノ調査

賜饌ニ召サルヘキモノノ調査ニ付テハ左記ノ如キ照會ニ依リ陪觀係ト共ニ各關係ノ向ニ付照會シ調査回報シタリ

大演習第一八錢

昭和五年七月二十八日

昭和五年大演習觀艦式事務委員長

兵庫縣知事殿

觀艦式ニ關スル件照會

左記資格者ハ觀艦式陪觀差許サレ尙觀艦式御親閱後賜饌ニ召サセラルヘク内定候ニ付テハ準備ノ都合アリ住所氏名成ル可ク至急御回報ヲ得度

追テ異動有之候節ハ其ノ都度直ニ御通報相成様致度

記

- 一、貴縣會議長、同副議長、縣會議員
- 二、神戸市會議長、同副議長、市會議員
- 三、兵庫縣下ニ在住スル黃綬褒章受領者
- 四、兵庫縣下ニ駐劄スル外國領事
- 五、兵庫縣ニ在住スル名望家尙出來得レハ其ノ職業共

ニ忙殺サレタリ。

神戸沖ニ於ケル特別大演習觀艦式御參列ノ節宿舎等御希望ノ向ハ別紙端書ニ所要事項御記入ノ上來ル九月十日迄ニ御申込相成候様致度

昭和五年八月二十五日

兵庫縣廳

觀艦式陪觀諸官殿

(添付シタル端書)

表

兵庫縣廳内	賜饌係御中
-------	-------

裏

自動車	要否	自	官	氏	名
宿舎(但シ神戸市及市附近)	併式	官	氏	名	
神戸市差豫定日	隨行員ノ有無	現住所	氏	名	
凡ソノ滞在期間	自十月	氏	名		
其ノ他ノ希望條件	至十月	氏	名		
	日	氏	名		
	日間	氏	名		



第五、御料理及飲料請負人ノ決定

賜饗其ノ他御饗宴御料理下命ノ適任者選定ニ付テハ最モ慎重ヲ要スルハ勿論、嚴選ノ必要アリ、依ツテ縣廳、神戸市及神戸商工會議所ノ三者ヨリ適任ナリト認ムル者ヲ撰定シ意見ノ一致シタルモノニ對シ其ノ資力、經歷等其ノ他必要ナル事項ニ付情報係ニ調査ヲ囑託シ之ヲ參考トシテ海軍委員長ニ推薦シタルニ左記ノ如ク決定シタリ

1、賜饗料理請負人(三名)

神戸市海埠通七番	オリエンタルホテル株式会社
神戸市明石町三二	中央亭株式会社
神戸市仲町三八「十五」ビル地下室	太陽軒

2、海軍大臣招待午餐用料理請負人(二名)

神戸市下山手通四丁目	みかど食堂
神戸市海埠通一丁目一六	株式會社 昭和軒

3、海軍大臣招待拜觀者用料理請負人(五名)

神戸市花隈町一四	魚膳 濱田善太郎
神戸市元町一丁目三五	穴門亭 古山末吉
神戸市福原町四七一	萬壽 上林壽次郎

4、飲料ノ決定

料理請負人ノ選定ト同時ニ飲料ノ請負人ニ付テモ料理同様ノ方針ヲ探リ、且ツ出來得ル限リ優良縣産品ノ御使用ヲ願フ意味ニ於テ調査推薦シタルニ清酒ニ在リテハ左記ノ如ク請負人ヨリ提出スルコトトシ他ノ飲料ニ付テハ料理請負人ヨリ差出スコトト爲シタリ

イ、清酒

酒名	住所	請負人
白鹿	西宮市	辰馬本家酒造株式会社
菊正宗	御影町	株式會本嘉納商店
櫻正宗	魚崎町	山邑酒造株式会社
日本盛	西宮市	西宮酒造株式会社
白鶴	御影町	嘉納合名會社
白雪	西宮市	小西新兵衛
忠勇	神戸市西郷町	若林合名會社
富久娘	同	花木三二郎
東自慢	今津町	本辰酒造株式会社
澤ノ鶴	神戸市西郷町	石崎株式會社
大關	今津町	長部文治郎
白鹿	西宮市	辰馬悅藏商店

神戸市北長狭通六丁目一六  
天清 上田清一郎  
神戸市平野上三條一一五  
金佐樓 秋田萬吉

第六、御料理献立ノ數量決定

種目	住所	商號
朝日ビール	東京府花原郡目黒村大字三田	大日本麥酒株式会社
キリンビール	横浜市山手町一二三	麒麟麥酒株式会社
ユニオンビール	東京府京橋區銀座一ノ九	日本麥酒鐵泉株式会社
三ツ矢平野水	同	同
ダイヤモンドレモン	神戸市西町三四	株式會社布引鐵泉所
リボンシトロロン	東京府花原郡目黒村大字三田	大日本麥酒株式会社

第六、御料理献立ノ數量決定

前項ノ如ク、御料理請負人決定シタルニ依リ献立ト見本ヲ提出セシムルコトトシ九月九日左記諸官來縣見本品ニ付慎重調査ノ結果献立ノ如ク決定シタリ

來縣ノ諸官

黒田侍從、住山侍從武官、武宮宮内書記官、來次主膳監、金崎宮内屬、新田宮内屬、關田海軍中佐、古川主計少佐、菊川海軍大佐、養輪海軍中佐

決定シタル献立

- 1、賜饗用献立
- 一、オリブス ラデツシユ
  - 一、マス ショウフロア
  - 一、ハム マルネー
  - 一、ガラン パテー
  - 一、チキン
  - 一、ビーフ サローイン

2、海軍大臣午餐用

- 一、ナラド ルース
- 一、ケーキ
- 一、ロール
- 一、フルーツ
- 一、鮮魚冷製
- 一、牛脊肉蒸焼
- 一、若鶏蒸焼冷製
- 一、豚腿燻製
- 一、挽肉燻詰
- 一、生菓
- 一、果物
- 一、ケーキ
- 一、パン

3、海軍大臣招待拜觀者用

右料理ニ付テハ九月十日各請負人ヨリ献立及見本品ヲ提出セシメ養輪海軍中佐、吉川海軍主計少佐其ノ内容ニ付精査ノ上左ノ通り決定シタリ

献立

- 二重折箱
- 口取
  - 羊羹
  - ふくき玉子
  - 三色蒲鉾

栗甘煮 (三ヶ)

燒物

はじかみ

酢物

運板根

生板卷

焚合瓜

かしわ (青串ざし)

松茸

水物

下物

白飯 (幕ノ内)

香物

以上

而シテ調進スヘキ数量ニ付テハ、献立決定ノ際概數ヲ示シタルモ其ノ後左ノ通知ニ基キ決定シタリ

大演觀經第二六號

昭和五年十月十四日

海軍省經理局

吉川大演習觀經式事務委員

兵庫縣御中

賜饌料數等の件通知

觀經式賜饌及大臣招待者料理等別表ノ通決定相成候條準備進メラルル様各請負人へ夫々御通達方御取計ヲ得度

御賜饌料數並請負人持込時刻表

一、霧島 納人オリエンタルホテル株式会社

御賜饌料理	五〇〇人
日本酒(二合入)蓋共	五〇〇本
朝日	八三
ビール	八三
ユニオン	八三
三ツ矢平野水	八三
ダイモンドレモン	八三
リボンシトロン	八三
盛	五〇〇個
花	二五〇個
計	二四九本
三ツ矢平野水	八三
ダイモンドレモン	八三
リボンシトロン	八三
盛	五〇〇個
花	二五〇個
計	二四九本
三ツ矢平野水	八三
ダイモンドレモン	八三
リボンシトロン	八三
盛	五〇〇個
花	二五〇個
計	二四九本

十月二十五日午後二時三十分  
東神橋橋東側上陸場ニテ仲丸積込

二、足柄 納人 中央亭株式会社

御賜饌料理	七五〇人
日本酒(二合入)	七五〇本
朝日	二二五
ビール	二二五
ユニオン	二二五
三ツ矢平野水	二二五
ダイモンドレモン	二二五
リボンシトロン	二二五
盛	七五〇個
花	三七〇個
計	二五〇〇本
三ツ矢平野水	二二五
ダイモンドレモン	二二五
リボンシトロン	二二五
盛	七五〇個
花	三七〇個
計	二五〇〇本

十月二十五日午後二時三十分  
税關第一突堤繋留本館へ持込

三、妙高 納人 中央亭株式会社

御賜饌料理	七五〇人
日本酒(二合入)	七五〇本
朝日	二二五
ビール	二二五
ユニオン	二二五
三ツ矢平野水	二二五
ダイモンドレモン	二二五
リボンシトロン	二二五
盛	七五〇個
花	三七〇個
計	二五〇〇本

十月二十五日午後二時三十分  
税關第二突堤繋留本館へ持込

四、赤城 納人 オリエンタルホテル株式会社

御賜饌料理	一、三〇〇人
日本酒(二合入)	一、三〇〇本
朝日	二二六
ビール	二二六
ユニオン	二二六
三ツ矢平野水	二二六
ダイモンドレモン	二二六
リボンシトロン	二二六
盛	一、三〇〇個
花	六五〇個
計	二、九五〇本

十月二十五日午後二時三十分  
東神橋橋東側上陸場

五、赤城 納人 太陽軒

一、那智 納人 ミカド食堂株式会社

御賜饌料理	四、八〇〇人
日本酒(二合入)	四、八〇〇本
朝日	七九九
ビール	七九九
ユニオン	七九九
三ツ矢平野水	七九九
ダイモンドレモン	七九九
リボンシトロン	七九九
盛	四、八〇〇個
花	二二九個
計	一〇、〇〇〇本

大臣招待料理數並請負人持込時刻表

十月二十五日午後二時三十分  
東神橋橋東側上陸場ニテ  
生田丸 積込  
長田丸 積込

七五〇人  
二五〇本  
九九

右十月二十五日午後二時三十分東神橋橋東側上陸場にて遠矢丸ニ

積込

四、加賀 納人 オリエンタルホテル株式会社

辨	當	一〇〇人
日本酒(四合入)		三三本
三ツ矢平野水		一六
ダイヤモンドレモン		一六
リボンシトロン		一六
盃		一〇〇個
コ	ブ	一〇〇個
盛	花	五個

右十月二十五日午後二時三十分東神橋橋東側上陸場にて生田丸ニ

積込

合計

辨	當	二、〇二〇人
日本酒		六七三本
三ツ矢平野水		三三六
ダイヤモンドレモン		三三六
リボンシトロン		三三六
盃		二、〇二〇個
コ	ブ	二、〇二〇個
盛	花	一〇〇個

第七、料理請負人ニ對スル注意事項等

料理ノ調理ニ付テハ最モ注意ヲ要スル所ナルヲ以テ、調理場ハ勿論其ノ取扱者ノ身元、健康狀態等ノ調査ヲ爲ス爲、各店主ヲシテ住

二、羽黒 納人 ミカド食堂株式会社

辨	當	七五〇人
日本酒(四合入)		二五〇本
三ツ矢平野水		一二五
ダイヤモンドレモン		一二五
リボンシトロン		一二五
盃		七五〇個
コ	ブ	七五〇個
盛	花	三七個

右十月二十五日午後四時税關第二突堤繫留本艦へ

三、長門 納人 昭 和 軒

辨	當	四二〇人
日本酒(四合入)		一四〇本
三ツ矢平野水		七〇
ダイヤモンドレモン		七〇
リボンシトロン		七〇
盃		四二〇個
コ	ブ	四二〇個
盛	花	二一四

所氏名年齢ヲ報告セシメ、之ヲ警務部情報係及衛生係ニ通知シテ或ハ身元調査或ハ健康診斷ヲ爲スノ外、係員ハ調理場ノ視察ヲ爲シ、又海軍省ヨリ神立軍醫少佐ノ出張ニ依リ各店ノ衛生狀態ノ視察アル等十月六日ニハ各店主ヲ招集シ左記印刷物ヲ交付シテ衛生係員ト共ニ特ニ注意ヲ爲ス等萬全ヲ期セシメタリ。

和洋料理仕出人ニ對スル衛生上ノ注意事項

- 一、鑑ニ届出タル氏名ノ外更ニ追加セントスル調理人、取扱人、給仕人等ノ氏名年齢及ヒ業別ヲ十月十日迄ニ届出スルコト  
前項届出後異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度前項ニ準シ速カニ届出スルコト
- 二、十月十五日ヲ期シ鑑ニ届出タル者及ヒ前號第二項ノ者ニ對シ漏レナク保菌検査ヲ行フニ付キ同日午前十時迄ニ各人ノ糞便ヲ少量ツ、「燐寸」空箱ニ入レ氏名年齢ヲ記シ縣衛生課細菌室ニ送致スルコト
- 三、料理人其ノ他料理ニ關係アル者ノ嚴守スヘキ事項概ネ左ノ如シ  
1、料理場ハ予メ清掃シ爾後清潔ヲ保持スルコト  
2、料理其ノ他取扱ニ着手前手指ヲ石鹼ニテ清洗スルコト  
3、關係人ハ白布製其ノ他ノ料理服ヲ被フコト  
4、身體ニ異狀ヲ覺ヘタルトキハ直ニ業務ヲ中止シ其ノ旨縣衛生課ニ届出スルコト
- 四、料理ニ關シ嚴守スヘキ事項概ネ左ノ如シ

昭和五年十月

- 1、原料ヲ精製シ決シテ誤リヲ生セサル様注意スルコト
- 2、生煮生焼ナキ様充分煮熟スルコト
- 3、料理ノ腐敗セサル様調理後配膳迄ノ時間ヲ考慮シ且ツ暖キモノノ積ミ重ネニ依リ腐敗セサル様注意スルコト
- 4、生ニテ其ノ儘食スルモノハ反覆可啞ニ清洗スルコト
- 5、食器類ハ熱湯又ハ熱蒸氣ニテ充分清洗消毒シ爾後モ汚染セサル様取扱ニ注意スルコト

又飲料中清酒ニ在リテハ陶器製盃ヲ提出セシムル事トセルニ依リ清酒及盃ヲ一定ノ場所ニ之ヲ集メ海軍委員、賜饌係員、衛生係員立會ノ上荷造ニ先タチ之カ消毒ヲ爲シタリ  
次テ式日ノ切迫スルニ際シ搬入ノ方法等其ノ他細部ニ付指示セムカ爲、十月二十一日各料理店主及酒造組合役員ヲ縣ニ招集吉川海軍主計少佐及係長ヨリ各般ニ付示達シタリ。

第二款 實 施

第一、宿舍並車輛

神戸市内ニ於ケル宿舍ニ付テハ、調査票ニ依リ其ノ收容力等調査シタルヲ以テ各參列諸官ヨリノ申込ニ依リ宿舍ヲ定メムトシタルモ市内ノ旅館ホテルニテハ之ヲ收容シ得サルニ依リ、更ニ郊外適地即チ舞子、寶塚方面、甲子園或ハ六甲等ノ調査ヲ爲シ漸ク收容シ得ル見

込立チタルニ付左ノ通り宿舍割ヲ爲シタリ

宿舍割當表省略

宿舍ノ割當ト同時ニ陪觀諸官及宿舍主ニ對シテハ左ノ書面ヲ發送シテ通知スル所アリ、又衛生係ニ對シテ宿舍名簿ヲ送付シテ主ナル宿舍及附近ノ衛生状態健康診斷等ヲ爲シタリ。其ノ後宿舍ノ取消、申込等書面又ハ電報電話ヲ以テ申出ノ向アリ之等ニ付テハ即刻宿舍主ニ通知シ聊ノ齟齬ヲ來ササルコトニ努メタリ

昭和五年十月十三日

兵庫縣廳内 賜 饌 係

觀艦式陪觀諸官宛

特別大演習觀艦式御參列ノ際ニ於ケル宿舍等ニ關シ義ニ御申込相成候ニ付テハ左記ノ通決定置致候間御了承ノ上萬一御宿泊御取止ノ向ハ至急御通報相煩度此段御通知勞得貴意候  
追テ神戸着御豫定及自動車ノ幹旋方等ニ付テハ夫々宿舍へ申込置候モ尙其ノ後ニ於ケル御變更又ハ御發着日時日程順路等詳細ニ互リテハ直接宛御通報御用命相成候様致度

記

- 一、宿舍名 ..... (略圖添付)
- 一、所在地 .....
- 一、電話番号 .....

昭和五年十月十三日

兵庫縣廳内

兵庫縣大演習觀艦式事務委員部

各宿舍主宛

今回特別大演習觀艦式參列諸官宿舍ノ件ニ付過般來打合候處貴館ニ於ケル宿泊者別紙ノ通決定候ニ付テハ左記御舍ノ上不都合ナキ様特ニ御配意相成候様致度

記

- 一、宿泊者ノ神戸着、日時、日程、順路等詳細ニ互ル事項ハ至急貴館ヨリ先方へ直接問合セ迎送案内ノ方法ヲ執ラレタキコト
- 尙貴館宿泊者ニ對シテハ當係ヨリ先方へ其ノ旨通知シ置キタルニ付御含ミ置アリタシ
- 二、自動車等ノ要否ニ付テモ豫メ問合セ置キ之カ準備ニ遺漏ナキ様取計ハレタシ特ニ當日自動車ハ一時ニ多數ノ要求アリテ混雜ヲ來スノ虞アルニ付豫メ之ニ備フル様願度
- 三、滯泊中ハ萬事便宜ヲ與へ不都合ナキヲ期セラレタキコト
- 四、滯泊中ノ費用ハ一切宿泊者ヨリ直接仕拂ヲ受ケラルヘキ儀ナルハ勿論ナルモ爲念

(別紙)

宿泊者	官	職	氏	名	住	所
-----	---	---	---	---	---	---

車輛ニ付テハ、宿泊者ニ在リテハ其ノ宿舍主ヲシテ幹旋ヤシムルコトトセルモ、宿舍主ノミニ之ヲ任シ得サルニ依リ各係員ヲシテ宿舍内設備狀況視察ヲ兼ネ自動車準備狀況ヲ視察スルコト二回、其ノ都度注意ヲ爲スノ外共通ノ事項即チ左記注意事項ヲ印刷シ又稅關構内通行ニ要スル通行證ヲ交付スル等萬全ヲ期シタリ、尙宿泊者以外即チ旅館ノ幹旋ヲ要セサリシ諸官ニ對スル車輛ニ付テハ、降車驛及其ノ時刻並係ノ車輛準備事項等ヲ照會勞通知スル等、專ラ賜饌係ニ於テ幹旋シツツアリシモ途中陪觀係ニ移管シ賜饌係ヨリ應援共同シテ之カ幹旋ニ努メタリ

第二、料理ノ搬入

賜饌用、海軍大臣招待用料理及飲料ハ何レモ、式當日ノ前日即チ二十五日ニ各艦ニ搬入セサルヘカラス、其ノ時刻及搬入場所ニ付テハ各係員ハ料理請負人同伴數日前ニ於テ實地ニ付調査シ延刻ヲ爲スカ如キ事ナキヲ期スノ外、係長及予テ受持料理店ヲ定メタル係員ハ隨時其ノ料理店ニ付、調理狀況等ヲ視察シテ一齊ニ各艦ニ搬入セシムヘク專ラ之ニ意ヲ用ヒタル結果各店何レモ指定時刻前ニ各突堤ニ着シタリ、然ルニ時恰モ御召艦入港時ニシテ各艦皇禮砲ヲ發射セムトスルトキニ遭遇シタルヲ以テ、多少豫定ヨリ遅レテ各艦ニ搬入セリ。而シテ雨中ノ作業ナリシモ何等ノ事故ナク完全ニ搬入了了シ得タルハ各艦乗組員ノ助力ニ依ルモノ大ナルヘシト雖モ係員及料理店ノ協力一致ニ依ルカ亦大ナルモノアリト謂フヘシ。  
次テ海軍大臣招待用折詰辨當ニ在リテハ、當日早朝指定ノ場所時

刻ニ搬入セサルヘカラスニ依リ、前記各艦種込了スルト直ニ係員ハ折詰請負店ニ付進行狀況ヲ調査シ之カ督勵ヲ爲ス爲聖朝搬入時迄詰切リ夫々指定場所ニ誘導是亦完全ニ授受ヲ終リ以テ當日何等ノ支障ヲ來ササラシメタリ。

第三、餘 錄

既記ノ如ク係擔當事項ニ關シテハ、最善ノ努力ニ依リ何等ノ故障ヲ生セス豫期以上ノ好成绩ヲ以テ進捗シタルハ海軍當局ノ便宜供與或ハ連絡宜敷ヲ得タルト係全員一致協力ノ賜ナリト謂フヘキナリ  
今之カ實際ニ際シ困難又ハ便宜ヲ痛感セシ事項ヲ左ニ列舉シ將來ノ參考ニ資セム

1、困難ナル事項

宿舍申込ニ依リ各宿舍ニ割當テ宿舍ニ於テハ其ノ準備ヲ爲シ一般申込者ニ對シテハ拒絕シタルニ不拘、其ノ當日ニ至リ何等ノ通知ナク宿泊ナカリシ爲宿舍主ヨリ苦情申出アリタルモノ相當多數アリ

2、便利ナリシ事項

料理其ノ他ノ物品授受ニ付テハ、原則トシテ請負人ト海軍當事者直接ノ豫定ナリシモ責任上且事務ノ圓滑ヲ期セムカ爲、終始係員其ノ間ニ在リテ交渉幹旋ニ努メタル結果事務頓ニ進捗セリ  
第四、其ノ他

1、案内圖及汽車電車時間表ノ配布

賜饌者及其ノ他ノ陪觀者ハ、全國ヨリ來神セラルルニ依リ、神